

◎名演奏家

ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



リスト／交響詩《前奏曲》（レ・プレリュード）S.九七

金井 清

名演奏の徹底比較⑤

巨星が墜ち早くも六年。カラヤンの未発表音源は常に発売をまたれ、過去の演奏のCD化を望む声も断然強い。そのカリスマ的ともいえるカラヤンの魅力を、名演奏の徹底比較では、前回第II期の四回の短期連載につづいて深く考察していきたい。再開の第五回目は、リストの交響詩第三番《前奏曲》（レ・プレリュード）。今回の連載からは演奏の比較のみならず、プレス国別のサウンド比較や各種ジャケ

ットの紹介、また録音時期の周辺事情もからめて記してゆく。

カラヤンは別表のとおり《レ・プレリュード》を三回録音している。英コロムビアへ一回（後にEMIへ移行）、ドイツ・グラモフォンへ二回である。デッカとEMIへの録音はない。演奏はフィルハーモニア管とベルリン・フィルであり、ウィーン・フィルとの録音は残念ながら行なわれていない。①は一九五八年一月、英コロムビア制作の初期ステレオ録音であるが、当時イギリスではステレオ盤は発売されず、モノラル盤のみが発売された。英コロムビアのオリジナル・ステレオ盤が残されなかったことは大変残念なことである（カップリングの《ローマの松》、《ローマの謝肉祭》も同様）。この録音月のカラヤンは過密スケジュールのまっただなかで、まさに超人と呼ぶにふさわしい精力的な活動をしていた。ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ウィーン響、フィルハーモニア管の四つのオーケストラと計七回の演奏会とそのため

これらの演奏会とレコーディングとのつながりはないが、一ヶ月のうちに三都市で仕事をこなしているのである（ちなみに翌月から翌月にかけては、ベルリン・フィルとのヨーロッパ演奏旅行を行なった。特に二月二十五日はマチネでウィーン響とブルックナーの交響曲第九番をソワレではウィーン国立劇場で《フィガロの結婚》を上演している。①はそのさなかの十七日にロンドンのキングズウェイ・ホールで行なわれた録音である。②は六七年四月の録音で名演盤としてすでに高い評価をうけているのは周知のとおりである。この時期のカラヤンのレコーディングはほとんどがドイツ・グラモフォンのものであり、イエロー・レーベルカラヤン・サウンドといったイメージが徐々に浸透しはじめたころでもある。またこの年の四月にザルツブルク・イースター音楽祭を創設し、初年度を終えた直後にベルリンにもどつての録音セッションであったことを考えると、この演奏にはカラヤンのいままで以上に揺るぎない自信のほどが大きく反映されているはずである。③は八三年十二月のデジタル録音。ジルヴェスター・コンサートの数日前のセッションである。この年はブラーム生誕一五〇年にあたっており、四つの交響曲、《ドイッ・レクイエム》その

他がくり返し演奏、収録されている。また私財を投じて設立した映像会社「テレモンディアール」との収録作業や、ZDF（ドイツ第二放送）との共同制作が絡んでいたばかりの年でもあった。

演奏の比較にあたって《レ・プレリュード》を四つの部分に分けることにする。

①は開始の弦楽器のアインザッツから滑らかに緊張感の強調もなく自然体の演奏が展開されていく。Fも突出することなく幅の広さをみせ、②③と較べると重々しさはないが爽やかな明るさを感じさせる。これはカラヤンの意向というよりイギリスのオーケストラの特徴と見えよう。また、このころの録音にはヴァイオリンを左右に配したのも見うけられるが、



ヘルベルト・フォン・カラヤン

①②③ともに一般的な配置である。録音は米エングエル盤は柔らかい音で中音域も豊かだが鮮明さがいまひとつで腰が弱い。独エレクトローラ盤は鮮明でしつかりした音はよいのだが、ときとしてベルリン・フィルのような響きになるところが面白い。七インチ盤はカッティング・レヴェルが若干低い。英EMI盤は後になって発売されたものであるが、低音不足を除けばバランスがよく雰囲気もよくでている。オリジナルの英コロムビアのモノラル盤は、ステレオでないことを除けば、バランスのよい興行きのある上品な雰囲気実に素晴らしい。②になると雰囲気は一変する。オーケストラがベルリン・フィルになったことも大きな要因には違いないが、リズムや響きが重くなり、楽譜の指示に対しても積極性が強く反映されているので、おのずから彫りの深い表現になっている。また随所にみられるレガートや自信溢れる強い音楽も①とは大きく違うところである。録音は低音不足でFは平面的になるが、鮮明



① C 50545



② 2535 110



③ 445 550-2

さもあり、PP時の木管楽器の美しい響きや弦楽器の歯切れの良いところなどは、よく捉えられている。③は②をさらに昇華させたような演奏である。Fはよりシンフォニックに、PPはさらに繊細になっている。ホルンと弱音を装着したヴィオラにより奏される美しいメロディ（六九小節目から）や、その前の弦楽器のカンタービレなど②においても素晴らしいものであったが、③ではさらに洗練されたものになっている。軽やかに。感情を込め穏やかに」と、作曲者自身により書かれた指示そのものの演奏が感動的に展開されるさまは、すばらしいの一語に尽きる。録音はPP時の臨場感や遠近感がとても美しいが、Fになるマルチ・モノ・ホール・トーンのような音になるのがわずかながら残念だ。「人生の嵐」（二〇九〜一九九小節）風雲急を告げる緊迫感に溢れた部分だ。①は特に劇的な効果を狙ったものではなく、テンポもそれほど速くはなく中庸といったところか。一六六小節目のトランペットのアフタクトがどう

【ここでとりあげた3つのディスク】

- ①イギリス・コロムビア
フィルハーモニア。
1958年1月17日ロンドン、キングズウェイ・ホール
Pウォルター・レッグ
Eダグラス・ラーター／ロバート・ベケット
／ハロルド・ダヴィットソン
②33CX 1548 (58年10月発売)
③RL 3041 (59年5月発売)
- ②ドイツ・グラモフォン
BPO
1967年4月14〜17日ダーレム、イエス・クリスト教会
Pオットー・ゲルデス
Dハンス・ヴェーパー
Eギュンター・ヘルマンズ
④SLPM 139 037 (68年6月発売)
⑤SMG 2048 (68年11月発売)
- ③ドイツ・グラモフォン
BPO
1983年12月28〜31日、1984年1月24日、30日、2月24日ベルリン、フィルハーモニーザール
Pミシェル・グロツ
Dミシェル・グロツ
Eギュンター・ヘルマンズ
④413 587-2 (84年9月発売)
⑤28MG 0734 (84年9月発売)

いうわけが演奏されていない。②は緊張感にあふれた演奏でテンポも速い。クレッシェンドも克明に表現され弦楽器のうねる様子はまさに嵐のようだ。CDではドイツ盤、国内盤ともに歪感が少ないのはよいのだが、LPに聴かれるような音圧感と生々しさは望めない。国内盤LPは鮮明さ、実在感の点でドイツ盤に及ばない。③はよく磨かれた演奏で緊迫感、シンフォニックな響きともに申し分ない。速めのテンポですすめられるが、粗雑さはまったく感じられない美しいものである。

る。全体的にティンパニのバランスが弱いのが残念だ。ドイツ盤LP、CDともに音の差はあまりないが、それはこのディスクに限ったことではなく八〇年代以降のものに共通してみられる傾向である。「自然の静寂の中の慰め」（二〇〇〜二四三小節）①は明るく穏やかな雰囲気心地よい。作家的な表現はまったく感じられず、次の部分への盛り上がりも自然だ。②はツェラー、コッホ、ライスターらのソロの美しさが光る。後半は息詰まるほどの迫力ですすんでいく。③は②以上に洗練された演奏で、後半へ向けてのアツチエランドは①②ではみられなかったものであり、カラヤンのディスクでも珍しい例だ。「戦い、そして勝利」結（三四四〜四一九小節）①では今まで同様無理のない音楽のすすめ方で颯爽と曲を締めくくる。全体的に切迫した音楽作りは感じられないが、堂々とした雰囲気絶えずあるのは、多忙なかたにありながらも、気力が充実していた当時のカラヤンの自信のあらわれとも感じられる。②はめりはりの利いた高い完成度を



もった演奏である。力強さも印象的で各場面の演出もたいへん説得力がある。終結部の金管のアカコードに若干の変更がみられるが、このような例はベルリン・フィルではオーケストラの伝統を踏襲する場が多く、カラヤンの意向ではないはずだ。音楽的表現やテンポについては非常に細かい注文を出すカラヤンであるが、このような伝統的奏法やレコーディング時の奏者のミスについては、全体的雰囲気や損なうものでない限り、そのテクニックを尊重することは以外に知られていない事実である。よく、カラヤンは完璧を期するために出来のよいテイクだけを集め、つぎはぎだらけの編集でレコードを制作していると、まことしやかにいわれることがあるが、これはまったく事実とは違ひ遺憾としか言いようがない。③も高い完成度を持った演奏で、各場面の表現力の見事さは②以上ともいえる。緊張感と壮麗さを合わせもった名演だ。三七八小節目の「ピウ・マエストロ」でテンポを落とし壮麗さを高めている点①②ではみられないが、非常に効果的である。③は好き嫌いはあるだろうが、ベルリン・フィルの好演と合わせ、「レ・プリュード」のベストのひとつであることとを認めざるを得ない。カラヤンは標題音楽をたいへん得意としているが、「レ・プリュード」もそのなかのひとつといえるだろう。もしも映像の記録や、ウィーン・フィルとの共演が残されていればさらに興味深い比較ができたと思うが、それらのものが残されていないのはまことに残念である。

ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 (資料提供: D.C.ランボン(英), 鈴木泰司, 金井清)

[ディスコグラフィ記載方法]

- 記載順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー(P)、ディレクター(D)、レコーディング・エンジニア(E)、マトリックス番号(M)、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。また、(EP)はエグゼクティブ・プロデューサー、(R)はレコーディング、(C)はコーディネーション、(MX)はミキシングを、日付のあとに(L)はライブ録音・録画を表す。
- 曲目の前の[V]は映像作品を示し、ライブ映像を除いて同一収録年月日のCDとLDは各々項目を分けて掲載した。外国盤の再生方式(PAL/NTSC等)は、レコード番号のあとに記した。
- 配列は初出のアルバムのもっと早い収録日によっており、発売順とは一致しない。収録年月日は録音・録画に要した日付であり、実際には使われていないテイクも含んでいる。また、日にちが詳しく発表されていないデータは、年月でとどめた。
- レコード番号は、LP、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごとに発売順に並んでいる。
- アルバムのなかでは、①②③の曲順番号を便宜上つけて各々のデータを分けた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲順番号を記したが、必ずしも収録順序を示してはいない。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは、[ハイライト]・[部分]としたが、各々のLPやCDでの収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末の「新譜CD & LD一覧表」のものを使用している。

ゲルノ)、ジャネット・ペリー(S: バグナー)、アンナ・トモワ=シントウ(S: 第1の侍女)、アグネス・バルツァ(Ms: 第2の侍女)、ハンナ・シュヴァルツ(A: 第3の侍女)、クラウディオ・ニコライ(Bs: 弁者)、ハイナ・ホプフナー(T: 第1の僧)、レオポルト・ヴァレンツァ(Bs: 第2の僧)、ウィル・ケットフリーク(台詞)、ハインツ・クルーゼ(T: モノスタートス)、ヴォルフガング・ビュンテン(B-S: 第1の童児)、クリスティアン・シュルツ(B-S: 第2の童児)、トビアス・ブフェール(B-S: 第3の童児)、フォルカー・ホーン(T: 第1の武士)、ヴィクター・フォン・ハーレム(B: 第2の武士)、ベルリン・ドイツ・オペラcho., ウルター・ハーゲン=グロル(合唱指揮)、ウィル・ケットフリーク(ダイアログ演出)、ベルリンpo.

▶1980年1月20~25日, 28日, 4月14日
ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギンター・ブレスト

□ミシェル・グロツ

□ギンター・ヘルマン

M2560 001-3

●LP: 78MG 9209-12, 78MG 0453-5

CD: F90G 50195-7

[序曲]

LP: 15MG 0267

CD: F26G 29003

[ハイライト]

CD: F35G 50317, POCG 3059

[部分]

CD: F20G 29054, F26G 29003

CD: F00G 50208-11, POCG 2879-82
[部分]

CD: POCG 9440

●LP: 2741 002

CD: 413 347-2

[ハイライト]

LP: 2532 033

※カラヤン初のデジタル録音盤。レコード番号、発売年月日ともに次のモーツァルト/《魔笛》が先になるが、この《バルジファル》の録音が前に行なわれている。



▲2741 022(ワグナー: 舞台神聖祝典劇《バルジファル》)

●モーツァルト/歌劇《魔笛》K.620

■ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs: ザラストロ), カーリン・オット(S: 夜の女王), エディット・マティス(S: パミーナ), フランシスコ・アラヤ(T: タミーノ), ゴットフリート・ホニーク(Br: パパ

●ワグナー/舞台神聖祝典劇《バルジファル》

■ジョゼ・ヴァン・ダム(Br: アンフォルタス), ヴィクター・フォン・ハーレム(Bs: テイトウレム), クルト・モル(Bs: グルネマンツ), ベーター・ホフマン(T: バルジファル), ジークムント・ニムスゲルン(Bs: クリグゾル), ドウニャ・ヴェイソヴィチ(S: クンドリー), クラウディオ・H・アーショウ(T: 騎士I), クルト・リドル(T: 騎士II), マーリオン・ランブリクス(S: 小姓I), アンネ・ジーヴァンク(S: 小姓II), ハンナ・ボプフナー(S: 小姓III), ジョージ・ディッキー(T: 小姓IV), パーバ・ヘンドリックス(S: グループI-1), ジャネット・ペリー(S: グループI-2), ドリス・ゾッフェル(S: グループI-3), インガー・ニールセン(S: グループII-1), オードリ・ミッチェル(S: グループII-2), ロハンギス・ヤシュメ(A: グループII-3), ハンナ・シュヴァルツ(A: アルト・ソロ), ベルリン・ドイツ・オペラcho., ウルター・ハーゲン=グロル(合唱指揮), ベルリンpo.

▶1979年12月4~7日, 10~12日, 27~29日, 1980年1月2~4日, 4月15日, 7月1日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギンター・ブレスト

□ミシェル・グロツ

□ギンター・ヘルマン

M2560 004-8

●LP: 00MG0086-90



~23), F35G 50164(①~⑦), F3
5G 50165(⑧~⑮), F26G 29001
(⑧), F30G 20166(⑦), F00G 27
003(①/②/⑤/⑦~⑮/⑮/⑮)
/23), POCG 2061(③), POCG 2
062(⑤), POCG 2063(②), POC
G 2064(⑫), POCG 2065(⑮), P
OCG 1243(⑮~⑲), POCG 12
68(①~⑦), POCG 1269(⑧~
⑮), POCG 2641(⑮), POCG
7006(①~③/⑤/⑮/⑮/⑮/⑮)
/23)

⑧LP: 2741 003, 2532 025(⑮~⑲), 25
32 026(①~⑦), 2532 027(⑧~
⑮), 2532 006(④/⑤/⑦), 2741
008(⑮~⑲), 2560 061(⑮)
CD: 400 026-2(⑮~⑲), 410 022-2
(①~⑦), 410 027-2(⑧~⑮), 4
15 340-2(⑧), 427 909-3(①/②/③),
439 690-2(⑮), 423 803-2(⑧),
419 735-2(⑮)

※⑤⑦~⑮はM.シェーンヘルによって編曲さ
れている。



▲2741 003(J.シュトラウス/ワルツ・ホルカ集)

⑧ハイドン/バリ・セット(①交響曲第82
番八長調(熊)②第83番ト短調(牝鶏)③
第84番変ホ長調④第85番変ロ長調《王
妃》⑤第86番二長調⑥第87番イ長調)

■ベルリンpo.

▶1980年6月15日, 6月29日~7月1日,
9月30日ベルリン, フィルハーモニー
ザール

⑧ギンター・ブレスト

⑨ミシェル・グロツ

⑩ギンター・ヘルマン

M2560 013-5

⑧LP: 78MG 0200-2

CD: POCG 2042-4

①

LP: 28MG 0253

②

LP: 28MG 0604

③

LP: 28MG 0448

④

LP: 28MG 0448

⑤

LP: 28MG 0604

⑥

LP: 28MG 0253

⑧LP: 2741 005

CD: 419 741-2, 445 532-2

①

LP: 2532 037, 2560 028, 2543 028,
2720 111, 2741 008

②

LP: 2532 039, 2741 008

③

LP: 2532 038

④

▶1980年6月10日, 12~13日, 9月30日
ベルリン, フィルハーモニーザール

⑧ギンター・ブレスト

⑨ミシェル・グロツ

⑩ギンター・ヘルマン

M2532 006

⑧LP: 28MG 0120

CD: F35G 50144

①

LP: 15MG 0267

CD: F26G 29001, POCG 2065

②

LP: 15MG 0267

CD: F26G 29001, F32G 20100, POCG
2064

⑧LP: 2532 006, 2741 008

CD: 400 044-2

①

LP: 2560 061, 419 469-1

CD: 415 340-2, 431 160-2

②

LP: 2560 061, 419 469-1

CD: 415 340-2, 419 406-2, 431 160-
2, 423 803-2



▲2532 006(オフエンバック/序曲集)

⑧J.シュトラウス/ワルツ・ホルカ集

(①皇帝円舞曲作品437②トリッチ・ト
ラッチ・ホルカ作品214③ワルツ(南国
のバラ)作品388④喜劇《ジプシー男
爵》序曲⑤アンネン・ホルカ作品117⑥
ワルツ《酒・女・歌》作品333⑦ホルカ
《狩り》作品373⑧J.シュトラウスI/
ラデツキー行進曲作品228⑨ヨーゼフ・
シュトラウス/ワルツ《天体の音楽》作
品235⑩常動曲作品257⑪ヨーゼフ・
シュトラウス/ワルツ《うわごと》作
品212⑫ワルツ《ウィーンの森の物語》
作品325⑬《こうもり》より《カドリーユ》
作品367⑭ワルツ《ウィーン気質》作
品354⑮オブレオン行進曲作品158⑯ワ
ルツ《美しく青きドナウ》作品314⑰ホル
カ《ハンガリー万歳》作品332⑱加速
度円舞曲作品234⑲ベルシャ行進曲作
品289⑳歌劇《こうもり》序曲㉑ホルカ
《浮気心》作品319㉒ワルツ《芸術家の生
涯》作品316㉓ホルカ《雷鳴と電光》作
品324)

■ヨーゼフ・ハウスマン(ツィター/⑫),
ベルリンpo.

▶1980年6月13~15日, 9月29~30日,
12月4日ベルリン, フィルハーモニー
ザール

⑧ギンター・ブレスト

⑨ミシェル・グロツ

⑩ギンター・ヘルマン

M2560 010-3

⑧LP: 78MG 0136-8, 28MG 0237(⑮~
⑲), 28MG 0243(①~⑦), 28MG
0249(⑧~⑮), 15MG 0267(⑮)

CD: POCG 2055-7, F35G 20049 (⑮)

⑧LP: 2741 001

CD: 410 967-2

(序曲)

LP: 2560 061

CD: 415 341-2

[ハイライト]

LP: 2532 004

CD: 415 287-2

(部分)

CD: 427 033-2, 415 341-2



▲2532 004(モーツァルト:歌劇《魔笛》[ハイライト])

⑧ワグナー/舞台神聖祝典劇《パルジ
ファル》より(第1幕前奏曲)

■ベルリンpo.

▶1980年3月30日ザルツブルク, 祝祭大
劇場

⑧CD: LCB 130

※ザルツブルク・イースター音楽祭初日の上
演より(第1幕前奏曲)だけがとられている。

⑧ヴェルディ/歌劇《ファルスタッフ》

■ジュゼッペ・タディ(Br: ファルスタ
フ), ローランド・パネライ(Br: フ
ォード), フランシスコ・アラヤ(T:
フェント), ピエロ・デ・バルマ(T:
医師カイウス), ハインツ・ツェドニ
ク(T: バルドルフ), フェデリコ・
ダヴィア(Bs: ピストラ), ライナ・カ
ヴァイヴァンスカ(S: フォード夫人),
ジャンネット・ベリー(S: ナンネッタ),
クリスタ・ルーツヴィヒ(Ms: クイ
ックリー夫人), トウルデリーゼ・シュミ
ット(Ms: ペイジ夫人), ウィーン国立
歌劇場cho., ワルター・ハーゲン=グ
ロル(合唱指揮), ウィーンpo.

▶1980年5月27~31日ウィーン, ムジ
ックフェラインザール

⑧ギンター・ブレスト

⑨ミシェル・グロツ

⑩ギンター・ヘルマン

M9500 923-5

⑧LP: 26PC 1-3

CD: 35CD 84-5, 35CD 551-2, PHCP
707-8

⑧LP: 6769 060

CD: 412 263-2

[ハイライト]

LP: 411 423-1

CD: 411 423-2

※フィリップス・レーベルでの発売であるが、
録音はドイツ・グラモフォンのチームによっ
て行われた。

⑧オフエンバック/①歌劇《天国と地
獄》序曲②《青ひげ》序曲③《ジェロ
ルスティン大公妃殿下》序曲④《美し
きエレナ》序曲⑤《ヴェル・ヴェル》
(緑のおおむ)序曲⑥《ホフマン物語》
より《舟歌》

■ベルリンpo.

- ・ロンキーニ(A:母親ゲルトルーナ), リタ・シュトライト(S:眠りの精/暁の精), ローマ放送cho., ロベルト・ベナーリオ(合唱指揮), ローマ放送so.
- ▶1954年12月10日ミラノ, スカラ座
- ⑧CD: DATUM DAT12314
- ※イタリア語による上演のライブ録音。

⑩モーツァルト/①ピアノ協奏曲第20番二短調K.466 ②交響曲第39番変ホ長調K.543

- クララ・ハスキル(p/①), フィルハーモニアo.
- ▶1956年1月28日ザルツブルク, モーツァルトフェスティバル大ホール
- ⑩エルンスト・ヒンライナー
- ⑩ヨーゼフ・ズラートコ
- ⑧CD: ISM 56/4

※モーツァルト生誕200年の年にはじまった「モーツァルト週間」のオーストリア放送協会によるライブ録音。1995年になってザルツブルク国際モーツァルト財団によってCD化された。なお、この日は協奏曲の前に「ディヴェルティメント第15番」が演奏されている。この公演を皮切りにハスキルとフィルハーモニア管弦楽団でモーツァルト・プログラムによる欧州ツアー(2月6日まで9公演)を行なっている。

⑩ヴェルディ/歌劇《オテロ》

- ジョン・ヴィッカーズ(T:オテロ), ビーター・グロツツ(Br:ヤゴ), ミレラ・フレニ(S:デズデモナ), レイナート・デュヴィス(T:カッシオ), ハンス・ペーグマン(T:ロドリゴ), ルイジ・ロニー(Br:ロドリゴ), ジークフリート・ルドルフ・フリーズ(Bs:モンターノ), ステファニア・マラゲ(Ms:エリミア), ヘルゲ・ベームヒエス(Bs:伝令), ウィーン国立歌劇場cho., フルター・ハーゲン=グロル(合唱指揮), ザルツブルク音楽祭室内cho., ウィーンpo.
- ▶1971年7月30日ザルツブルク, 祝祭大劇場
- ⑧CD: MEMORIES HR 4533-4

⑩モーツァルト/歌劇《魔笛》

- ペーター・メーヴェン(Bs:ザラストロ), ルネ・コロ(T:タミーノ), ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs:弁者), アルフ・バイネル(T:第1の僧), ハンス・クリスティアン(T:第2の僧), エディ・グルペローヴァ(S:夜の女王), エディ・マティス(S:パミーナ), ジェーン・マーシュ(S:第1の侍女), トルデリゼ・シュミット(Ms:第2の侍女), シルヴィア・アンダーソン(Ms:第3の侍女), ヘルマン・プライ(Br:パパゲーノ), レリ・グリスト(S:パパゲーナ), ゲルハルト・ウンガ(T:モノスタートス), マルティン・ジョンベルク(T:第1の武士), マルティン・エーゲル(Br:第2の武士), テルツ少年cho., ウィーン国立歌劇場cho., ウィーンpo.
- ▶1974年7月26日ザルツブルク, 祝祭大劇場
- ⑧CD: Arkadia KAR 233.2

(訂正) 75年9月のブルックナー:《テ・デウム》の⑧CD: 429 980-2を削除いたします。また、75年の[VHD]: VMD 681 07のジャケット写真の下の方グナー/楽劇《ニルンベルクのマイスタージンガー》第1幕への前奏曲 他の部分を削除いたします。

セレナード木長調作品22

- ベルリンpo.
- ▶1980年9月22~23日ベルリン, フィルハーモニーザール
- ⑩ギンター・ブレスト
- ⑩ミシェル・グロツツ
- ⑩ギンター・ヘルマンズ
- M2532 012
- ⑧LP: 28MG 0204
- CD: F35G 50079, F35G 21024, POCG 1159

- ①
- CD: POCG 7046
- 〔①の第2楽章〕
- CD: F26G 29001, F32G 20100, POCG 2065
- 〔②の第1楽章〕
- CD: POCG 2064
- ⑧LP: 2532 012
- CD: 400 038-2
- ①
- CD: 431 601-2, 431 605-2
- 〔①の第2楽章〕
- CD: 415 340-2, 419 406-2, 427 908-3, 447 337-2

⑩R.シュトラウス/①メタモルフォーゼンAV.142 ②交響詩《死と変容》(死と浄化)作品24

- ベルリンpo.
- ▶1980年9月25日(①), 1982年1月(②)ベルリン, フィルハーモニーザール
- ⑩ギンター・ブレスト
- ⑩ミシェル・グロツツ
- ⑩ギンター・ヘルマンズ
- M2532 074
- ⑧LP: 28MG 0570
- CD: F35G 50139, POCG 2050-4, POCG 1270
- ⑧LP: 2532 074
- CD: 410 892-2
- ②
- CD: 410 839-2



▲2532 074(R.シュトラウス:メタモルフォーゼン&交響詩《死と変容》)

補追・訂正

休業期間中、以下のCDが新たに発売または存在が確認されましたので補追いたします。併せて訂正・削除も掲載いたします。

⑩フンパーディンク/歌劇《ヘンゼルとグレーテル》

- セーナ・ユリナッチ(S:ヘンゼル), エリーザベト・シュヴァルツコップ(S:グレーテル), ロラント・パネライ(Br:父親ペーター), ヴィットーリア・パロンビーニ(Ms:魔女), ブルーナ

LP: 2532 038, 2543 028, 2560 028, 2720 111

- ⑤
- LP: 2532 039
- ⑥
- LP: 2532 037

⑩ヴェルディ/歌劇《アイダ》より《清きアイダ》

- ホセ・カレーラス(T:ラダメス), ウィーンpo.
- ▶1980年7月31日ザルツブルク, 祝祭大劇場
- ⑧LP: 120 543
- ※ザルツブルク音楽祭制作の80年度のライブ・ハイライトLPに収録されている部分。毎年このようなディスクがあるのかどうかは不明である。

⑩ベートーヴェン/①ヴァイオリン協奏曲二長調作品61(リハーサル風景) ②ヴァイオリン協奏曲二長調作品61

- アンネ・ゾフィー・ムター(vn), ヨーロッパ・コミュニティ・ユースo.
- ▶1980年8月12日ザルツブルク, 祝祭大劇場(②)
- 監督: フランソワ・ライヒェンバッハ
- 制作: アンテナ2(フランス)
- ⑧LD: TOLW 3533
- ※リハーサル風景ともにモノラル音声である。



▲TOLW 3533(ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲)

⑩ショパン/ピアノ協奏曲第2番へ短調作品21

- クリスティアン・ツィマーマン(p), ベルリンpo.
- ▶1980年9月1日ルツェルン, クンストハウス
- ⑧CD: EXCLUSIVE EX29T41

⑩ブルックナー/交響曲第3番二短調(1888~89年版)

- ベルリンpo.
- ▶1980年9月20~21日ベルリン, フィルハーモニーザール
- ⑩ギンター・ブレスト
- ⑩ミシェル・グロツツ
- ⑩ギンター・ヘルマンズ
- M2532 007
- ⑧LP: 28MG 0118, 00MG 0401-11
- CD: F35G 50163, POCG 2033-41, POCG 1387
- ⑧LP: 2740 264, 2532 007
- CD: 413 362-2, 429 648-2, 429 677-2

⑩①チャイコフスキー/弦楽セレナード八長調作品48 ②ドヴォルザーク/弦楽

◎名演奏家
ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



金井 清

モーツァルト／セナード第三番ト長調K五二五『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』

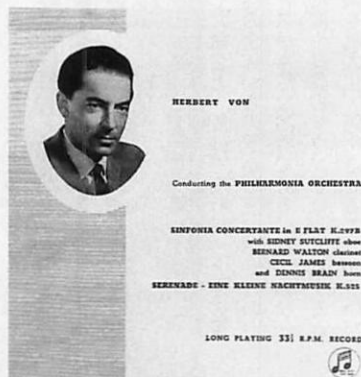
名演奏の徹底比較⑥
カラヤンが録音したモーツァルトのセナード『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』は別表のとおり五種類であるが、SP、LPモノラル、ステレオ、デジタル録音と、各々の時代に録音がなされている点がまず目にとまる。①はVPOとともにイギリス・コロンビアへ行った戦後まもなくの録音で、いわゆる、カラヤンが音楽活動を今後行なっていくうえで大変微妙な立場におかれていたころの

録音である。占領軍の命令によりすべての音楽活動を制限されていたカラヤンにとっては、「帝王」の座はおろか、明日をも知れぬわが身であったに違いない。録音当時の一九四六年九月からは、この録音セッションにも携わっている録音プロデューサーのウォルター・レググ(②③)も彼との録音である」の尽力もあり、レコーディングを再開した戦後のカラヤンによりやく光がさしてきたところといつてもよいであろう。そのようなことを考えながらこの演奏を聴くと、感慨深いものを感じずにはいられない。②は一九五三年十一月、フィルハーモニア管との演奏録音は同じくイギリス・コロンビア。当時カラヤンはフィルハーモニア管とベートーヴェンの第一回になる「交響曲全集」のほか多数の録音セッションを行なっていて、そのなかのデニス・ブレインをソリストとして迎えて行なわれた、モーツァルトの「ホルン協奏曲全集」も忘れることのできない名演である。③はBPOでイギリス・コロンビアとの録音はジルヴェスターにかけて行なわれている。この年はVPOとの海外演奏旅行を含む公演が非常に多く、録音当時もウィーンから戻ったばかりであった。カラヤンはこの録音を終えると休む暇もなく、翌々日からのウィーンでの公演のため、ベル



① LW 103

リンを後にしている。④はBPOとともに行なわれた一九六五年八月の録音。ザルツブルク音楽祭の合間にスイスのサン・モリッツで録音されている。当時はこの録音も含め、ほとんどの録音がドイツ・グラモフォンのものであった。⑤はデジタル録音でBPOとのもの。録音場所は本拠地でもあるフィルハーモニーとなっている。当時かなりの曲がドイツ・グラモフォン、EMIを中心に集約的かつ精力的に録音されているが、これら複数の録音セッションを同時に進めていたカラヤンの音楽には、老いの影すら見いだすことができない。



② 33CX 1178

ヴァイオリンの高音域の艶のある甘い音色はまさにVPOのものである。力強さも感じられる演奏で、ときにフレーズの語尾が高くなるのが印象的だ。戦禍が過ぎ去った直後でもあり、失われた団員もいるはずだが、そういった暗さはまったくなくカラヤンも自身の立場などまったく意に解さぬかのように、演奏されている。主題提示部のリピーターは省略されている。全曲を通して長い音が膨らみ味に演奏され独特の雰囲気を出している。②大変爽やかな感じで演奏されている。上品なところもフィルハーモニア管ならではのといえよう。①のような音の膨らむ傾向はここではみられず、低音域のバランスは①よりも控えめになっている。①同様提示部のリピーターは行なわれて

に對する積極性がさらに増し、ディテールは行なわれている。④は今までのものより速めで、雰囲気もかなり異なる。アインザッツも以前の演奏とはまったく違い、精悍に音楽を進めていくカラヤンの姿に氣力の充実を感じられる。①③にみられた音を膨らませることはなくなり、どちらかといえば直線的だ。オーケストラの配置は通常のものとなり、提示部のリピーターも行なわれている。⑤では演奏

に對する積極性がさらに増し、ディテールは行なわれている。④は今までのものより速めで、雰囲気もかなり異なる。アインザッツも以前の演奏とはまったく違い、精悍に音楽を進めていくカラヤンの姿に氣力の充実を感じられる。①③にみられた音を膨らませることはなくなり、どちらかといえば直線的だ。オーケストラの配置は通常のものとなり、提示部のリピーターも行なわれている。⑤では演奏



③ SAX 2389

〔ここでとりあげた5つのディスク〕

① イギリス・コロムビア

VPO

1946年10月21〜22日ウィーン、ブラームスザール

Pウォルター・レッグ

Eダグラス・ラター

⑧ LX 1293-4

⑨ ZE 10-11 (53年2月発売)

② イギリス・コロムビア

フィルハーモニア o.

1953年11月18日ロンドン、アビーロードEMI

第1スタジオ

Pウォルター・レッグ

Eダグラス・ラター

⑩ 33CX 1178 (54年11月発売)

⑪ EAC 37001-19 (79年6月発売)

③ イギリス・コロムビア

BPO

1959年12月30〜31日ベルリン、グリューネヴァルト教会

Pウォルター・レッグ

Eクリストフリート・ビッケンバッハ/ホルスト・リントナー

⑫ SAX 2389 (60年12月発売)

⑬ OS 3048 (62年1月発売)

④ ドイツ・グラモフォン

BPO

1965年8月19〜21日サンモリッツ、ヴィクトリアザール

Pオットー・ゲルデス

Dオットー・エルンスト・ヴォーラート

Eギンター・ヘルマンズ

⑭ SLPM 139 004 (66年4月発売)

⑮ SLGM 1337 (66年6月発売)

⑤ ドイツ・グラモフォン

BPO

1981年1月28日, 30日, 2月20日, 23〜24日ベルリン、フィルハーモニーザール

Pギンター・プレースト

Dギンター・プレースト

Eギンター・ヘルマンズ

⑯ 2532 031 (82年3月発売)

⑰ 28MG 0242 (82年6月発売)

①はたいへんおもしろい。アインザッツ、音楽ともに強靱すぎるくらいだ。提示部のリピーターも③④同様行なわれているが、反復時の冒頭のトゥッティなどはすごい迫力だ。〔第二章 ロマンツェ(アンダンテ)〕

音楽にも癖がなく、情感に流されずすすめていくのは①同様である。③は音楽のよく流れるところや音色の美しさは①②同様だが、感傷的な雰囲気や漂っている。どこか現実離れた響きがあり、夢想的な気分がロマンツェ全体を支配しているのが印象的だ。④は情緒に流されることがなく、構築的な音楽が展開されるところが③とは異なるが、このような大きな変化には驚かされるものがある。カラヤン流の新しい「純音楽的表現」とも呼べるであろう。⑤は五つの録音のなかでも



③ SLPM 139 004



③ 2532 031

②は爽やかでスタンダードなものだが、実はたいへん高い完成度をもった演奏である。フィルハーモニア管の美観がおおいに発揮され、好演をしている。③はBPOの流麗な音がまことに美しい。トリオはメランコリックな雰囲気や包まれ、独特な世界を形成している。④は重めのしつかりしたリズムで演奏されている。トリオにおいても極端にテンポを落としたり、表情に変化を与えたりはしていない。⑤は④よりさらに重いリズムのメヌエットだ。トリオの反復では強弱に変化

つとも速いもので、音楽は淀みなくすすむ。④をさらにすすめたものといえる。感傷的にならないのは④同様であるが、媚びのない純音楽的表現のなかにモーツアルトの「センチメンタル」な音楽が逆に浮かび上がってくるのが興味深い。〔第三章 メヌエット(アレグレット)〕



を与えて彫りの深い演奏になっているが、やや人工的でもある。

【第四章】 ロンド(アレグロ) ①長い

音を膨らますように演奏するのは同様であるが、たいへん音楽的で楽しい。もしも録音状態さえ良ければ同曲の決定盤となったであろう、とても魅力的な演奏だ。

②は若干分析的にも聴こえるが、清々しく気持ちの良い演奏だ。③は前奏の独特な雰囲気がある。④は前奏の独特な雰囲気がある。⑤は前奏の独特な雰囲気がある。

⑥は前奏の独特な雰囲気がある。⑦は前奏の独特な雰囲気がある。⑧は前奏の独特な雰囲気がある。

⑨は前奏の独特な雰囲気がある。⑩は前奏の独特な雰囲気がある。⑪は前奏の独特な雰囲気がある。

⑫は前奏の独特な雰囲気がある。⑬は前奏の独特な雰囲気がある。⑭は前奏の独特な雰囲気がある。

⑮は前奏の独特な雰囲気がある。⑯は前奏の独特な雰囲気がある。⑰は前奏の独特な雰囲気がある。

⑱は前奏の独特な雰囲気がある。⑲は前奏の独特な雰囲気がある。⑳は前奏の独特な雰囲気がある。

㉑は前奏の独特な雰囲気がある。㉒は前奏の独特な雰囲気がある。㉓は前奏の独特な雰囲気がある。

㉔は前奏の独特な雰囲気がある。㉕は前奏の独特な雰囲気がある。㉖は前奏の独特な雰囲気がある。

㉗は前奏の独特な雰囲気がある。㉘は前奏の独特な雰囲気がある。㉙は前奏の独特な雰囲気がある。

㉚は前奏の独特な雰囲気がある。㉛は前奏の独特な雰囲気がある。㉜は前奏の独特な雰囲気がある。

㉝は前奏の独特な雰囲気がある。㉞は前奏の独特な雰囲気がある。㉟は前奏の独特な雰囲気がある。

㊱は前奏の独特な雰囲気がある。㊲は前奏の独特な雰囲気がある。㊳は前奏の独特な雰囲気がある。

㊴は前奏の独特な雰囲気がある。㊵は前奏の独特な雰囲気がある。㊶は前奏の独特な雰囲気がある。

㊷は前奏の独特な雰囲気がある。㊸は前奏の独特な雰囲気がある。㊹は前奏の独特な雰囲気がある。

ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 (資料提供: D.C.ランボン(英), 鈴木泰司, 金井清)

【ディスコグラフィ記載方法】

- 記載順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー(〔P〕)、ディレクター(〔D〕)、レコーディング・エンジニア(〔E〕)、マトリックス番号(〔M〕)、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。また、〔E〕はエグゼクティブ・プロデューサー、〔R〕はレコーディング、〔C〕はコーディネーション、〔Mx〕はミキシングを、日付のあとに(〔L〕)はライブ録音・録画を表す。
- 曲目の前の〔V〕は映像作品を示し、ライブ映像を除いて同一収録年月日のCDとLDは各々項目を分けて掲載した。外国盤の再生方式(PAL/NTSC等)は、レコード番号のあとに記した。
- 配列は初出のアルバムのもっと早い収録日によっており、発売順とは一致しない。収録年月日は録音・録画に要した日付であり、実際には使われていないディスクも含んでいる。また、日にちが詳しく発表されていないデータは、年月でとどめた。
- レコード番号は、LP、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごとに発売順に並んでいる。
- アルバムのなかでは、①②③の曲順番号を便宜上つけて各々のデータを分けた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲順番号を記したが、必ずしも収録順序を示してはいない。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは、〔ハイライト〕・〔部分〕としたが、各々のLPやCDでの収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末の「新譜CD & LD一覧表」のものを使用している。

M 270 407

LP : EAC 90315
CD : TOCE 5984-7

①

CD : TOCE 7038

LP : EL 270 407-1

CD : CMS 763 321-2

①

CD : CDM 763 896-2

②

CD : CMS 764 563-2

●オペラ間奏曲・序曲集(①マスネ/歌劇「タイス」より(瞑想曲)②ケルビーニ/歌劇「アナクレオン」序曲③ウェバー/歌劇「魔弾の射手」序曲④シュミット/歌劇「ノートル・ダム」序曲⑤ブッチェニ/歌劇「修道女アンジェリカ」序曲⑥「マノン・レスコー」間奏曲⑦マスカーニ: 歌劇「友人フリッツ」間奏曲⑧フンパーディンク/歌劇「ヘンゼルとグレーテル」序曲)

■アンネ・ゾフィー・ムター(vn. ①), ベルリンポ。

▶1980年11月16~17日, 1981年1月1~3日(①)ベルリン, フィルハーモニーザール

●ミシェル・グロツ

●ヴォルフガング・ギューリヒ

M 103 973

LP : EAC 90048, EAC 99008

CD : CC38 3012, CC28 99008, CC28 3824, TOCE8928

①

CD : CE25 5993

●ミシェル・グロツ

●ヴォルフガング・ギューリヒ

M 43 040

LP : EAC 90047, EAC 47293-5, EAC 99005

CD : CC38 3005, CC28 99005, CE28 5185, CE25 5653, TOCE 7018, C E20 5413-4

LP : 1C 067 43 040, 2C 069 43 040, ASD 4060, DS 37816

CD : CDM 769 243-2



▲DS 37816(シベリウス:交響曲第2番)

●シベリウス/①交響曲第6番②短調作品104③劇音楽「クオレマ」より(悲しきワルツ) 作品44-1

■ベルリンポ。

▶1980年11月16~20日ベルリン, フィルハーモニーザール

●ミシェル・グロツ

●ヴォルフガング・ギューリヒ

●①メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲水短調作品64②ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲第1番③短調作品26

■アンネ・ゾフィー・ムター(vn), ベルリンポ。

▶1980年9月26~28日ベルリン, フィルハーモニーザール

●ギンター・ブレスト

●ミシェル・グロツ

●ギンター・ヘルマン

M 2532 016

LP : 28MG 0184

CD : F35G 50033, F35G 21038, POCG 1136, POCG 9049-50

①

CD : F26G 29025, POCG 7019

〔①の部分〕

CD : POCG 9440

〔②の第2楽章〕

CD : F32G 20100

LP : 2532 016, 2740 282, 2741 008, 4 15 565-1, 419 806-1

CD : 400 031-2, 415 565-2

①

LP : 2543 025, 2720 111

CD : 423 211-2, 423 555-2, 429 371-2, 445 515-2

〔②の第2楽章〕

CD : 419 406-2

●シベリウス/交響曲第2番②長調作品43

■ベルリンポ。

▶1980年11月16~17日ベルリン, フィルハーモニーザール



- ④
CD : POCG 2062, POCG 2641
⑤ LP : 2532 019
CD : 400 028-2, 435 289-2, 439 011-2
①
LP : 2560 061
CD : 415 340-2, 423 803-2
※①は「火星」④は「木星」⑦は「天王星」。

◎①モーツァルト／セレナード第13番ト長調《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》K.525②プロコフィエフ：交響曲第1番ニ長調作品25《古典》③グリーグ／ホルベルク組曲（ホルベアの時代から）作品40

■ベルリン po.
▶1981年1月28日, 30日, 2月20日, 23～24日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギンター・ブレスト
□ギンター・ブレスト／ミシェル・グロツ(2)
□ギンター・ヘルマンス
M2532 031

④ LP : 28MG 0242
CD : F35G 50102, POCG 1380
①
CD : F32G 20264, POCG 4138
〔①の第2楽章〕
CD : F32G 20100, POCG 2065

②
LP : 15MG 0267
CD : F26G 29043, F32G 20264, POCG 2155-7

③
CD : F00G 27015, POCG 4073
〔③の前奏曲〕
CD : POCG 2063

⑤ LP : 2532 031
CD : 400 034-2
①
CD : 423 610-2, 431 272-2, 431 292-2

〔①の第1楽章〕
CD : 423 803-2
〔①の第2楽章〕
CD : 419 406-2

②
LP : 2560 061
CD : 423 216-2, 423 555-2, 437 253-2

③
LP : 419 474-1
CD : 419 474-2, 427 808-2, 439 010-2, 435 876-2

◎シヨスタコーヴィチ／交響曲第10番ホ短調作品93

■ベルリン po.
▶1981年2月20日, 23日, 27日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギンター・ブレスト
□ギンター・ブレスト
□ギンター・ヘルマンス
M2532 030

④ LP : 28MG 0241
CD : F35G 50172, POCG 1383
⑤ LP : 2532 030
CD : 413 361-2

◎ニールセン／交響曲第4番作品29《不滅》

■ベルリン po.
▶1981年2月21～23日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギンター・ブレスト

④ LP : EAC 90051, EAC 99004
CD : CC38 3011, CC28 99004, CC28 3820, CE25 5652

①
LP : EAC 90315
CD : TOCE 7018
⑤ LP : 1C 067 43 050, 2C 069 43 050, ASD 4097
CD : CDM 769 028-2

①
LP : EL 270 407-1
CD : CDM 764 331-2

②
CD : CDM 763 896-2



▲1C 067 43 050(シベリウス：組曲《カレリア》&交響曲第1番)

◎ブルックナー／交響曲第1番八短調(1866年・リント稿・ノーヴァク版)

■ベルリン po.
▶1981年1月26～27日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギンター・ブレスト
□ミシェル・グロツ
□ギンター・ヘルマンス
M2560 044

④ LP : 00MG 0401-11, 28MG 0479
CD : F66G 50397-8, POCG 2033-41, POCG 4087-8

⑤ LP : 2740 264, 2532 062
CD : 415 985-2, 429 648-2, 429 677-2



▲2740 264(ブルックナー：交響曲全集)

◎ホルスト／組曲《惑星》作品32

■RIAS室内cho.(7), ウーヴェ・グロノスタイ(合唱指揮)(7), ベルリン po.
▶1981年1月27～31日, 2月26日, 3月20日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギンター・ブレスト
□ミシェル・グロツ
□ギンター・ヘルマンス
M2532 019

④ LP : 28MG 0183
CD : F35G 50049, F35G 20045, F00G 27010, POCG 9355, POCG 7003

①
LP : 15MG 0267
CD : F26G 29001

⑤ LP : 1C 067 103 973-1, ASD 4072, DS 37810
CD : CDM 769 020-2, CDM 764 629-2

①
LP : EG 291 068-1
CD : CDZ 253 058-2
③
CD : CMS 764 563-2
④
CD : CDC 253 004-2

◎R.シュトラウス／アルプス交響曲作品64

■ディヴィッド・ベル(org), ベルリン po.

▶1980年12月1～3日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギンター・ブレスト
□ミシェル・グロツ
□ギンター・ヘルマンス
M2532 015

④ LP : 28MG 0225
CD : F35G 50040, POCG 2050-4, POCG 1210, POCG 9366, POCG 4075

⑤ LP : 2532 015
CD : 400 039-2, 410 959-2, 439 017-2



▲2532 015(R.シュトラウス：アルプス交響曲)

◎ブルックナー／交響曲第2番八短調(1877年・ノーヴァク版)

■ベルリン po.
▶1980年12月4日, 1981年1月22～23日, 27日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギンター・ブレスト
□ミシェル・グロツ
□ギンター・ヘルマンス
M2560 045

④ LP : 00MG 0401-11, 28MG 0480
CD : F35G 50399, POCG 2033-41

⑤ LP : 2740 264, 2532 063
CD : 415 988-2, 429 648-2, 429 677-2

◎ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第3番八短調作品37

■マウリツィオ・ボリーニ(p), ベルリン po.

▶1980年12月27日ベルリン, フィルハーモニーザール

⑤ CD : EXCLUSIVE EX29T41

◎シベリウス／①組曲《カレリア》作品11②交響曲第1番ホ短調作品39

■ベルリン po.
▶1981年1月2日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ミシェル・グロツ
□ヴォルフガング・ギュリヒ
M43 050



LP : 28MG 0720
 ⑥ LP : 28MG 0720
 ⑦ LP : 28MG 0721
 ⑧ LP : 28MG 0721
 CD : F35G 50112, POCG 4090
 ⑨ LP : 28MG 0710
 CD : F00G 27051, F35G 50088, POCG 4089

[⑨の第2楽章]
 CD : POCG 2063

⑩ LP : 28MG 0710
 ⑪ LP : 28MG 0658
 CD : F35G 50085, POCG 1388

⑫ LP : 28MG 0658
 CD : F26G 29040, F35G 50085, POCG 1388

★ LP : 2741 015
 CD : 429 658-2, 429 677-2

① LP : 410 649-1
 CD : 410 809-2, 427 809-2

② LP : 410 649-1
 CD : 410 869-2, 410 809-2, 427 809-2

③ LP : 410 867-1

④ LP : 410 867-1
 CD : 410 975-2

⑤ LP : 410 957-1

⑥ LP : 410 957-1

⑦ LP : 410 958-1

⑧ LP : 410 958-1
 CD : 410 809-2, 410 975-2, 427 809-2

⑨ LP : 410 868-1
 CD : 410 869-2

⑩ LP : 410 868-1

⑪ LP : 410 517-1
 CD : 410 517-2

⑫ LP : 410 517-1
 CD : 410 517-2, 423 210-2, 423 555-2



▲410 868-1 (ハイドン:交響曲第101番《時計》&第102番)

LP : 410 645-1
 CD : 410 645-2, 427 031-2, 435 400-2, 435 409-2
 [部分]
 LP : 2531 386, 413 785-1
 CD : 413 785-2, 415 341-2, 415 366-2, 423 135-2, 427 031-2, 447 211-2, 447 681-2



▲2741 013 (プッチーニ:歌劇《トゥーランドット》)

◎サン＝サーンス/交響曲第3番ハ短調 作品78(オルガン付き)

■ビエール・コシュロー(org), ベルリン po.

▶1981年9月20～21日ベルリン, フィルハーモニー・ザール (オルガン:バリ, ノートル＝ダム大聖堂)

□ギンター・ブレスト

□ミシェル・グロツ

□ギンター・ヘルマン

M2532 045

LP : 28MG 0261
 CD : F35G 50050, POCG 1166, POCG 4074

★ LP : 2532 045, 439 014-2
 CD : 400 063-2

◎ハイドン/ロンドン・セット (①交響曲第93番二長調②第94番二長調《驚愕》③第95番ハ短調④第96番二長調《奇蹟》⑤第97番ハ長調⑥第98番変ロ長調⑦第99番変ホ長調⑧第100番二長調《軍隊》⑨第101番二長調《時計》⑩第102番変ロ長調⑪第103番変ホ長調《太鼓連打》⑫第104番二長調《ロンドン》)

■ベルリン po.

▶1981年9月21日, 23日, 25～26日, 1982年1月2～4日, 25～28日, 2月16日 (うち①1981年9月21日, 1982年1月25日/②1982年1月2日, 28日/③1981年9月25～26日, 1982年1月25日/④1982年1月4日, 2月16日)ベルリン, フィルハーモニー・ザール

□ギンター・ブレスト

□ミシェル・グロツ/ヴェルナー・マイヤー

□ギンター・ヘルマン

M2560 053-8

LP : 00MG 0422-7
 CD : POCG 2045-9

① LP : 28MG 0708

② LP : 28MG 0708
 CD : F00G 27051, F35G 50088, POCG 4089

③ LP : 28MG 0709

④ LP : 28MG 0709
 CD : F00G 27051, F35G 50112, POCG 4090

⑤

□ギンター・ブレスト
 □ギンター・ヘルマン
 M2532 029
 LP : 28MG 0248
 CD : F35G 50179, POCG 1354
 ★ LP : 2532 029
 CD : 413 313-2, 445 518-2

◎モーツァルト/ミサ曲ハ短調K.427

■バーバラ・ヘンドリックス(S), ジャネット・ペリー(S), ペーター・シュライアー(T), ベンジャミン・ラクソン(Bs), ウィーン楽友協会cho., ヘルムート・フロシャウアー(合唱指揮), デヴィッド・ベル(org), ベルリン po.

▶1981年2月25～27日ベルリン, フィルハーモニー・ザール

□ギンター・ブレスト

□ヴェルナー・マイヤー

□ギンター・ヘルマン

M2532 028

LP : 28MG 0251
 CD : F35G 50155, POCG 1169, POCG 4078

★ LP : 2532 028
 CD : 400 067-2, 429 817-2, 431 287-2, 431 292-2, 439 012-2



▲2532 028 (モーツァルト:ミサ曲ハ短調)

◎プッチーニ/歌劇《トゥーランドット》

■カーティア・リッチャレリ(S:トゥーランドット), ビエロ・デ・バルマ(T:皇帝アルトゥム), ルッジェーロ・ライモンディ(Bs:ティムール), プラシド・ドミンゴ(T:カラフ), バーバラ・ヘンドリックス(S:リュウ), ゴットフリート・ホーニク(Br:ピン), ハイッツ・ツェドニク(T:パン), フランシスコ・アラヤ(T:ボン), ジークムント・ニムスゲル(Br:役人), ウィーン少年cho., ウィーン国立歌劇場cho., ロベルト・ベナリオ(合唱指揮), ウィーン po.

▶1981年5月11～18日ウィーン, ムジックフェライン・ザール

□ギンター・ブレスト

□ミシェル・グロツ

□ギンター・ヘルマン

M2560 047-9

LP : 78MG 0298-300
 CD : F90G 50217-9, F64G 50547-8

[ハイライト]
 CD : 20G 29052, POCG 9165-84, POCG 3048

[部分]

LP : 28MG 0452
 CD : F35G 50100, F26G 29003, POCG 1374, POCG 3416

★ LP : 2741 013
 CD : 410 096-2, 423 855-2
 [ハイライト]

◎名演奏家
ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



金井 清

ベートーヴェン／交響曲第七番イ長調作品九二

名演奏の徹底比較⑦

カラヤンはじめて録音したベートーヴェンの交響曲はこの交響曲第七番である。オーケストラは別表のとおり、ベルリン国立歌劇場管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニア管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニア管弦楽団であるが、ひとつの曲でこのようにいくつかのオーケストラと録音をしているのは、カラヤンとしては珍しい例である。このほかに一九五七年にウ



① 423 526-2

ーン交響楽団と演奏されたライブ録音がオルフェオより発売されているが、正規のスタジオ録音ではないので今回の試聴には加わらない。またSPからLDまであらゆる方法で収録が行なわれているが、大変まれな例でありカラヤンの先見性の賜物とも言える事例である。

①は一九四一年、ベルリン国立歌劇場管とのもので、ドイツがヨーロッパ全土にその勢力を広げていたころの録音である。この録音の前月には同オーケストラとワーグナー・プロによるバリ公演も行なわれている。②は一九五一年、フィルハーモニア管とロンドンのキングズウェイ・ホールで録られたもの。戦後再開された第一回目の「バイロイト音楽祭」で「ニーベルングの指環」《ニュルンベルクのマイスタージンガー》を演奏するという大任をはたした直後の録音である。③は一九五九年のステレオ初録音で、オ



② 33CX 1035

ーケストラはVPO。この時期カラヤンは、VPOとイギリス・デッカのカルシヨウらのチームとともに多数の名録音を残している。またこの録音セッションの一週間前にはドイツ・グラモフォンへの初ステレオ録音《英雄の生涯》のセッションがもたれ、DGとの長い歴史の第一歩を印している。④は一九六二年、BPOとのものでカラヤン第二回目の「ベートーヴェン／交響曲全集」のなかの一枚であり、イエロー・レーベルへ怒涛のごとく録音が開始される初期の記録でもある。このセットは世界中で記録的なセールのとなったもので、後の演奏の規範的な演奏といってもいいだろう。⑤は一九七一年、BPOとのものでユニテル制作の映像におけるベートーヴェンの「交響曲全集」としては先駆的なものであるが、世界的にみても映像による初のベートーヴェン「交響曲全集」という記念すべき



③ LD 2348

ものでもあった。当時カラヤンはすでに多数の映像作品を手掛けていたが、一般的には演奏会の記録以外にこのような映像作品が制作されることはまれであった。演出はフーゴ・ニーベリングが担当している。⑥は一九七五年から七七年の第三回目の「ベートーヴェン／交響曲全集」の一枚である。本拠地のフィルハーモニアでおこなわれた初全集でもあった。⑦は一九八三年で同じくBPO。このふたつの録音は、ほぼ同時期に収録されたものでデジタル録音による「ベートーヴェン／交響曲全集」のなかの一枚である。この時期カラヤンは録音・録画・演奏会を同時進行的に制作しているが、このディスクも同様である。またこの頃はこれらのディスク制作に関与しない演奏会はありません。合理的かつ集中的に音楽活動が行なわれていたことがわかる。

「第一楽章 ポコ・ソステヌート」アレグロ」ここに紹介したすべてのディスクともに、主題提示部のリピートは行なわれていないが、慣例的でもありごく一般的な解釈である。①は特に緊張感もなくすっきりと開始される。主部に入ってからテンポはそれほど速くはなく中庸といったところ。SP録音のためかオーケストラは比較的小規模のようで、後年のものとはだいぶ趣が違ふ。しかし演奏はしなやかでとても丁寧なものである。試聴にあたってはオリジナルのSPでなくCDを使用したが、演奏ピッチが若干低く聞こえる。テンポとの関係があるため、CD化の際に適正なピッチが保たれたのか少々気になるところだ。②は覇気のある音で開始される。モノとはいえず十分鑑賞にたえる音質だ。トゥッティ直前の和音をかなり長く演奏するのが印象的だ。主部に入ってから生き生きとした演奏が展開され、見通しよい。ドイツ的な重さとは無縁の演奏だが、じつに堂々としている。③はカラヤン初のステレオ録音で、デッカ録音のせいもあり今までのものと比較にならないほど生々しい音がする。VPOも生気に溢れた演奏

を繰り広げ、時として自らの実力を誇示するかのごとく積極性に富む場面もみられる。テンポは今までのなかではいちばん速い。④は開始からいかにもBPOらしい充実した響きで、われわれが慣れ親しんでいる「カラヤン・サウンド」そのものである。中低域の弦の厚い響きもたいへん聴きごたえがするもので、木管楽器の美しい音色も花を添えている。⑤はまずピラミッド型にくまれた傾斜のきついオーケストラ・ボックスの形に目を奪われてしまう。しかし演奏は自信に溢れたもので音楽は淀むことなく進んでいく。④同様ここでも木管楽器の音色の美しさが光っている。録音は画面とは別

[ここにとりあげた8つのディスク]

- ①ドイツ・ボリドール
ベルリン国立歌劇場
1941年6月ベルリン
⑤S P 68001-10
⑥C D F28G 20211 (88年5月発売)
- ②イギリス・コロムビア
フィルハーモニア
1951年11月28〜30日、1952年4月26日、29日、
5月5日、8日ロンドン、キングズウェイ・ホール
⑤P WOLFGANG・レック
⑥C D 33CX 1035 (53年2月発売)
⑦XL 5012 (54年5月発売)
- ③イギリス・デッカ
VPO
1959年3月9〜10日ウィーン、ゾフィエンザール
⑤P ジョン・カルショウ
⑥C D ノーデン・バリー/ジェイムズ・ブラウン
⑦SB 2087
⑧LS 2241 (60年2月発売)
- ④ドイツ・グラモフォン
BPO
1962年3月13〜14日ゲレーム、イエス・キリス
⑤P オットー・ゲルデス/エルザ・シラー
⑥C D オットー・エルンスト・ヴォーラート
⑦P ギュンター・ヘルマンズ
⑧SLPM 138 806 (63年2月発売)
⑨SLMG 1304 (66年2月発売)
- ⑤映像 ユニテル
BPO
1971年ベルリン、CCCフィルム・スタジオ
演出：フーゴ・ベリング
芸術総監督：ヘルベルト・フォン・カラヤン
音楽監督：ミシェル・グロツ
音響：ヴォルフガング・ギューリヒ/ロルフ・P・シュレーダー
映像監督：ロベルト・ホッファー/フランク・ホッファー
⑥P フリッツ・ブッテンシュテット
⑦L D 072 132-1 (PAL)
⑧V H D V H M 68108 (86年9月発売)
- ⑥ドイツ・グラモフォン
BPO
1976年10月22日、1977年1月28日、3月9日ベル
リン、フィルハーモニア
⑤P ハンス・ヒルシュ/マクダレーネ・ノットベルク
⑥D ミシェル・グロツ/コード・ガーベン
⑦P ギュンター・ヘルマンズ
⑧2531 107 (78年4月発売)
⑨MG 1127 (78年4月発売)
- ⑦映像 テレモンディア
BPC
1983年11月29日〜12月6日ベルリン、フィル
ハーモニア
録音監督：ミシェル・グロツ
録音技師：ギュンター・ヘルマンズ
⑤P ウィ・メルクレ
リ・ア・レ・ーション：ヘルベルト・フォン・カラ
ヤン/エルンスト・ヴィルト
映像監督：エルンスト・ヴィルト
⑥P エルンスト・ヴィルト
⑦L D SLV 46 367
⑧L D SRLM 940 (91年11月発売)
- ⑧ドイツ・グラモフォン
BPO
1983年12月1〜3日、5日ベルリン、フィル
ハーモニア
⑤P ギュンター・ブレスト
⑥D ミシェル・グロツ
⑦P ギュンター・ヘルマンズ
⑧415 121-1 (85年5月発売)
⑨28MG 0800 (85年5月発売)

録りであるとおもわれるが、最近のものと比べれば鮮明さやDレンジの点で劣るのであるが、たいへんバランスがよくBPOの音を見事に捉えている。低音の量感もなかなかだ。画面はカットが頻繁で目まぐるしいところがあるのは当時の映像作品に共通した特色だ。⑥は力感だけではなく、しなやかさも持ち合わせた演奏だが、④ほどの重量感はない。Dレンジはさらに広がり、PPを強調した場面が随所にみられるが、これはフィルハーモニーを録音の本拠地に移動してから顕著になる「カラヤン美学」の共通点だ。録音はPPでは遠近感もあり、演奏を立体的に盛り上げてくれるが、PPになると

やや人工的になる。⑦⑧は、ともにほとんど同じ演奏といわれている。実際酷似しているが、細部で違いがあるのは事実で、まったくの同一テイクではない。ともに序奏部から凄まじい勢いで突き進んでいく「イン・テンポ」を強調したもので、息を呑むようなところもある。CDとLDでは音の仕上がり若干違ふようだが、共に寒色系の音で、PPは美しいがPPはマルチ・モノ的に特にCDはその傾向が強い。せめて同全集後期に録音された「エロイカ」や第八番のクオリティがあればと惜しまれるところだ。

「第二楽章 アレグレット」不滅のアレグレット」として名高い曲であるが、



① SLPM 138 806



② LD 072 232-1



③ 2531 107



④ LD CSLM 919



© 415 121-1

いずれの演奏もすばらしく、音楽がよく流れるのも共通である。①は葬送の雰囲気を感じられるが、純音楽的で劇的な表現はとられていない。終結部に向けて遅いテンポで演奏されているところが印象的だ。②は弦楽器のみずみずしいアンサンブルに好感がもてる演奏で暗さはあまり感じられない。③ではテヌートの強調がみられVPO独特の雰囲気も楽しめる。その音からは暗さや深刻さはまったく感じられず、情に流されない客観的なカラヤンの姿勢に好感がもたれる。④はPPを意識した緊張感ある弦の充実した響きがすばらしい。強弱の対比も大きくなり、切々と流れるアレグレットに彫りの深さを与え、その音楽は胸に沁みいる名演だ。⑤も④同様、音楽の流れは自然で作為的なところはないが、十分な説得力を持っている。⑥は開始から響きの厚いテヌートで奏され、強弱の差や音の磨かれ方はさらに進められたものとなっている。このようなスタイルは特異に映るかもしれないが、どこか非現実的な響きをもった美しい演奏であることは事実である。⑦は緻密で純音楽的な表現で、音楽は淀むことなく坦々と進む。前打音の処理に

今までとは違ったところがみうけられるカラヤンは⑤の映像では終始目をつむり、挑むような姿勢で指揮をしているのに対し、ここでは目をあげ奏者に慈しみとも感じられる視線を据えているところは大きな違いである。

【第三章 プレスト】①はオーソドックスだがしつかりとした演奏である。終結部も力強く結ばれ、アタツカ風にフィナーレへと向かう。②は歯切れの良い弦の音が終始爽やかで小気味よい。トリオも流麗で高い完成度を伺わせる。③は中庸のテンポで奏されるが全体に潑刺としていて、トリオでは表情に対比を付けている。④は重く確かなリズムの主部と雄大なスケールのトリオとの対比が興味深い。終結の和音はフィナーレを予感させる力強いものである。⑤も④同様充実した響きで自然体の演奏が展開される。木管楽器の美しさはこでも特筆すべきものだ。トリオは壮麗でホルンの咆哮も迫力をさらに高めている。終結も堂々としていて、間髪をおかずアタツカでフィナーレへ突入するところなど、聴くものを高揚させずにはおかない。⑥は全体的にシャープで引き締まった響きだ。トリオも④⑤のような雄大さは念頭におかずスマートな表現だ。⑦⑧は⑥をさらに磨き上げたような音作りがなされ緻密さもある。壮麗な表現は影を潜めている。

【第四章 アレグロ・コン・プリオ】第一章同様どの演奏も提示部のリピートはおこなわれていない。①は全体的に活気があり推進力がすばらしく、終結部に向けての加速も緊張感あるものだ。②

も全体的に堂々としていて開放的な響きがこちよく、弦楽器の音にもたいへん迫力がある。終結部に若干のアツチェレランドがかかるが、自然なものである。③はリズムカルで迫力を狙った演奏ではない。ドイツ風の重厚なベートーヴェン像とは異なるものだが、それなりの説得力があるのはさすがVPOといったところか。④はためらうことなく前進する音楽に力が漲っている。アツチェレランドはかからず終始イン・テンポで奏されるが、聴き応えのある迫力ある演奏だ。⑤の映像は冒頭開始から熱気溢れる演奏で、BPOが本気で演奏しているのが手に取るようだが、粗いところはまったくなく、高い完成度を終始保っている。コードも迫力十分で一気曲を締めくくる様子は聴き応え満点だ。この演奏はLDなので、カラヤンのベートーヴェンとしては忘れられがちなのだが、《第七》最高の演奏の一枚として興味のある方はぜひご覧いただきたいものである。⑥は速いテンポで演奏されているが力ずくのところもあり、リズムも少し滑り気味だ。録音はトゥッティになると人工的な響きが出て平面的な感じをうける。精緻なPPをこそ聴くべきディスクであろう。⑦⑧はおそらくこれらの演奏のなかでは最も緊張感溢れるものではないだろうか。音楽は強靱で、開始するやコードまで一直線になりふりかまわず駆け抜ける様子は気迫の一言に尽きる。カラヤン最後の《第七》のフィナーレは、まさに嵐のような音楽であった。

ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 (資料提供: D.C.ランボン(英), 鈴木泰司, 金井清)

[ディスコグラフィ記載方法]

- 記載順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー(P)、ディレクター(D)、レコーディング・エンジニア(E)、マトリックス番号(M)、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。また、(EP)はエクゼクティブ・プロデューサー、(R)はレコーディング、(C)はコピー・ディレクション、(Mx)はミキシングを、日付のあとの(L)はライブ録音・録画を表す。
- 曲目の前の[V]は映像作品を示し、ライブ映像を除いて同一収録年月日のCDとLDは各々項目を分けて掲載した。外国盤の再生方式(PAL/NTSC等)は、レコード番号のあとに記した。
- 記列は初出のアルバムのもっと早い収録日によっており、発売順とは一致しない。収録年月日は録音・録画に要した日付であり、実際には使われていないディスクも含んでいる。また、日にちが詳しく発表されていないデータは、年月でとどめた。
- レコード番号は、LP、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごとに発売順に並んでいる。
- アルバムのなかでは、①②③の曲順番号を便宜上つけて各々のデータを分けた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲順番号を記したが、必ずしも収録順序を示しているわけではない。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは、[ハイライト]・[部分]としたが、各々のLPやCDでの収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末の「新譜CD & LD一覧表」のものを使用している。

LP: 419 474-1
CD: 419 474-2, 427 027-2, 439 010-2

③
CD: 445 550-2



▲2532 068(グリーグ:《ペール・ギュント》第1&2組曲他)

○R.シュトラウス/①交響詩《ツラトウストラはかく語りき》作品30(《ドン・ファン》)作品20

■トマス・ブランディス(vn/①), ベルリンpo.

▶1982年2月18~19日(②), 11月16日(②), 1983年9月29~30日(①)ベルリン, フィルハーモニーザール

■ギンター・ブレスト

■ヴェルナー・マイヤー/ミシェル・グロツ(②)

■ギンター・ヘルマンズ

M410 959

■LP: 28MG 0733

CD: F35G 50066, F35G 21012, POCG 2050, POCG 2050-4, POCG 1209

①の序奏

CD: F26G 29001

②LP: 410 959-1

CD: 410 959-2, 439 016-2

①の序奏

CD: 415 340-2

※ドイツ・グラモフォンの初出盤LP(410 959-1)は《ドン・ファン》の最後の和音を編集時に欠落させたという事故があり、極秘のうちに緊急回収した経緯がある。スタンパーのマトリックス番号のあとにS-2=6のものが良品であるが、ジャケットの外見からでは判断がつかない。



▲410 959-1(R.シュトラウス:交響詩《ツラトウストラはかく語りき》&(ドン・ファン))

○V.ベートーヴェン/交響曲第3番変ホ長調作品55《英雄》

■ベルリンpo.

▶1982年4月30日(L)ベルリン, フィルハーモニーザール

リアリゼーション: ヘルベルト・フォン・カラヤン, エルンスト・ヴィルト, ゲラ・マリナ・ルンネ

■ウリ・メルクレ

バランス■クリスチャン・コンスタンチノフ

ビデオ・ポスト・プロダクション: ノ

マス・モーザー(T:かじとり), ウィーン国立歌劇場cho., ワルター・ハーゲン=グロル(合唱指揮), ベルリンpo.
▶1981年12月2~9日, 1982年3月28日, 1983年9月19日ベルリン, フィルハーモニーザール(1981/1983)ザルツブルク, 祝祭大劇場(1982)

■ミシェル・グロツ

■ヴォルフガング・ギュリヒ

M270 013-5

■LP: EAC 87111-3

CD: CC35 3182-4, TOCE 6360-2

■LP: EX 270 013-5

CD: CDS 747 054-8, CMS 764 650-2

[ハイライト]

LP: LC 061 29 509-1

CD: CDM 763 449-2, CDM 763 557-2

[部分]

CD: CDM 767 549-2



▲EX 270 013-3(ワーグナー:歌劇《さまよえるオランダ人》)

○①グリーグ/《ペール・ギュント》第1組曲作品46②第2組曲作品55③シベリウス/組曲《ペレアスとメリザンド》作品46

■ベルリンpo.

▶1982年1月27日, 2月17~18日ベルリン, フィルハーモニーザール

■ギンター・ブレスト

■ミシェル・グロツ

■ギンター・ヘルマンズ

M2532 068

■LP: 28MG 0483

CD: F35G 50146, F35G 21016

①

CD: F20G 29046, F00G 27015, POCG 4073

①の〈朝〉

CD: F26G 29001, F32G 20100

①の〈オーゼの死〉

CD: POCG 2062, POCG 3441

①の〈山の魔王の殿堂にて〉

CD: F26G 29001, POCG 2641

②

CD: F00G 27015, POCG 4073

②の〈ソルヴェイグの歌〉

CD: POCG 2061

③LP: 2532 068

CD: 410 026-2

①

LP: 419 474-1

CD: 419 474-2, 427 027-2, 439 010-2

①の〈朝〉

CD: 415 340-2, 419 406-2, 419 735-2, 423 803-2

①の〈オーゼの死〉

CD: 445 282-2

①の〈山の魔王の殿堂にて〉

CD: 415 340-2

②

○ブラームス/ヴァイオリン協奏曲二長調作品77

■アンネ・ゾフィー・ムター(vn), ベルリンpo.

▶1981年9月22日ベルリン, フィルハーモニーザール

■ギンター・ブレスト

■ミシェル・グロツ

■ギンター・ヘルマンズ

M2532 032

■LP: 28MG 0262, 88MG 0512-5

CD: F35G 50051, F35G 21007, POCG 1124, POCG 9049-51, POCG 4076

③LP: 2532 032, 2740 276, 2740 282, 415 565-1

CD: 400 064-2, 415 565-2, 439 007-2, 445 515-2

[第2楽章]

CD: 447 070-2



▲445 515-2(ブラームス:ヴァイオリン協奏曲)

○①シューマン/ピアノ協奏曲Ⅱ短調作品54②グリーグ/ピアノ協奏曲Ⅱ短調作品16

■クリスティアン・ツィマーマン(p), ベルリンpo.

▶1981年9月27~28日, 1982年1月ベルリン, フィルハーモニーザール

■ギンター・ブレスト

■ミシェル・グロツ

■ギンター・ヘルマンズ

M2532 043

■LP: 28MG 0255

CD: F35G 50090, F35G 21025, F00G 27034, POCG 7037

③LP: 2532 043

CD: 410 021-2, 439 015-2

②

CD: 431 262-2



▲2532 043(シューマン&グリーグ:ピアノ協奏曲)

○ワーグナー/歌劇《さまよえるオランダ人》

■ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs:オランダ人), クルト・モル(Bs:ダーラント), ドウニャ・ヴェイゾヴィチ(S:ゼンタ), ペーター・ホフマン(T:エリック), カヤ・ボリス(Ms:マリー), ト

■ギンター・ヘルマン

M 2560 102-3

LP: 52MG 0575-6

CD: F66G 50137-8, POCG 4148-9

LP: 2741 017

CD: 410 718-2

[ハイライト]

CD: 429 489-2

※ライブ・レコーディングの表示があるが、本ディスクグラフィは8月16日～19日に係ける。ザルツブルク音楽祭の公演は8月18日に行なわれた。



▲2741 017(ハイデン:オラトリオ(天地創造))

○R.シュトラウス/アルプス交響曲作品64

■ベルリン po.

▶1982年8月28日ザルツブルク、祝祭大劇場

CD: LCB 143

※ザルツブルク音楽祭のライブ録音。この日の前半のプログラムはストラヴィンスキーの《ミューズの神を率いるアポロ》である。

○チャイコフスキー/①幻想序曲《ロメオとジュリエット》②バレエ《くるみ割り人形》組曲作品71a

▶ベルリン po.

▶1982年9月21～28日ベルリン、フィルハーモニーザール

■ギンター・ブレス

■ミシェル・グロツ

■ギンター・ヘルマン

M 2532 096

LP: 68MG 0475

CD: F35G 50111, POCG 1178

[②のくわのワルツ]

CD: F26G 29001, F30G 20165, POCG 2062, POCG 2641, POCG 9509

LP: 2561 008, 410 873-1

CD: 410 873-2, 439 021-2

①

CD: 431 257-2

[②のくわのワルツ]

CD: 415 340-2

※LPの初出形態はカラヤンの生誕75年記念の写真集(ジャケットと同型)が付いた。



▲410 873-2(チャイコフスキー:幻想序曲《ロメオとジュリエット》&くるみ割り人形組曲)

クリー夫人), トウルデリーゼ・シュミット(Ms: ペイジ夫人), ウィーン国立歌劇場 cho., ワルター・ハーゲン=グロル(合唱指揮), ウィーン国立歌劇場バレエ団, ハイドルン・シュヴァーツ(バレエ振付), ザルツブルク州立歌劇場付属バレエ学校, ローザ・ハルトリープ(バレエ練習指導), ウィーン po.

▶1982年ザルツブルク、祝祭大劇場
演出: ヘルベルト・フォン・カラヤン
芸術監督: ヘルベルト・フォン・カラヤン

舞台装置: ギンター・シュナイダー=ジュームツェン

衣装: ゲオルグ・ヴァクヘヴィチ
リアリゼーション: ヘルベルト・フォン・カラヤン, エルンスト・ヴィルト

○ウリ・メルクレ

副指揮者: フランクリン・ファニング
アシスタント: ベーター・ブッセ, ヘルマン・ケカイス, フーゴ・ケフ

舞台技術監督: フランツ・シュミット, ゲーロ・ツィンマン

照明: ヘルムート・ライヒマン, ヴェルナー・ブランテンフェルダー

音響効果: ゲーアハルト・ビッター
装飾考証: イムレ・ヴァンツェ

衣装考証: マグダ・グストラン
メイク: ドロテア・アルノルト, ヴィルヘルム・リーデ

撮影: ビーター・バース, アウグスト・ベンデル, ウルフリート・フォイアー

シュタイン, ルドルフ・フィッシャー, ハンス=ヴィクトア・ケッブラー, フェリックス・クレンクル, エルンスト・マイヤー

ビデオ・ミックス: クルト・ツェーラー

編集台本: ゲラ=マリア・ルンネ
照明監督: ヴィルヘルム・マルホルフ

ビデオ技術: マルガレーテ・シュトゥンマー, ゲオルク・ボッシュ

録音技術: ヨゼフ・スラットコ
録音監督: ミロスラフ・スヴォボダ

プロダクション・マネージャー: ハイナリヒ・アイグナー

コーディネーション: ヴィルフリート・シャイプ

オーディオ・ポスト・プロダクション: クリスチャン・コンスタンチノフ, デイヴィッド・スミス

ビデオ・ポスト・プロダクション: ノルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツ

オグ, ブッチ・メトハイト, アナトール・ヴァファジカーニヤ

技術監督: エルンスト・ヴィルト
映像監督: エルンスト・ヴィルト

EP エルンスト・ノイシュピール, エルンスト・ヴィルト

リダクション: フランツ・カペルカ

LD: SRLM 1064-5, SRLM 1092-3

LD: S2LV 48 422

○ハイデン/オラトリオ(天地創造)

■エディット・マティス(S), フランシスコ・アラヤ(T), ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs), アン・マレー(A/第34曲独唱), ウィーン楽友協会 cho., ヘルムート・フロシャウアー(合唱指揮), ジャンピエール・ファールベル(cemb), ロベルト・シャイヴァイン(vc), デイヴィット・ベル(org), ウィーン po.

▶1982年8月16～18日ザルツブルク、祝祭大劇場

■ギンター・ブレス

■レナート・クップファー

■ヴェルナー・マイヤー

ルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツ
オグ, ブッチ・メトハイト

オーディオ・ポスト・プロダクション: スティーヴン・デュラー

録音技術: ハンス=ユルゲン・ミュラー
ビデオ技術: ボード・フェッターライン

撮影: ユルゲン・ビショッフ, ハンネス・ガングル, オトフリート・ランガー, ベーター・リプシッツ, ベーター・メツラー, マンフレート・シェーブス

タート, ホルスト・トーマス
ビデオ・ミックス: ハンネローレ・リプシュツ

プロダクション・マネージメント: ベーター・ルッペンタール, ウーヴェ・コーリ

アシスタント: ティロ・タイレン
リダクション: ヨアヒム・アウグスティン

録音監督: ヨアヒム・アウグスティン
技術監督: エルンスト・ヴィルト

映像監督: エルンスト・ヴィルト

LD: SRLM 1086

LD: SLV 48 434

※ベルリン・フィル創立100周年記念演奏会のライブ映像, ドイツZDFとの共同制作による。なお、この日の前半にはモーツァルトの交響曲第41番(ジュピター)が組まれていた。

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

LD: SLV 48 434(ベートーヴェン:交響曲第3番(英雄))

◎名演奏家
ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



ロシーニ／歌劇《ウィリアム・テル》序曲

金井 清

名演奏の徹底比較⑧

一九二八年十二月、当時二十歳のカラヤンがウィーン音楽院での発表演奏会の課題として選んだのがこの《ウィリアム・テル》序曲である。与えられた短いハーサルをカラヤンは全曲の演奏ではなく、夜明けの部分だけを仕上げることに費やした。このことからカラヤンの「完全主義」は、後年に培われたものではなく、すでに彼自身にそなわった資質そのものであることを思い知らされる。

カラヤンは生涯に二度のステレオ録音による「ロシーニ／序曲集」を録音しているが、①②の演奏、各々曲順は異なるものの選曲は同一である。ところで「ロシーニ／序曲集」は数多くの指揮者により録音されているが、カラヤンと同一選曲のものは調べたかぎりでは存在しない。また①の国内発売のものには《ウィリアム・テル》の「パレエ音楽」が再三カップリングされていたが、この曲はオリジナルではオッフェンバックの《パリの喜び》、グノーの《ファウスト》より「パレエ音楽」(S.A.X.二七四)とのカップリングのために録音されたものであり、「ロシーニ／序曲集」とは録音上の関連はない。

カラヤンの演奏による《ウィリアム・テル》序曲は、別表のとおり五種類のものが残されている。演奏は①がフィルハーモニア管、②から⑤まではすべてBPOのものだが、これら四つの演奏は約十三年の間に収録されており、一定期間に同一オーケストラで集中的に行なわれた同一曲の収録例としては、注目すべき例である。①は一九六〇年三月、フィルハーモニア管とのもの。カラヤンはこの年をもつてフィルハーモニア管ならびにイギリス・コロンビアとの関係を終結しており、翌月の四月一日にはフィルハー



11C 063-00 512



2530 144

モニア管との最後の公演を行なった。①はそういった意味でカラヤンとフィルハーモニア管による演奏の、頂点のひとつとしてみることができ。②は一九七一年、BPOとはじめての録音。すでにカラヤン・ドイツ・グラモフォンのイメージが定着していた頃であるが、イギリスEMI/ドイツ・エレクトローラとの本格的な録音が始まったところでもある。②は前述のとおり「ロシーニ／序曲集」のなかのものであるが、カラヤンはこの頃、同序曲集の他にも「ペートーヴェン／序曲集」(六五、六九年、スツペ／序曲集)「六九年、ウェーバー／序曲集」(七一、七二年)、「ヴェルディ／序曲集」(七五)といった序曲集も録音している。③は一九七五年、BPOとの映像記録でユニテ

ルの制作。収録場所はフィルハーモニーで聴衆のいるライブ収録と思われるが、公演記録には同演奏は見当たらず、収録日時是不明である。日本ではVHDのみが発売されたが、LDでの再発売が待たれるところだ。④⑤はほぼ同時期の収録で⑤は一九八三年のジルヴェスター・コンサートの映像記録であり、ヨーロッパ全土に同時中継された。またLDには収録されていないが、同日は前半にシューベルトの《未完成》交響曲が、アンコールには《ラデツキー行進曲》が演奏されている。ジルヴェスター・コンサートの全記録をLD一枚に収録することは可能と思われるので、発売に際してはぜひそのようにしてほしかった。

「夜明け アンダンテ」①は圧政に苦しむスイス人民の重苦しさとは無縁の演奏で、どちらかというと穏やかでゆったりとした雰囲気演奏されている。チェロはソロ、アンサンブルともに優秀でバランスもよい。一音一音波打つように奏するところは後年の演奏にはみられないものだ。②は強い緊張感のなかから開始されるチェロのソロ、アンサンブルがともに美しく胸を打つ。録音はオーケストラのなかのチェロ・パートとしてではなくオン・マイクでピク・アップされたものだが、違和感はなく美しい音を満喫することができる。③④⑤のソロ・チェロ奏者はいずれもオートマール・ボルヴィツキーである。③④⑤の緊張感を感じられないが、フランスのよい演奏は②同様である。オーケストラの配置はチェロがセンターで、ヴィオラが右側である。④はデジタル録音で、広大なフィルハーモニーに響くチェロの音色がたいへん美しい。ディテールもよく捉えられている。演奏も今まで同様神経の行き届いたもので申し分ない。⑤も④同様素晴らしい演奏だ。マイク・アレンジが④とは異なり、鮮明さよりもホール・トーンを重視した音づくりで、自然な好ましいものとなっている。チェロの配置は③とは違い右側となっている。

「嵐 アレグロ」①は劇的表現を狙ったものではないが、堂々とした音楽だ。フィルハーモニー管は力強く、ときには滑らかにアンサンブルの技術の高さをみせる。②では壮絶な嵐の描写が展開されるが、五つの演奏のなかでもっとも劇的

なものであろう。また②③④⑤ではトロンボーン・セクションにおいてBPO独特の伝統的アレンジも聴くことができる。③もBPOの高い技術が緊張感を高めている好演だ。録音は全体的に潤いに乏しくホール感もそれほど感じられないが、グラン・カッサの音などは芯のある力強い音で捉えられている。④⑤ともに充実した演奏である。②のような壮絶さはないが、シンフォニックな響きでたいへん聴き応えがある。

「牧歌 アンダンテ」①はイギリスのオーケストラらしいイングリッシュ・ホルンの音がいかにも牧歌的で、ひなびた味がある。音楽も素直で好感のもてるものだ。②は緻密なアンサンブルのうえにBPOのオーボエ奏者、ブルクハルト・ローデの奏でるイングリッシュ・ホルンの音色がたいへん素晴らしい。③④⑤は、すべて彼のソロである。この演奏はオーボエ奏者の間でも有名な名演で、数ある「牧歌」のなかでも最高の演奏のひとつである。③も優れた演奏であるが、録音にいまひとつふよかさがあればと

「ここでとりあげた5つのディスク」

①イギリス・コロンビア

フィルハーモニア

1960年3月27、29～30日ロンドン、アビーロードEMI第1スタジオ/キングズウェイ・ホール

②ウォルター・レッグ

③ハロルド・ダヴィットソン

④SAX 2378

⑤AA 7102

②ドイツ・グラモフォン

BPO

1971年1月2、5～6日ダーレム、イエス・キリスト教会

③ハンス・ヒルシュ

④ハンス・ヴェーバー

⑤ギュンター・ヘルマンズ

⑥2530 144

⑦MG 2319(72年4月発売)

③映像 ユニテル

BPO

1975年ベルリン、フィルハーモニーザール

芸術監督：ヘルベルト・フォン・カラヤン

④ホーランド・H・ホールフェルト

⑤VHD VHM 68107(86年10月発売)

④ドイツ・グラモフォン

BPO

1983年12月28～31日、1984年1月24、30日、2月24日ベルリン、フィルハーモニーザール

⑥ミシェル・グロツツ

⑦ミシェル・グロツツ

⑧ギュンター・ヘルマンズ

⑨413 587-1(84年11月発売)

⑩28MG 0734(84年9月発売)

⑤映像 テレモンディアル

BPO

1983年12月31日(L)ベルリン、フィルハーモニーザール

リアリゼーション：ヘルベルト・フォン・カラヤン/エルンスト・ヴィルト/ゲラ=マリナ・ルンネ

⑪ウリ・メルクレ

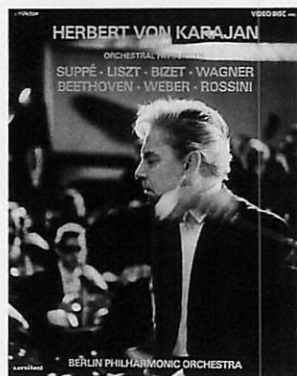
録音技師：ギュンター・ヘルマンズ

映像監修：エルンスト・ヴィルト

リダクション：ヨアヒム・アウグスティン

⑫LD SLV 46 401

⑬LD SRLM 996(93年1月発売)



③ VHD VHM 68107



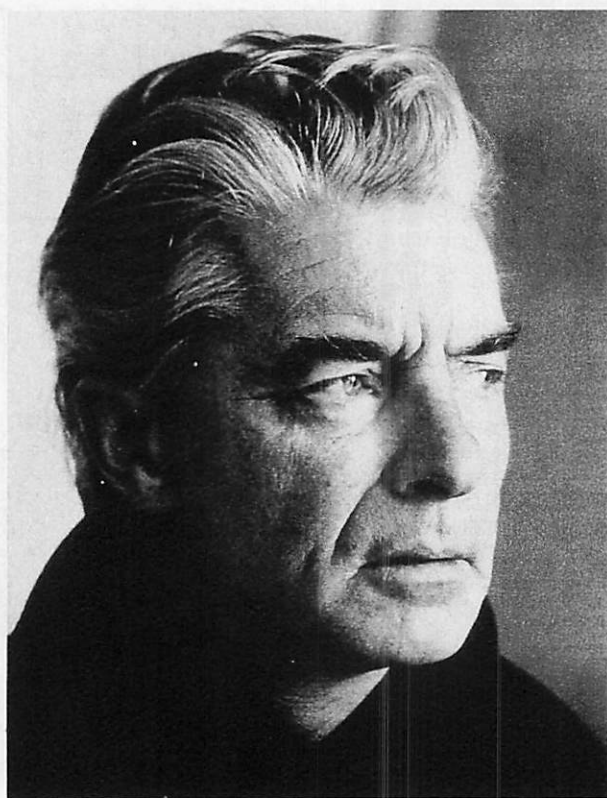
④ 413 587-1



⑤ LD SRLM 996



曲を締めくくる。①は全体を通して媚びることなく、自然な雰囲気を保っているところが特徴でもある。②も速めのテンポだが、①とはリズムや音色の質がまったく違い、まさにドイツ風である。ティンパニの響きも硬く引き締まっている。③も速めで緊張感ある筋肉質な演奏が展開され、強い集中力で演奏にのぞむカラヤンの姿を画面から感じとれる。コードも勢いが衰えることなく最後まで演奏されるが、その響きはロッシニというよりもドイツ系の交響作品のように重厚感がある。④⑤は今までのものよりテンポが遅くなり、響きもよりシンフォニックになる。出だしのトランペットのファンファーレも壮麗だ。これらの演奏はラテン系の軽妙な演奏とはまったく意を異にする。



ヘルベルト・フォン・カラヤン

るものであるが、聴き応えは十分だ。当時筆者は⑤をベルリンで聴く機会を得たが、精緻な叩から圧倒的な力にいたるそのすばらしい演奏には、まさに息を呑む思いであった。カラヤンはこれら管弦楽曲の小品に対しても、世界最高のオーケストラをもって常に全力を傾けて演奏してきた。《ウィリアム・テル》序曲に対するアブローチも単なる管弦楽曲の枠内にとどまらず、ブラームスやR・シュトラウスの交響作品と同質の響きを持った、四つの部分からなる小交響詩、といっても過言ではあるまい。どのような曲に対しても全力で立ち向かう、こういったカラヤンの真摯な演奏態度には、演奏という行為以上の使命感すら感じられる。

ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 [資料提供: D.C.ランボン(英), 鈴木恭司, 金井清]

[ディスコグラフィ記載方法]

- 順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー(P)、ディレクター(D)、レコーディング・エンジニア(E)、マトリックス番号(M)、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。曲目の前の[V]は映像作品を示す。
- 収録年月日は録音に要した日付であり、実際に使われていないディスクも含んでいる。
- レコード番号はLP(10インチを含む)、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごと発売順に並んでいる。
- 原則として初出のアルバムごとの配列にし、その中で最も早い録音日をもって記述する。
- アルバムの中なかでは、①②③の曲番号を便宜上つけて各々のデータをわけた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲番号を記したが、必ずしも収録順を示してはいない。
- 外国盤のLDの再生方式(PAL/NTSC等)は、ディスク番号のあとに記した。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは「ハイライト」・「部分」としてまとめたが、各々のLPやCDで収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末「新譜CD&LD一覧表」のものを使用している。

デュカール
 [D] シェル・グロツ
 [E] ギュンター・ヘルマン
 台詞録音監督: ジャン・ノイエ・シッ
 ア
 M2560 112-4
 ●LP: 78MG 0645-7
 CD: F90G 50203-5
 [ハイライト]
 LP: 24MG 0763
 CD: F35G 50322
 [組曲]
 LP: 28MG 0842
 CD: F35G 50044, F35G 20047, POCG
 1206
 [前奏曲]
 CD: F26G 29001, POCG 2063, POCG
 2641

(ミュージカル・アシスタント)、
 ベルリンpo., [以下台詞] マリア・ラ
 ボリ(カルメン), ジャン・バルネー(ドン
 ・ホセ), トニー・ジャコ(エスカミ
 リヨ/モラレス), ダニエル・アジョレ
 (ミカエラ), イザベラ・カラヤン(フ
 ラスキータ), クロディーヌ・コステ
 (メルセデス), ジャン・ノエル・シッ
 ア(スニガ), アラン・イティエ(ダン
 カイロ/兵士), ロベール・マニエ
 (リリヤス・バスターア/案内人),
 デヴィッド・クレアー(アンドレア
 ス), レイモン・ジェム(台詞校訂)
 ▶1982年9月, 1983年3月(台詞部分)
 ベルリン, フィルハーモニーザール
 [E] ギュンター・ブレスト/レナーテ
 クップファー
 [C] クラウディア・ハーマン/レイモン・

◎ビゼー/歌劇《カルメン》
 ■アグネス・バルツァ(Ms:カルメン),
 ホセ・カレーラス(T:ドン・ホセ), ジ
 ョゼ・ヴァン・ダム(Br:エスカミ
 リヨ), カーティア・リッチャレツリ(S
 :ミカエラ), クリスティーン・バルボ
 ー(S:フラスキータ), ジャヌ・ベ
 ルビエ(Ms:メルセデス), アレクサン
 ダー・マルタ(Bs:スニガ), ミカエ
 ル・メルビー(Br:モラレス), ジノ・キ
 リコ(Br:ダンカイロ), ハイッツ・ツ
 エドニク(T:レメンダード), ミシェ
 ル・マランブイユ(T:アンドレアス),
 アンネ・マリー・トスタン(A:売り
 子), アラン・ピラール(Br:ジプシー),
 バリ・オペラ座cho., ジャン・ラフ
 オルジュ(合唱指揮), シェネベルク少
 年cho., ワルター・ハーゲン=グロル



- ①②
LD : SRLM 937
③④
LD : SRLM 938
⑤⑥
LD : SRLM 939
⑦⑧
LD : SRLM 940
⑨
LD : CSLM 924
※ LD : S5LV 46 4048
①②
LD : SLV 46 363
③④
LD : SLV 46 365
⑤⑥
LD : SLV 46 366
⑦⑧
LD : SLV 46 367
⑨
LD : SLV 46 364



▲LD SLV 46 366(ベートーヴェン:交響曲第4&5番)

○R.シュトラウス/楽劇『ばらの騎士』

■アンナ・トモフ=シントウ(S:マルシャリオン), クルト・モル(Bs:オックス男爵), アグネス・バルツァ(Ms:オクタヴィアン), ゴットフリート・ホーニク(Br:ファニーナル), ジャネット・ペリー(S:ゾフィー), ウィリアム・リップ(S:マリヤンネ), ハイムツ・ツエドニク(T:ヴァルツァッキ), ヘルガ・ミューラー=モリナーリ(A:アンニナ), ヴィクター・フォン・ハーレム(Bs:警部), クルト・エックヴィルト(T:侯爵家の家令), フランツ・カーゼマン(T:ファニーナル家の家令), カルロス・フェラー(Bs:公証人), カール・テルカル(T:料理屋の主人), ヴィンソン・コール(T:歌手), プリギッテ・ボッシュナー(S:孤児), ヴァルトラウト・ヴィンザウアー(Ms:孤児), マーガレータ・ヒンターマイヤー(A:孤児), ガブリエレ・シマ(S:小間物屋), ホルスト・ニッテ(T:動物売り), アドルフ・トマシェク(T:召使い), ヨハン・ラインプレヒト(T:召使い), ヴォルフガング・シャイダー(Bs:召使い), ゲルハルト・バンツェンベック(Bs:召使い), イング・コブリツ(T:給仕), ヴォルフガング・ホルツァー(T:給仕), ヴァルター・ツエ(Bs:給仕), ハネス・リヒテンベルガー(Bs:給仕), ヨハン・ロイチュニク(Bs:ボーター), ウィーン国立歌劇場cho., ヘルムート・フロシャウアー(合唱指揮), ウィーンpo.

▶1982年11月22~24日, 29日~12月4日, 1983年5月9~10日, 1984年1月8~10日ウィーン, ムジックフェラインザール

□ギンター・ブレースト/レナーテ・クプファー

- LP : 46MG 10756-7
CD : F20G 29046, F00G 27006
②
LP : 28MG 0758
CD : F00G 27018, POCG 9451
[②の第1楽章]
CD : POCG 2061
※ LP : 415 066-1
CD : 413 932-2, 415 066-2, 439 004-2, 439 200-2

- ①
LP : 413 933-1
CD : 427 027-2
②
LP : 413 936-1

※日付的にはテレモンディアルの映像と同一であり、録音技師のギンター・ヘルマンズがポスト・レコーディング・ワークと表示されている。このディスコグラフィでは、ライブ映像以外は別々に扱うことにする。



▲413 932-1(ベートーヴェン:交響曲第6番(田園))

▼V.ベートーヴェン/①交響曲第1番ハ長調作品21②第8番ハ長調作品93③第2番ニ長調作品36④第3番変ホ長調作品55(英雄)⑤第4番変ロ長調作品60⑥第5番ハ短調作品67⑦第6番ハ長調作品68(田園)⑧第7番イ長調作品72⑨第9番ニ短調作品125(合唱)

■レック・クベリ(S/⑨), ヘルガ・ミューラー=モリナーリ(Ms/⑨), ヴィンソン・コール(T/⑨), フランツ・グルントヘーバー(Bs/⑨), ウィーン楽友協会cho.(⑨), ヘルムート・フロシャウアー(合唱指揮/⑨), ベルリンpo.

▶1982年11月18~21日(⑥/⑦), 1983年11月29日~12月6日(⑤/⑧), 1984年1月23~31日(①/④), 2月18~24日(②/③), 1986年9月19~29日(⑨)ベルリン, フィルハーモニーザール

録音監修: ミシェル・グロツ
録音技師: ギンター・ヘルマンズ, ヴォルフガング・ギュリヒ(⑥/⑦)
オーディオ・ポスト・プロダクション: クリスチャン・コンスタンチノフ
アシスタント□フランツ・カール・ミューラー

カメラ操作: エルンスト・シュトリツィンガー
ポスト・プロダクション: イエティ・グリジョーニ(①~⑧), ソニーPCL(片岡伸也, 池崎千晶, 森新介, 中川雄二)(①~⑧), ノルベルト・ギンベル(⑨), ラルフ・ベルツォグ(⑨), ブッチ・メトハイト(⑨)

ビデオ編集: マリータ・ヴィット
□ウリ・メルクレ
リライゼーション: ヘルベルト・フォン・カラヤン, エルンスト・ヴィルト
映像監督: エルンスト・ヴィルト
[EP] エルンスト・ヴィルト
▲LD : CSLM 916-20

- [部分]
CD : F26G 29003, F20G 29052, PCD 8005, POCG 3057
※ LP : 2741 025
CD : 410 088-2
[ハイライト]
LP : 413 322-1
CD : 413 322-2
[前奏曲]
CD : 415 340-2, 419 735-2, 423 803-2

- [部分]
CD : 415 341-2, 426 371-2, 427 031-2, 427 914-3, 431 101-2, 431 255-2, 437 694-2

※フラスキータの台詞を担当したイザベラ・カラヤンはカラヤンの長女である。



▲2741 025(ビゼー:歌劇(カルメン))

○マーラー/交響曲第9番ニ長調

■ベルリンpo.

▶1982年9月30日(L)ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギンター・ブレースト

□ミシェル・グロツ

□ギンター・ヘルマンズ

M410 727-8

※ CD : F66G 50038-9, POCG 1182-3, POCG 9512-3

[第1楽章の部分]

CD : POCG 9441

※ CD : 410 726-2, 439 024-2

※ベルリン芸術週間におけるライブ録音。C Dのみの発売である。



▲439 024-2(マーラー:交響曲第9番)

○ベートーヴェン/①交響曲第5番ハ短調作品67②第6番ハ長調作品68(田園)

■ベルリンpo.

▶1982年11月18~21日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギンター・ブレースト

□ミシェル・グロツ

□テレモンディアル

□ギンター・ヘルマンズ

M413 932

※ LP : 00MG 4550-6

CD : F35G 50002, F35G 20042, F00G 50322-7, POCG 4067, POCG 1866-71

①

- D ミシェル・グロツ
 E ギュンター・ヘルマン
 M 415 106
 L P : 28MG 0842
 C D : F35G 50044, F35G 20047, POCG 1206

- ②
 C D : POCG 2064
 [②のメヌエット]
 C D : POCG 2061, POCG 2641
 L P : 415 106-1
 C D : 415 106-2

※'82年9月の録音の歌劇《カルメン》全曲盤より《カルメン》組曲をカッパリングしたのが、初出オリジナルである。なお、ジャケットの絵画はエリエッテ・フォン・カラヤンによる。

- ◎①アルビノーニ(ジャゾット編)/弦とオルガンのためのアダージョ ト短調
 ◎ヴィヴァルディ/フルート協奏曲ト短調作品10-2(夜) ◎J.S. バッハ/管弦楽組曲第3番 BWV.1068より《アリア》
 ④バッハベル(サイフェルト編)/カノンとジーグ 二長調Gグルック
 /歌劇《オルフェオとエウリディーチェ》より《精霊の踊り》
 ⑥モーツァルト/セレナード第6番二長調K.239《セレナータ・ノットウルナ》

- ディヴィッド・ベル(org/①/③), フランク・マウス(cemb/②/④), アンドレアス・ブラウ(fl/②), カール・ハインツ・ツェラー(fl/⑤), トーマス・ブランドス(vn-I/⑥), エミール・マース(vn-II/⑥), ナイトハルト・レーザ(va/⑥), ライナー・ツェベリッツ(cb/⑥), ベルリンpo.

▶1983年9月28〜30日ベルリン, フィルハーモニーザール

- P ギュンター・プレースト
 D ミシェル・グロツ
 E ギュンター・ヘルマン
 M 413 309

- L P : 28MG 0735
 C D : F35G 50067, POCG 1208

- ①
 C D : POCG 2063, POCG 3441
 ②
 C D : F26G 29044
 ③
 C D : F32G 20100, POCG 2061, POCG 3441

- ④
 C D : POCG 2062, POCG 3441

- ⑤
 C D : F32G 20100, POCG 2064

- ⑥
 C D : F32G 20210, POCG 1379, POCG 7108

- L P : 413 309-1
 C D : 413 309-2, 427 912-3

- ①
 C D : 445 282-2

- ②
 C D : 423 226-2, 423 555-2, 427 851-2, 429 167-2, 447 202-2

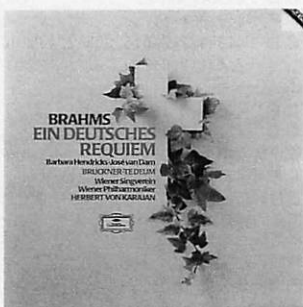
- ③
 C D : 419 406-2, 445 282-2

- ④
 C D : 423 803-2, 427 912-3, 445 282-2

- ⑤
 C D : 419 406-2

- ⑥
 L P : 423 375-1
 C D : 423 375-2, 431 257-2, 431 272-2, 431 292-2

- ①
 C D : 431 651-2
 ②
 C D : 415 980-2
 [部分]
 C D : 442 258-2



▲410 521-1(ブラームス: ドイツ・レクイエム&ブルックナー: テ・デウム)

- ◎ブラームス/交響曲第4番木短調作品98

- ベルリンpo.
 ▶1983年8月27日ザルツブルク, 祝祭大劇場

- C D : LCB 123

※この年はブラームスの生誕150年にあたっており、カラヤンは交響曲4曲を「4番・2番」と「3番・1番」という組み合わせで頻繁にとりあげた。

- ◎ベートーヴェン/交響曲第9番二短調作品125(合唱付き)

- ジャンネット・ペリー(S), アグネス・バルツァ(A), ヴィンソン・コール(T), ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs-Br), ウィーン楽友協会cho., ヘルムート・フロシヤウアー(合唱指揮), ベルリンpo.

▶1983年9月20〜27日ベルリン, フィルハーモニーザール

- P ギュンター・プレースト
 D ミシェル・グロツ
 R テレモンディアル
 E ギュンター・ヘルマン
 M 410 987

- L P : 46MG 10756-7, 00MG 4550-6
 C D : F35G 50001, F00G 50322-7, F35G 20043, F00G 27001, POCG 18 66-71

- L P : 413 933-1, 415 066-1
 C D : 410 987-2, 415 066-2, 439 006-2, 439 200-2



▲413 933-1(ベートーヴェン: 交響曲第5番(合唱))

- ◎ビゼー/①《アルルの女》第1組曲②第2組曲

- ダニエル・デファイエ(sax), ベルリンpo.

▶1983年9月28日, 1984年2月19日ベルリン, フィルハーモニーザール

- P ギュンター・プレースト

- D ミシェル・グロツ/ヴェルナー・マイヤー

- E ギュンター・ヘルマン
 M 413 164-7

- L P : 00MG 0741-4
 C D : F95G 50549-51
 [ハイライト]
 C D : F35G 50321, POCG 3062
 [部分]
 C D : F26G 29003, POCG 9441

- L P : 413 163-1
 C D : 413 163-2, 423 850-2
 [ハイライト]
 L P : 415 284-1
 C D : 415 284-2
 [部分]
 C D : 415 341-2

- ◎ブラームス/①ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲イ短調作品102②悲劇的序曲作品81

- アンネ・ゾフィー・ムター(vn/①), アントニオ・メネセス(vc/①), ベルリンpo.

▶1983年2月16〜17日ベルリン, フィルハーモニーザール

- P ギュンター・プレースト
 D ヴェルナー・マイヤー
 E ギュンター・ヘルマン
 M 410 603

- L P : 28MG 0643
 C D : F35G 50108

- ①
 C D : POCG 4076

- ②
 C D : F00G 20426, POCG 1382

- L P : 410 603-1
 C D : 410 603-2

- ①
 C D : 439 007-2

- ②
 L P : 2740 275, 427 496-1
 C D : 427 496-2, 427 602-2

- ◎ワーグナー/歌劇《さまよえるオランダ人》序曲

- ベルリンpo.

▶1983年3月26日ザルツブルク, 祝祭大劇場

- C D : LCB 130

※ザルツブルク・イースター音楽祭初日の上演より序曲のみがとられている。

- ◎①ブラームス/ドイツ・レクイエム作品45②ブルックナー/テ・デウム

- バーバラ・ヘンドリックス(S/①), ジョゼ・ヴァン・ダム(Br/①), ジャンネット・ペリー(S/②), ヘルガ・ミューラー=モリナーリ(A/②), エスター・ヴィンペルイ(T/②), アレクサンダー・マルタ(Bs/②), ウィーン楽友協会cho., ヘルムート・フロシヤウアー(合唱指揮), ルドルフ・ショルツ(org), ウィーンpo.

▶1983年5月4〜8日(①), 1984年9月22日(②)ウィーン, ムジックフェラインザール

- P ギュンター・プレースト
 D ミシェル・グロツ
 E ギュンター・ヘルマン
 M 410 522-3

- L P : 52MG 0890-1
 C D : F66G 50187-8, POCG 1554-5

- ①
 C D : POCG 1100

- L P : 410 521-1
 C D : 410 521-2

ヘルベルト・フォン・カラヤン



金井 清

名演奏の徹底比較⑨

シュトラウス・ファミリアの一連の作品は、カラヤンの意外に知られていない重要なレパートリーのひとつである。主な曲の録音回数をみると、《ラデツキ行進曲》《アンネン・ボルカ》各五回、《美しく青きドナウ》《トリツチ・トラツチ・ボルカ》《雷鳴と電光》各六回、《こもり》序曲《皇帝円舞曲》《うわごと》各七回、そして《ジプシー男爵》序曲九回といったところだが、これら小品と呼

ばれるものの録音回数としては驚くべきものであり、ベートーヴェン、ブラームスの交響曲、あるいはチャイコフスキーの後期三大交響曲のそれに並ぶくらい返しの頻度は、特筆すべきことである。《天体の音楽》は別表のとおり三つの演奏が残されており、VPOとBPOによるものである。この他に一九五八年一月にフィルハーモニア管との録音があるが未発売である。また一九八五年のジルヴェスター・コンサートでも同曲は演奏されているが、LDには収録されていない。

①は一九四九年十月のSP録音で演奏はVPO。戦後カラヤンの演奏活動がいよいよ波にのる頃の録音である。また、ウィーン響とも演奏旅行を始めている頃で、いうならば①は「世界制覇」に向けて動きはじめたころの記録である。カラヤンは十年後にも再びVPOとイギリス・デッカにシュトラウス・ファミリアの作品集を録音しているが、いずれの演奏からも感じられる優雅な雰囲気は聴き比べてみるのも一興である。なお、この演奏は国内ではオムニバス盤も含め再三発売されていたが、擬似ステレオ盤での発売がほとんどであり、オリジナル・モノの雰囲気とは程遠いものであった。

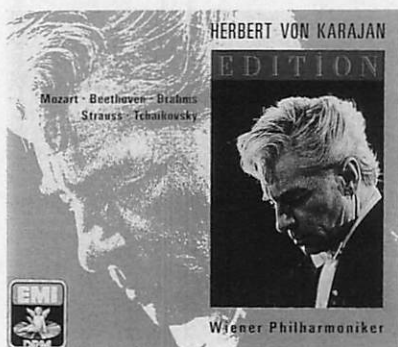
②は①の約三十年後の一九八〇年、BPOとのデジタル録音で本拠地のフィル

ハーモニーでおこなわれたもの。本格的なデジタル録音に着手しての「デジタル元年」の幕開けのなかの一枚ともいえるだろう。また、この演奏が収められたディスクはLP三枚のアルバムで、その曲数の多さと斬新な曲順構成で驚かされたことを思いだす。

③は一九八七年の「ニューイヤール・コンサート」のライヴで、全世界に向けて生中継されたものである。当時カラヤンは体調不調のため、はたして実際に指揮台に立つか公演前から大きな話題になったが、三ヶ月間演奏会を行わずに療養に努め、万全を期してこの演奏会に臨んだ。生まれ故郷オーストリアの、そしてVPOとの生涯唯一のニューイヤール・コンサートになるであろうことは、カラヤン自身確信していたはずであり、この公演に対する意気込みは計り知れないものがあったであろう。

①はSP録音ではあるが、VPOの美しい演奏を十分に楽しむことができる音質だ。CD化も適切で音質の弱さに若干の不満があるものの好ましいものに仕上がっている。演奏は神秘的な序奏から雰囲気十分に開始され、聴くものの期待感を高めずにはおかぬ。弦楽器のトレモロにも生気が感じられる。主部にはいつてからは終始優雅な雰囲気があり音楽もしなやかで流麗だが、レガートとアクセントの対比は三つの演奏のなかでは最もとはつきりしている。続く中間部のワルツでは微妙なアゴーギクを聴くことができ、この演奏をより魅力的なものとしている。後半部にかけても優雅な雰囲気は持続し、コーダでは活気をもって曲を締めくくる。①は②③に比べて一分から二分近く演奏時間が短い。これはSPへの録音のためか、中盤以降のリピーが省略されているからである。

②は序奏の精緻なアンサンブルにまず耳を奪われる。録音技術の向上もありダイナミクスの幅も広い。録音は時にマルチ・マイクになるが、ティンパニなどにも力強さが感じられる中低音の充実し





1959年、国立歌劇場の「舞踏会」を指揮するカラヤン

た音で捉えられており、フィルハーモニーの前部客席で聴くBPOの雰囲気がよくでている。主部ではテヌートやポルタメントが次々とあらわれ、①とは大きな違いがみられる。①の流麗さと比べ②の豊麗かつ重い響きは、いかにもBPO的だ。またメロディには常にレガートがかかり、Gの響きはシンフォニックなものとなっている。中間部も前半同様、終始充実した響きのなかですめられるが、①

[ここでとりあげた3つのディスク]

①イギリス・コロムビア

VPO

1949年10月18日ウィーン、ムジークフェラインザール

Pウォルター・レッグ

Eダグラス・ラター/アンソニー・グリフィス

②SPLX 1250

③EW 53(55年7月発売)

②ドイツ・グラモフォン

BPO

1980年6月13~15日, 9月29~30日, 12月4日ベルリン、フィルハーモニーザール

Pギンター・ブレスト

Dミシェル・グロツ

Eギンター・ヘルマン

②532 027(82年5月発売)

③28MG 0249(82年8月発売)

③ドイツ・グラモフォン/映像 テレモンディ

アル

VPO

1987年1月1日(L)ウィーン、ムジークフェラインザール

[ディスク]

Pギンター・ブレスト

Dミシェル・グロツ

Eギンター・ヘルマン

②419 616-1(87年9月発売)

③23MG 0958(87年4月発売)

[映像]

映像監督: エルンスト・ヴィルト

録音監督: ミシェル・グロツ

Dハンプリー・パートン

EPウリ・メルクレ/エルンスト・ノイシュビル

②LD SLV 45 985

③LD CSLM 907(90年10月発売)

③は静かで自然な雰囲気の中で、過度の緊張感や作爲的な音楽作りはまったく感じられないが、これはニューイヤ・コンサート一曲目の《こうもり》序曲を終えたあとの和やかな空気が作りだした雰囲気ともいえる。画面から見られるカラヤンの表情にもつね日頃の厳しさはなく、団員や喝采を送る聴衆に対するまなざしには、柔らかな光すら感じられる。主部にはいつてからは②同様レガートの美しい演奏が繰り広げられるが、ポルタメントや人工的なフレージングは感じられない。中間部も自然で楽しげな演奏が続く、高音弦の歯切れのよさに祝祭的な

華やかな気分も感じられる。再現部では優雅に曲が回想され、VPOの上品な音色が落ち着いた雰囲気を出している。終結部は特にテンポを速めることなく、堂々と曲を締めくくるのは②同様である。なお③は前半部分に②より演奏時間が少々短い。略があるため②より演奏時間が少々短い。①③はともにVPOによるものだが、両者ともにウィーン風のリズムを強調したウィーン・ワルツではなく、どちらも率直で素朴な味わいをもったものである。カラヤンの演奏するシュトラウス・フ

アミリーの音楽からは、慣例にとらわれることのない客観性と、愉悅感を抑制した「情緒に流されない音楽」を常に感じることができ、それゆえ演奏に深い説得力と普遍性があるのは、録音されてからすでに半世紀を過ぎようとしている①を聴いてみても明らかである。それはまた他国の演奏家が憧憬と敬意の念をもつてこれらの作品の演奏に臨むのとは異なり、母国の音楽に対し誇りと責任を担っているがゆえであることは想像に難くない。



②532 027



④419 616-1



ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 (資料提供:D.C.ランボン(英), 鈴木恭司, 金井清)



[ディスコグラフィ記載方法]

- 記載順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー(P)、ディレクター(D)、レコーディング・エンジニア(E)、マトリックス番号(M)、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。また、(E)はエグゼクティブ・プロデューサー、(R)はレコーディング、(C)はコーディネーション、(Mx)はミキシングを、日付のあとに(L)はライブ録音・録画を表す。
- 曲目の前の[V]は映像作品を示し、ライブ映像を除いて同一収録年月日のCとLは各々項目を分けて掲載した。外国盤の再生方式(PAL/NTSC等)は、レコード番号のあとに記した。
- 配列は初出のアルバム・ボックスの最も早い収録日によっており、発売順とは一致しない。収録年月日は録音・録画に要した日付であり、実際には使われていないディスクも含んでいる。また、日にちが詳しく発表されていないデータは、年月でとどめた。
- レコード番号は、LP、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごとに発売順に並んでいる。
- アルバムのなかでは、①②③の曲順番号を便宜上つけて各々のデータを分けた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲順番号を記したが、必ずしも収録順序を示してはいない。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは、[ハイライト]・[部分]としたが、各々のLPやCDでの収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末の「新譜CD・LD一覧表」のものを使用している。

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

■ベルリン po.
▶1983年12月31日ベルリン、フィルハーモニーザール

リアリゼーション: ヘルベルト・フォン・カラヤン、エルンスト・ヴィルト、ゲラ・マリナ・ルンネ

録音技師: ギュンター・ヘルマンズ
オーディオ・ポスト・プロダクション:
クリスチャン・コンスタンチノフ、デ

イヴィッド・スミス
ビデオ・ポスト・プロダクション: ノ
ルベルト・ギンペル、ラルフ・ベルツ

オグ、ブッチ・メトハイト
映像監督: エルンスト・ヴィルト

ビデオ技術: アルネ・オーレンドルフ、
ヴァルター・ヴァーグナー

撮影: ヴォルフ・ディーター・ベルクマン、
ジャン・ビエール・クレール、ク

シシトフ・フィラス、ヴェルナー・グ
ラプス、マンフレート・シェーブス

タート、ユルゲン・シュミット・ヤコ
ビー、マヌエル・シュタル

ビデオ・ミックス: ユタ・ヒルシュ
ドゥヴァル

プロダクション・マネージメント: ラ
イナー・ホーラー、マルクス・ツェルナ

アシスタントP: エルンスト・イェンゼン
リダクション: ヨアヒム・アウグスティ

ン
LD SRLM 996
LD SLV 46 401

○チャイコフスキー/交響曲第6番口短
調作品74《悲愴》

■ウィーン po.
▶1984年1月10〜16日ウィーン、ムジ
ックフェラインザール

P: ギュンター・ブレスト
D: ミシェル・グロツツ
E: ギュンター・ヘルマンズ

M415 095
LP: 28MG 0841
CD: F35G 50043, F35G 20044, POCG
1179

LP: 415 095-1
CD: 415 095-2, 435 356-2, 439 020-
2

V・チャイコフスキー/①交響曲第4番
へ短調作品36②第5番木短調作品64③
第6番口短調作品74《悲愴》

■ウィーン po.

CD: POCG 3441
LP: 415 121-1, 415 066-1
CD: 415 121-2, 415 066-2, 439 003-
2, 439 200-2
[②の第2楽章]
CD: 445 282-2



▲439 003-2(ベートーヴェン:交響曲第4&7番)

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

■ベルリン po.
▶1983年12月28〜31日, 1984年1月24日,
30日, 2月24日ベルリン, フィルハー
モニーザール

P: ギュンター・ブレスト
D: ミシェル・グロツツ
E: ギュンター・ヘルマンズ

M413 587
LP: 28MG 0734
CD: F35G 50068, POCG 1205

①
CD: F32G 21000, POCG 2061, POCG
2641

②
CD: F20G 29046

③
CD: POCG 2062

④
CD: F20G 29046, POCG 2065

⑤
CD: F26G 29001, POCG 2064, POCG
2641

LP: 413 587-1
CD: 413 587-2

①
CD: 427 808-2, 445 550-2

②
CD: 427 027-2, 427 808-2, 445 550-
2

④
CD: 427 027-2

⑤
CD: 415 340-2

V・R.シュトラウス/アルプス交響曲作
品64

■ベルリン po.
▶1983年11月20日ベルリン, フィルハー
モニーザール

ビデオD: フーゴ・ケフ
P: ウリ・メルクレ
テクニカル・スーパーヴァイザー: エルン
スト・ヴィルト

映像監督: エルンスト・ヴィルト
芸術監督: ヘルベルト・フォン・カラヤン

録音監督: ミシェル・グロツツ
録音技師: ギュンター・ヘルマンズ

オーディオ・ポスト・プロダクション:
クリスチャン・コンスタンチノフ, デ

イヴィッド・スミス
アシスタントD: ルース・ケフ

音響録音: フォルカー・マンティン, ラ
イナー・ヘプナー

ビデオ・ポスト・プロダクション: ノ
ルベルト・ギンペル, ラルフ・ベルツ

オグ, ブッチ・メトハイト
ビデオ技術: アルネ・オーレンドルフ,
ウェナー・リース, ヨーゼフ・レン

ケル
撮影: アヒム・バイヤー, ハルトムート
・ビーアマン, デットマール・ガルツ

フスキー, ベーター・メッツラー, ベル
ント・オルブリヒ, ヴォイテック・シ

ュベアル, ハンス・ヨアヒム・トラッ
プ

ビデオ・ミックス: ユタ・ヒルシュ
ドゥヴァル

プロダクション・マネージメント: ウー
ヴェ・コーリイ, ライナー・ホーラー

アソシエイトP: エルンスト・イェンゼン
リダクション: ヨアヒム・アウグスティ

ン
LD SRLM 973
LD SLV 46 400

○ベートーヴェン/①交響曲第4番変ロ
長調作品60②第7番イ長調作品92

■ベルリン po.
▶1983年12月1〜3日, 5日ベルリン,
フィルハーモニーザール

P: ギュンター・ブレスト
D: ミシェル・グロツツ
E: テレモンディアル

R: ギュンター・ヘルマンズ
M415 121
LP: 28MG 0800, 00MG 4550-6
CD: F35G 50042, F00G 50322-7, F35
G 20048, POCG 4069, POCG 18
66-71

①
CD: F00G 27018, POCG 7120

②
CD: F00G 27006, POCG 9451
[②の第2楽章]

録音技師：ギュンター・ヘルマン
オーディオ・ポスト・プロダクション：
クリスチャン・コンスタンチノフ
アシスタント②フランツ＝カール・ミュ
ラー
カメラ操作：エルンスト・シュトリツ
ィンガー
ビデオ編集：マリータ・ヴィット
ポスト・プロダクション：イエティ・グ
リジョーニ、片岡伸也、池崎千品、森
新介、中川雄二
制作：ウリ・メクレ
映像監督：エルンスト・ヴィルト
EPエルンスト・ヴィルト
リアライゼーション：ヘルベルト・フォン
・カラヤン、エルンスト・ヴィルト
LD SRLM 954
SLV 46 385

○シベリウス／①交響曲《フィンラン
ディア》作品26②《トウオネラの白鳥》作
品22-2③《悲しきワルツ》作品44-1④交響
曲《タビオラ》作品112
■ゲルハルト・シュテンブニク(ehr/②)、
ベルリンpo.
▶1984年2月19日、24日ベルリン、フィル
ハーモニーザール
Pギュンター・プレースト
Dミシェル・グロツ
Eギュンター・ヘルマン
M413 755
LD P: 28MG 0740
CD: F35G 50070, F35G 21013, F00G
27021

①
CD: F26G 29001, POCG 2063, POCG
2641, POCG 4073
②
CD: POCG 2064, POCG 4073
③
CD: F32G 20100, POCG 2065, POCG
4073, POCG 3441
LD P: 413 755-1
CD: 413 755-2
①
CD: 415 340-2, 427 808-2, 439 010-
2, 445 550-2
②
CD: 439 010-2
③
CD: 419 406-2, 439 010-2, 445 282-
2
④
CD: 445 518-2



▲413 755-1(シベリウス/管弦楽曲集)

○チャイコフスキー／交響曲第5番木短
調作品64
■ウィーンpo.
▶1984年3月13～22日ウィーン、ムジ
ックフェラインザール
Pギュンター・プレースト
Dミシェル・グロツ

LD P: 00MG 4550-6, 28MG 4534
CD: F00G 50322-7, F35G 50246, F35
G 21032, POCG 1155, POCG 40
71, POCG 1866-71

②
CD: POCG 7120
LD P: 415 066-1, 415 505-1
CD: 415 066-2, 415 505-2, 439 001-
2, 439 200-2

○ベートーヴェン／①交響曲第8番ハ長
調作品93②《コリオラン》序曲作品62③
歌劇《フィデリオ》序曲作品72b④序曲
《レオノーレ》第3番作品72a

■ベルリンpo.
▶1984年1月27日(①), 2月20～21日(①),
1985年12月2日(②/③/④), 4日(②/
③/④) ベルリン、フィルハーモ
ニーザール

Pギュンター・プレースト
Dミシェル・グロツ
Eギュンター・ヘルマン
M415 507
LD P: 00MG 4547-53, 28MG 4558
CD: F00G 50322-7, F35G 20019, PO
CG 4070, POCG 1866-71

①
CD: F00G 27026
③
CD: POCG 7120
LD P: 415 066-1, 415 507-1
CD: 415 066-2, 415 507-2, 439 005-
2, 439 200-2

○ワグナー／①歌劇《タンホイザー》序
曲②ヴェススベルクの音楽(バツカ
ナール)③楽劇《ニュルンベルクのマイ
スタージンガー》第3幕前奏曲④《トリ
スタンとイゾルデ》第1幕前奏曲と《イ
ゾルデの愛の死》

■ベルリンpo.
▶1984年2月18～19日ベルリン、フィル
ハーモニーザール
Pギュンター・プレースト
Dミシェル・グロツ
Eギュンター・ヘルマン
M413 754
LD P: 28MG 0739
CD: F35G 50069, POCG 1211, POCG
9510
LD P: 413 754-1
CD: 413 754-2, 439 022-2
④
CD: 431 257-2



▲413 754-1(ワグナー/管弦楽曲集)

○ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏
曲第2番長調作品61
■アンネ＝ゾフィー・ムター(vn), ベル
リンpo.
▶1984年2月18～24日ベルリン、フィル
ハーモニーザール
録音監督：ミシェル・グロツ

▶1984年1月(③), 3月(②), 9月(①)
ウィーン、ムジックフェラインザール
リアライゼーション：ヘルベルト・フォン
・カラヤン、エルンスト・ヴィルト
Pウリ・メクレ
録音監督：ミシェル・グロツ
録音技師：ギュンター・ヘルマン
バランス②クリスチャン・コンスタンチ
ノフ(②/③)

オーディオ・ポスト・プロダクション：
クリスチャン・コンスタンチノフ(①),
デイヴィッド・スミス(①), スティ
ーヴン・デュアー(②/③)
アシスタント②アレクサンダー・ツィン
マーマン、フランツ＝カール・ミュ
ラー

カメラ操作：エルンスト・シュトリツ
ィンガー

ビデオ・ポスト・プロダクション：ノ
ルベルト・ギンベル、ラルフ・ベルツ
、アナトーレ・ヴァファジカーニ
ャ(①), ブッチ・メトハイト(②/③)
ビデオ編集：マリタ・ツェルバン
EPエルンスト・ヴィルト
映像監督：エルンスト・ヴィルト
LD SRLM 1059-60

LD ①
SLV 48 309
②
SLV 48 310
③
SLV 48 311

○ベートーヴェン／①交響曲第3番変ホ
長調作品55《英雄》②《エグモント》序曲
作品84

■ベルリンpo.
▶1984年1月25～26日(①), 28～29日
(①), 1985年12月2日(②), 4日(②)
ベルリン、フィルハーモニーザール
Pギュンター・プレースト
Dミシェル・グロツ
Eギュンター・ヘルマン
M415 506
LD P: 00MG 4547-53, 28MG 4557
CD: F00G 50322-7, F35G 20018, PO
CG 4068, POCG 1866-71

①
CD: F00G 27026
LD P: 415 506-1, 415 066-1
CD: 415 506-2, 415 066-2, 439 002-
2, 439 200-2



▲439 002-2(ベートーヴェン：交響曲第3番《英雄》&
《エグモント》序曲)

○ベートーヴェン／①交響曲第1番ハ長
調作品21②第2番二長調作品36
■ベルリンpo.
▶1984年1月27日(①), 2月20～21日(②)
ベルリン、フィルハーモニーザール
Pギュンター・プレースト
Dミシェル・グロツ
Eギュンター・ヘルマン
M415 505

ビデオ・ポスト・プロダクション：ノ
ルベルト・ギンベル、ラルフ・ベルツ
オグ、ブッチ・メトハイト
オフ・ライン編集：マルタ・ツェルバン
技術監修：エルンスト・ヴィルト
映像監修：エルンスト・ヴィルト
照明監督：ヴィルヘルム・マルホルツ
ビデオ技術：マルガレーテ・シュトゥ
ンマー、ローラント・シュタンデック

撮影：フェリックス・クレンクル、アウ
グスト・ベンデル、ハンス・ヴィクト
ー・ケッペラー、ヴォルフガング・
ロイトゲープ、ハンス・シュタミン
グ、クラウス・デ・ツヴァーン、アン
トン・シャルル
ビデオ・ミックス：ゲアハルト・ブ
ラウンスベルガー
アシスタント・ビデオ：ロース・ケフ
プロダクション・マネージャー：ハイン
リヒ・アイグナー
コーディネーション：ヴィルフリート・
シャイブ

EP エルンスト・ノイシュピール
リダクション：フラッツ・カペルカ
LD SRLM 1074-5
LD S2LV 48 313



▲LD S2LV 48 313 (R.シュトラウス：演劇「ばらの騎士」)

◎ヴィヴァルディ／協奏曲集《四季》作品 8-1-4

■アンネ＝ゾフィー・ムター(vn)，ウィ
ーンpo.

▶1984年8月27日ザルツブルク、祝祭大
劇場

CD：LCB 101

※ザルツブルク音楽祭におけるライブ録音。
午前11時よりのマチネ・コンサートで後半の
プログラムはチャイコフスキーの交響曲第6
番《悲愴》である。このCDの解説書の8月
28日は誤りである。

◎チャイコフスキー／交響曲第4番短 調作品36

■ウィーンpo.

▶1984年9月17～24日ウィーン、ムジ
クフェラインザール

P ギュンター・プレースト

D ミシェル・グロツ

E ギュンター・ヘンマンス

M 415 348

LD P：28MG 0874

CD：F35G 50235, F35G 21036, POCG
1158

LD P：415 348-1

CD：415 348-2, 435 356-2, 439 018-
2

CD：CDZ 253 058-2

〔秋〕

CD：CDC 555 266-2

V◎R.シュトラウス／楽劇《ばらの騎士》

■アンナ・トモワ＝シントウ(S：元帥ヴ
ェルデンベルク侯爵夫人)，クルト・
モル(Bs：オックス男爵)，アグネス・
バルツァ(Ms：オクタヴィアン)，ゴッ
トフリート・ホーニク(Br：フォン・フ
ァニナル)，ジャネット・ベリー(S：
ゾフィー)，ウィリアム・リップ(S：マ
リアンネ)，ハインツ・ツェドニク(T：
ヴァルツァッキ)，ヘルガ・ミューラー＝
モリナーリ(A：アンニーナ)，クスト
・リュードル(Bs：警部)，ヨーン・フ
ァン・ケステレン(T：侯爵家の家令)，
フランツ・カーゼマン(T：ファニナル
家の家令)，アルレート・ズラメック
(Bs：公証人)，カール・テルカル(T：
料理屋の主人)，ヴィンソン・コール(T：
歌手)，ゲルトルト・オッテンター
ール，グラシエラ・デ・ギューデンフェ
ルト，チスラク・スラニア(以上，3人
の貴族の孤児)，ガブリエレ・シマ(S：
小間物屋)，ホルスト・ニッチェ(T：
動物売り)，アドルフ・トマシェク(T：
伯爵夫人の召使い)，ヨハン・ライ
ンブレヒト(T：伯爵夫人の召使い)，ヴ
ォルフガング・シャイダー(Bs：伯爵
夫人の召使い)，ゲルハルト・バンツ
ェンベック(Bs：召使い)，ヴォルフガ
ング・ホルツァー(T：給仕)，インゴ
・コプリツ(T：給仕)，ハネス・リヒ
テンベルガー(Bs：給仕)，ヴァルター
・ツェ(Bs：給仕)，ベーター・ブッセ(理
髪師)，ゲルダ・フェアメル(貴族の
未亡人)，アントン・ハイナ(フルト
奏者)，オズヴァルト・ハーデラー(楽
師)，ニコラウス・シリコフスキー(ロ
イボルト)，マルティナ・ベヒリン
ガー(黒人の小姓)，ヴォルフガング・フ
ェルシュル，クリスティン・コルロス，
ゴットフリート・クドゥルナ，ヨゼフ
・ボガトシニク，ロベルト・シュプリ
ンガー(以上，不審な人物)，ウィーン
国立歌劇場cho.，ワルター・ハーゲン
＝グロル(合唱指揮)，ウィーンpo.

▶1984年ザルツブルク、祝祭大劇場

演出：ヘルベルト・フォン・カラヤン

芸術監修：ヘルベルト・フォン・カラヤン

セット・デザイン：テオ・オッター

照明：ヘルムート・ライヒマン，ヴェル
ナー・プランテンフェルダ

衣装：エルニ・クニーベルト

メイク：ドロテーア・アルノルト，ヴィ
ルヘルム・リーデ

ファイナル・リアリゼーション：エル
ンスト・ヴィルト

ビデオ：フーゴ・ケフ

P ウリ・メルクレ

副指揮者：ステファン・ゾルテス

舞台音楽監修：ラルフ・ホスフェルト

アシスタント：ロベルト・ミンダー，ハ
ンス＝ユルゲン・シュトックホル

舞台技術監修：フランツ・シュミット，
ゲロ・ツィンマーマン

装飾考証：イムレ・ヴァンツェ

衣装考証：マグダ・グストラ

録音監修：ミシェル・グロツ

録音技師：ギュンター・ヘルマンス

バランス：クリスチャン・コンスタンチ
ノフ

オーディオ・ポスト・プロダクション：
スティヴン・デュアー

音響録音：ライナー・ヘブナー，フ
ォルカー・マルティン

R テレモンディアル

E ギュンター・ヘルマンス

M 415 094

LD P：28MG 0847

CD：F35G 50073, POCG 1220

LD P：415 094-1

CD：415 094-2, 435 356-2, 439 019-
2

◎ヴェルディ／レクイエム

■アンナ・トモワ＝シントウ(S)，アグ
ネス・バルツァ(A)，ホセ・カレーラ
ス(T)，ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs)，
ウィーン国立歌劇場cho.，ソフィア国
立歌劇場cho.，ワルター・ハーゲン＝
グロル(合唱指揮)，ウィーンpo.

▶1984年6月5～13日ウィーン，ムジ
クフェラインザール

P ギュンター・プレースト

R テレモンディアル

D ミシェル・グロツ

E ギュンター・ヘルマンス

M 415 092-3

LD P：52MG 0854-5

CD：F66G 50096-7, POCG 1173-4

LD P：415 091-1

CD：415 091-2, 439 033-2

V◎ヴェルディ／レクイエム

■アンナ・トモワ＝シントウ(S)，アグ
ネス・バルツァ(Ms)，ホセ・カレーラ
ス(T)，ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs)，
ソフィア国立歌劇場cho.，ウィーン国
立歌劇場cho.，ワルター・ハーゲン＝
グロル(合唱指揮)，ウィーンpo.

▶1984年6月5～13日ウィーン，ムジ
クフェラインザール

リアリゼーション：ヘルベルト・フォン
・カラヤン，エルンスト・ヴィルト

P ウリ・メルクレ

録音監修：ミシェル・グロツ

録音技師：ギュンター・ヘルマンス

バランス：クリスチャン・コンスタンチ
ノフ

オーディオ・ポスト・プロダクション：
リチャード・キング

アシスタント：アレクサンダー・ツィン
マーマン

カメラ操作：エルンスト・シュトリツ
ィンガー

ビデオ・ポスト・プロダクション：ノ
ルベルト・ギンベル，ラルフ・ベルツ
オグ，ブッチ・メトハイト

ビデオ編集：マリタ・ツェルバン

EP エルンスト・ヴィルト

映像監修：エルンスト・ヴィルト

LD SRLM 1077

LD SLV 53 481

◎ヴィヴァルディ／協奏曲集《四季》作品 8-1-4

■アンネ＝ゾフィー・ムター(vn)，ウェ
ルナー・ヒンク(コンサートマスター)，
ウィリアム・ティム・リード(cemb)，
ヘルベルト・フォン・カラヤン(cemb)，
ルドルフ・ショルツ(org)，ウィーンpo.

▶1984年6月18～19日ウィーン，ホー
ブルク・ツェレモニエンザール

P ビーター・オルワード

E ヴォルフガング・ギュリヒ

M 27 0102

LD P：EAC 90225

CD：CC38 3160, CC30 9009, CE43 5
511, TOCE 7049, TOCE 6471

LD P：EL 270 102-1

CD：CDC 747 043-2, 555 205-2

〔夏〕の第3楽章

◎名演奏家

ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



ベリオーズ／幻想交響曲作品一四a

金井 清

名演奏の徹底比較⑩

「名演奏の徹底比較」の今回はベリオーズの《幻想交響曲》をとりあげる。カラヤンのレパートリー中、フランス音楽の占める割合はドビュッシー、ラヴェルをはじめ決して少なくなく、この《幻想交響曲》もそのなかの重要な一曲である。レコードとしては別表のとおり三つの録音がきれいに十年ずつの間隔をもって残されている。

①は五四年の夏にロンドンで録音されたもので、イギリス・コロンビアへのフィルハーモニア管弦楽団との録音としては比較的初期のものにあたる。前年の五三年にドビュッシーとラヴェルの作品〔33CX一〇九九〕をすでに録音しており、早くからこれらフランス音楽作品と取り組んでいる。一般的に考えて、ドイツ・オーストリア系の指揮者がイギリスのオーケストラでイギリスのレコード会社への一連の録音の早い時期に、これらフランス音楽を率先して録音することは稀であり、おおいに注目すべき点である。

②は十年後の六四年十二月にベルリンのダレムにあるイエス・キリスト教会でステレオ録音されたもの。すでにドイツ・グラモフォンの専属指揮者というイメージが広く認識されており、録音音量も急速に増えていったところである。また膨大な量の長期コーディング計画が発表され、その幅広いレパートリーはカラヤンとBPOの持つインターナショナルリズムをより強く印象づけることとなった。

このベリオーズの《幻想交響曲》はまさにその好例で、注目せざるを得ない一枚であった。

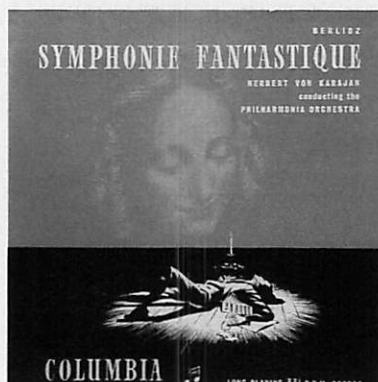
③はさらに十年後の七四年十月に収録会場を本拠地のフィルハーモニーへ移し、ドイツ・グラモフォンへ録音されたもの。

マラーの交響曲第五番《大地の歌》、「新ウィーン楽派管弦楽曲集」などのフィルハーモニーでの初期の録音の一枚であり、BPOの本拠地での新録音の変遷をたどる意味でも興味深いディスクである。

〔第一章 夢・情熱〕①は曲頭から寂

寥感が漂い、美しい抑々とともに独特の雰囲気を感じさせる。デニス・ブレインの奏するホルンの音色も神秘的で、弦楽器のアンサンブルは爽やかで管楽器との対比も見事だ。おのずからテクスチュアも明解で暖味なところがない。主部に入ってからレガートを生かしためりはりのきいた快活な演奏を展開する。一聴して敵しいリハサルが行なわれたことは明らかである。中間部も滑らかで自信に溢れたおらかな音楽が展開される。続くトゥッティの盛り上がりは凄まじく、情熱的な表現は迫力満点だ。終結部は再び寂寥感が漂い、静かに曲を終える。①はこの曲全体を支配する固定楽想をその旋律によってではなく、ところどころ顔を覗かせる寂寥感によって見事に表出している。また、モノラル録音ながらダイナミック・レンジも十分、バランスも良くとても四十年以上前に録音されたものとは思えないほどだ。②はデリケートな出だしで音の綾が美しいが①のよう

な寂寥感は感じられない。続く抑々へのダイナミクスの移行は自然でBPOらしい迫力もある。主部は速めでレガート、ポルタメントを使いテンポにも起伏を付け、表情豊かに奏されるが、決してアクの強い演奏ではなく、むしろ絶えず自然に流れる語り口のうまい音楽だ。終結部は①とは異なり、充実した響きだ。③はその精緻な音にまず耳を奪われる。デリケートの極みともいえる音色には予感めいたものが感じられるが、その期待は裏切られない。ダイナミクスは②をさらに拡大したものでレガートもよりいっそう美しくなり、①②よりも表現はロマンティックだ。ヴァイオリンとフルートによって奏される主題もたいへん見事で、ユニゾンの上に快く響く倍音が美しいことこのうえない。主部のテンポは終始速



● 33CX 1206

めなのは①②同様だが、粗雑なところはまったくない。トゥッティの盛り上がりも劇的すぎるが、あろうことか連打されるティンパニのタイミングが完全にずれているのが残念だ。終結部は憑きものが落ちたように静かに終わる。

【第二章 舞踏会】①は終始滑らかに自然体の演奏だ。ハーブが効果的にビック・アップされ華やいだ雰囲気を感じさせているが、固定楽想が現われると一転し第一章のような寂寥感に覆われる。全体的に現実離れした夢想的な響きが特徴だ。②は序奏から雰囲気満点で、淀みのない流麗なワルツは①同様。ヴァイオリン、チェロにより主題が再現されるところは眩いばかりで、続く木管群の音色も申し分ない。終結部はアツチエランドのうちに一気に曲を終える。③も優雅で高貴なワルツだ。速めのテンポは今まで同様で、三連譜を駆け抜けるように奏するの②と似ている。全体の雰囲気やリタルダンドのかけかたは①②③ともに共通するものがあるが、③の特徴はなんといってもPPで、この時期カラヤン美学が弱音の表現に移行していったことを端的に物語る好例である。ヴァイオリン、チェロの主題の再現も②以上に潤爛で、長いフレージングを一気に奏するところなど息を飲むほどだ。弦楽器と木管楽器の対話もチャイミングだが緊張感も持ち合わせている。終結部は②よりもさらに速いテンポで奏される。ダイナミクスの幅が驚くほど広い。

【第三章 野の風景】①は即物的で寂寥感、非現実的な雰囲気も今まで同様だ。

弦楽器のアンサンブルがここでもたいへんすばらしく、控えめのヴィヴァーテで絶えず大きなフレージングを進められる。チェロのメロディは歌い過ぎることなく自然なもので好感がもてる。終結部は再び寂寥感が漂う。②は木管楽器の美しさが光る精妙な演奏だ。コール・アングレとオーボエの対話も美しい。終始緻密な弱音に重点がおかれていてが瘦せたところはなく、まるで透明度の高い水彩画のようで、クラリネットのソロの部分も室内楽的で緻密な響きだ。終結部は①とは違い穏やかな雰囲気でも奏される。③は②をさらに高い純度にした演奏で、徹底した弱音奏法は作曲者の指示をはるかに越えるものだ。精緻の極みをゆく演奏が終始展開されるが、音楽はしなやかで極度の緊張を強いるようなものではない。弦楽器の掛け合いなどまさに魅惑的で、遠近感を強調した録音も効果を上げている。

【第四章 断頭台への行進】①は今の霧の雰囲気を一掃しめりのはりの強い不明瞭なところがまったくない演奏だが、この健康さがかえって無気味に響く。金管楽器も解き放たれたように咆哮する。首が刎ねられる部分のピチカートは極端に遅く奏され無気味で滑稽な雰囲気を盛り上げていく。②も①同様に決然としているがBPOらしい重量感あるもので、金管楽器の響きもドイツ風で厳しい音楽が展開される。終結部のドラム・ロールが凄まじい。③は聴き取れぬほどの弱音で開始されるがPPのダイナミクスも大きくレンジの広さを誇示するかのようだ。金管

【ここでとりあげた3つのディスク】

- ①イギリス・コロムビア
フィルハーモニア
1954年7月7～9日、21日ロンドン、キング
ズウェイ・ホール
Pウォルター・レグ
Dダグラス・ラター
③33CX 1206(55年4月発売)
⑤XL 5182(57年5月発売)
- ②ドイツ・グラモフォン
BPO
1964年12月27～30日ゲーレン、イエス・キリスト教会
Pオットー・ゲルデス
Dオットー・エルンスト・ヴォーラート
Eギュンター・ヘルマン
③SLPM 138 964(65年7月発売)
⑤SLGM 1307(65年10月発売)
- ③ドイツ・グラモフォン
BPO
1974年10月14～15日、1975年2月21日ベルリン、フィルハーモニーザール
Pハンス・ヒルシュ
Dハンス・ヴェーバー
Eギュンター・ヘルマン
③2530 597(76年3月発売)
⑤MG 2505(76年3月発売)

楽器は奔流のようで打楽器の音にも力強さがある。音楽は淀むことなく最後まで一気に突き進み、壮絶極まりない。

【第五章 ワルブルギスの夜の夢】①は非現実的な雰囲気や低倍音の多い鐘の音が無気味さを増している。怒りの日の主題は極端なテヌートで奏され②③とは異なっている。主部は速いテンポで奏されアンサンブルも見事だがときおり無気味さが顔を覗かせ、無遠慮に響くホルンの応答などやり過ぎと思えるほどだ。終結部は堂々としているがテンポを速め

るようなことはしていない。②では響きが重くなり、ティンパニのリズムにのって奏されるクラリネットのメロディは速めになっている。鐘の音は①同様低倍音が多く、クレッシェンドとともに接近するさまがリアルだ。主部は颯爽と一気に奏される。コレーニョは三つのなかでは一番盛大だが、演奏全体におどろおどろしい雰囲気はあまり感じられない。当時のドイツ・グラモフォンの特徴として低音域が弱い録音になっている。③は表情の付けかたがさらに彫りの深いものと



② SLPM 138 964



③ 65 103(クラブ・エディション)

なり、アンサンブルの完成度の高さを感
じさせるものだ。鐘は別録音の合成でオ
ーケストラの音場とはまったく異なる音
響に少々違和感を覚える。主部は①②同
様速めだが、各場面の展開を極端なダイ
ナミックスの落差で表現するところが、今
までにはない点である。終結部はサバト
(魔女の集会)を蹂躪する重戦車のごとく



パリを散歩するカラヤンとイザベラ(1980年)

である。数ある『幻想交響曲』のディス
クのなかでも③は類似する演奏がまった
くないほど、カラヤン美学に徹頭徹尾貫
かれた演奏である。
カラヤンの『幻想交響曲』はどれも高
い完成度を持つものだが、特にⅡの表現
力においては他の追随を許さぬ独壇場
であるといえよう。

ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 (資料提供:D.C.ランボン(英), 鈴木恭司, 金井清)

【ディスコグラフィ記載方法】

- 記載順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー(P)、ディレクター(D)、レコーディング・エンジニア(E)、マトリックス番号(M)、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。また、(EP)はエグゼクティブ・プロデューサー、(R)はレコーディング、(C)はコーディネーション、(MX)はミキシングを、日付のあとに(L)はライブ録音・録画を表す。
- 曲目の前の[V]は映像作品を示し、ライブ映像を除いて同一収録年月日のCDとLDは各々項目を分けて掲載した。外国盤の再生方式(PAL/NTSC等)は、レコード番号のあとに記した。
- 配列は初出のアルバムのもっと早い収録日によっており、発売順とは一致しない。収録年月日は録音・録画に要した日付であり、実際には使われていないディスクも含んでいる。また、日にちが詳しく発表されていないデータは、年月でとどめた。
- レコード番号は、LP、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごとに発売順に並んでいる。
- アルバムのみでは、①②③の曲順番号を便宜上つけて各々のデータを分けた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲順番号を記したが、必ずしも収録順序を示してはいない。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは、[ハイライト]・[部分]としたが、各々のLPやCDでの収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末の「新譜CD & LD一覧表」のものを使用している。

チ・メトハイト

技術長: アルネ・オーレンドルフ
リアレンジメント: ヘルベルト・フォン
・カラヤン, エルンスト・ヴィルト,
ゲラ=マリナ・ルンネ

LD CSLM 903-6, CSLM 910

LD SLV 45 984

※ ZDF とテレモンディアルとの共同制作。

V① J.S.バッハ/①ヴァイオリン協奏
曲第2番木長調 BWV.1042②マニフ
イカト 二長調 BWV.243

■アンネ=ゾフィー・ムター(vn/①),
ジュディス・ブレゲン(S/②), ヘル
ガ・ミューラー=モリナーリ(A/②),
フランシスコ・アラヤ(T/②), ロ
ベルト・ホル(Bs/②), RIAS室内cho.
(②), ウーヴェ・グロノスタイ(合唱

録音監督: ヴォルフガング・ギューリヒ
撮影: ゼップ・ユルゲン・ブラウネ, オ
トフリート・ランガー, ヴォルフガ
ング・エーデルト, ベーター・リブシ
ツ, ベルト・オルブリヒ, ユルゲン
・シュミット=ヤコービ, ホルガー
・ツィンマーマン

プロダクション・マネージャー: アヒム
・ゼーゲブレヒト

アシスタント DJークフリート・ヴァ
イス

リダクション: アーダルベルト・ヴェ
ルニッツ

ビデオ技術長: フリーテル・ルックス
ビデオ・ミックス: ハンネローレ・リ
ブシュツ

ポスト・プロダクション: ノルベルト・
ギンベル, ラルフ・ベルツォグ, ブッ

V①① モーツァルト/ディヴェルティメ
ント第15番変ロ長調 K.287②レスピー
ギ/交響詩《ローマの松》③R.シュトラ
ウス/交響詩《ドン・ファン》作品20

■ベルリン po.

▶1984年10月18日(L)大阪, シンフォ
ニーホール

LD (96年に発売予定)

LD SLV 53 484

V① R.シュトラウス/①交響詩《死と変
容》作品24②メタモルフォーゼン AV.
142

■ベルリン po.

▶1984年11月25日ベルリン, フィルハー
モニーザール

EP ウリ・メルクレ

映像監督: エルンスト・ヴィルト

- ▶1985年2月6～9日(①), 5月25日(②)
ウィーン, ムジークフェラインザール
[P]ギンター・ブレス
[D]ミシェル・グロツ
[E]ギンター・ヘルマン
M415 509
L P: 28MG 0884
C D: F35G 50259, F35G 20041, POCG 1101, POCG 4066, POCG 9467, POCG 3336

[①の第2楽章]
C D: F32G 20100

②
C D: F32G 20100, F00G 27031

- ③ L P: 419 509-1
C D: 419 509-2, 439 009-2
[①の第2楽章]
C D: 419 406-2

②
C D: 419 406-2, 427 908-3



▲POCG 4066(ドヴォルザーク:交響曲第9番(新世界より)他)

Ⅴ◎ドヴォルザーク/交響曲第9番木短調作品95(新世界より)

- ウィーンpo.
▶1985年2月6～9日ウィーン, ムジークフェラインザール
リッリゼーション: ヘルベルト・フォン・カラヤン, エルンスト・ヴィルト
[P]ウリ・メルクレ
録音監督: ミシェル・グロツ
録音技師: ギンター・ヘルマン
バランス[E]クリスチャン・コンスタンチノフ
オーディオ・ポスト・プロダクション: スティーヴン・デュアー
アシスタント[D]アレクサンダー・ツィンマーマン, フランツ=カール・ミュラー
カメラ操作: エルンスト・シュトリツィンガー
ビデオ・ポスト・プロダクション: ラルフ・ベルツォグ, ライムント・シェーファー, ブッチ・メトハイト
ビデオ編集: マリタ・ツェルバン
[E]エルンスト・ヴィルト
映像監督: エルンスト・ヴィルト
[L]D SRLM 1000
[L]D SLV 48 421

◎R.シュトラウス/交響詩《英雄の生涯》作品40

- レオン・シュビラー(vn), ベルリンpo.
▶1985年2月18～20日ベルリン, フィルハーモニーザール
[P]ギンター・ブレス
[D]ミシェル・グロツ
[E]ギンター・ヘルマン
M415 508
L P: 28MG 0916
C D: F35G 50328, F35G 21018, POCG 2050-4, POCG 1160

- インザール
リッリゼーション: ヘルベルト・フォン・カラヤン, エルンスト・ヴィルト
[P]ウリ・メルクレ
録音監督: ミシェル・グロツ
録音技師: ギンター・ヘルマン
バランス[E]クリスチャン・コンスタンチノフ
オーディオ・ポスト・プロダクション: スティーヴン・デュアー
アシスタント[D]アレクサンダー・ツィンマーマン, フランツ=カール・ミュラー
カメラ操作: エルンスト・シュトリツィンガー
ビデオ・ポスト・プロダクション: ノルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツォグ, アナトーレ・ヴァファジカーニヤ
ビデオ編集: マリタ・ツェルバン
[E]エルンスト・ヴィルト
映像監督: エルンスト・ヴィルト
[L]D SRLM 997
[L]D SLV 48 420

◎モーツァルト/歌劇《ドン・ジョヴァンニ》K.527

- サミュエル・レイミー(Br: ドン・ジョヴァンニ), パータ・ブルチュラーゼ(Bs: 騎士長), アンナ・トモワ=シントウ(S: ドンナ・アンナ), エスタ・ヴィンペルイ(T: ドン・オッターヴィオ), アグネス・バルツァ(Ms: ドンナ・エルヴィラ), フェルッチョ・フルラネット(Bs: レボレロ), アレクサンダー・マルタ(Bs: マゼット), キャスリン・バートン(S: ツェルリーナ), ベルリン・ドイツ・オペラcho., ウルター・ハーゲン=グロル(合唱指揮), ジェフリー・テイ(ceb), ベルリンpo.
▶1985年1月20日よりベルリン, フィルハーモニーザール
[P]ギンター・ブレス
[D]ミシェル・グロツ, ヴェルナー・メイヤー
[C]クラウド・ハーマン
[E]ギンター・ヘルマン
M419 180-2
C D: F95G 20068-70
[ハイライト]
C D: F20G 29054, POCG 3061
③ L P: 419 179-1
C D: 419 179-2
[ハイライト]
L P: 419 635-1
C D: 419 635-2, 427 033-2, 431 289-2, 431 292-2



▲419 179-1(モーツァルト:歌劇《ドン・ジョヴァンニ》)

- ◎①ドヴォルザーク/交響曲第9番木短調作品95(新世界より)②スメタナ/交響詩《モルダウ》
■ウィーンpo.

- 指揮/②, カールハインツ・ツェラー(f), ミハエル・バーゼル(f), フルクハルト・ローデ(obダモール), コンラディン・グロート(tp), ゲオルク・ヒルザー(tp), ロベルト・プラット(tp), オトマール・ボルヴィツキー(vc), パウル・ライナー・ツェベリッツ(cb), デヴィッド・ベル(org), ルドルフ・ショルツ(ceb, org), フリップ・モル(hf), ベルリンpo.

▶1984年12月31日ベルリン, フィルハーモニーザール

- [E]ウリ・メルクレ
映像監督: エルンスト・ヴィルト
録音監督: ミシェル・グロツ
録音監督: ヴォルフガング・ギュリーヒ
撮影: ゼップ・ユルゲン・ブラウネ, ユルゲン・ビショッフ, ジャン=ピエール・クレール, ヴォルフガング・エーデルト, ヘルムート・ハイネ, オトフリート・ランガー, ユルゲン・シュミット=ヤコービ
プロダクション・マネージャー: アヒム・ゼーゲブレヒト
アシスタント[D]ジークフリート・ヴァイル

リッリゼーション: アーダルベルト・ヴェルニツ

- ビデオ技術: ロベルト・ミヒェル
ビデオ・ミックス: ユタ・ヒルシュ=ドゥヴァル
ポスト・プロダクション: ノルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツォグ, ブッチ・メトハイト, ライムント・シェーファー
技術長: アルネ・オーレンドルフ
アシスタント[D]モニカ・フレリヒ
[D]ハンフリー・バートン
[L]D CSLM 903-6, CSLM 909
③ L P: 419 509-1
※ ZDFとテレモンディアルとの共同制作による。

◎ドヴォルザーク/交響曲第8番ト長調作品88

- ウィーンpo.
▶1985年1月9～11日ウィーン, ムジークフェラインザール
[P]ギンター・ブレス
[D]ミシェル・グロツ
[E]ギンター・ヘルマン
M415 971
L P: 28MG 0960
C D: F35G 20114, F00G 27031, POCG 1052, POCG 4086
③ L P: 419 971-1
C D: 419 971-2, 431 095-2



▲415 971-1(ドヴォルザーク:交響曲第8番)

Ⅴ◎ドヴォルザーク/交響曲第8番ト長調作品88

- ウィーンpo.
▶1985年1月ウィーン, ムジークフェラ

ツサ、ピエルイー・ネリ、エンリ
コ・サツェンドーテ、レーア・ツァフ
レート、カルロ・トマオ、フランコ・
ボスコ、ステファノ・ボスコ
アシスタントレナート・レツォーニ
グィード・ヴァネッティ
式典監督：アルベルト・ガシャリ
Pウリ・メルクレ
リアリゼーション：ヘルベルト・フォン
・カラヤン、エルンスト・ヴィルト、
ゲラ＝マリナ・ルンネ

⑤LD SRLM 947

⑥LD SLV 46 382

※ヴァティカン放送、ZDFとの共同制作による。教皇ヨハネ・パウロ二世により挙行された荘厳ミサ全体より、奉献文・教皇の説教などを除いたものが収録されている。典礼はラテン語、聖書朗読はスペイン語・英語、共同祈禱はドイツ語・ポーランド語・日本語・アラビア語・イタリア語による。それにともない各国語のジャケット解説があるが、すべての番号を把握できていない。また、ミサ中のモーツァルト《アヴェ・ヴェルム・コルプス》K.618はヘルムート・フロシャウアーの指揮、その他のグレゴリオ聖歌などもカラヤンの指揮ではない。このディスクの純益の一部はカリタス・インターナショナルへ寄附されている。

PAPST JOHANNES PAUL II
Feierliches Hochamt im Petersdom
am Heiligen Abend
„Königsmesse“ von W.A. Mozart
Königliche Kapelle des Papstes
HERBERT VON KARAJAN



▲1995-1(モーツァルト：ミサ曲《戴冠式ミサ》)

⑤LDモーツァルト／ミサ曲《戴冠式ミサ》

■キャストリー・バトル(S), トウルデリ
ーゼ・シュミット(A), エスタ・ヴィ
ンベルイ(T), フェルツィョ・フル
ネット(Bs), ウィーン楽友協会cho.,
ヘルムート・フロシャウアー(合唱指
揮), ルドルフ・ショルツ(org), ウィ
ーンpo.

▶1985年6月29日(L)ローマ、ヴァティ
カン・サン・ピエトロ大聖堂
[ディスク]

Pギンター・プレスト, ウリ・メル
クレ

Dミシェル・グロツ

Eギンター・ヘルマン

M419 094/095-8

⑤LP: 28MG 0933

CD: F35G 20025

⑥LP: 419 095-1, 419 096-1, 419 097-
1, 419 098-1

CD: 419 095-2, 419 096-2, 419 097-
2, 419 098-2

[映像]

録音監督：ミシェル・グロツ

録音技師：ギンター・ヘルマン

レコーディング・アシスタント：フォル
カー・マルティン、ライナー・ヘッ
ナー、ユルゲン・ブルクリン

ポスト・プロダクション：マリータ・ヴ
ィット、ノルベルト・ギンベル、ラル
フ・ベルツォグ、ブッチ・メトハイト

映像監督：エルンスト・ヴィルト

ビデオ・テクニク：ディーター・グ
ローマン、ハンス＝ペーター・エシュ
ガー

ビデオ・ミキサー：フランコ・ターラ
ー

プロダクション・マネージメント：アン
ドレア・ブーフエッガー、レナート
・スカルディーニ

撮影：ジョルジョ・デ・ルイジ、アント
ネロ・ゴドリ、パウロ・ニコル、ルイ
ス・ピガッツィーニ、ビエール・スコ

⑥LP: 415 508-1

CD: 415 508-2, 439 039-2



▲415 508-1(R.シュトラウス：交響詩《英雄の生涯》)

⑤LD R.シュトラウス／交響詩《英雄の生涯》作品40

■レオン・シュビーラー(vn), ベルリン
po.

▶1985年2月ベルリン、フィルハーモニ
ーザール

Pウリ・メルクレ

リアリゼーション：ヘルベルト・フォン
・カラヤン、エルンスト・ヴィルト

録音監督：ミシェル・グロツ

録音技師：ギンター・ヘルマン

オーディオ・ポスト・プロダクション：
クリスチャン・コンスタンチノフ、デ
イヴィッド・スミス

アシスタントPフランツ＝カール・ミュ
ラー

カメラ操作：エルンスト・シュトリツ
ンガー

ビデオ・ポスト・プロダクション：ノ
ルベルト・ギンベル、ラルフ・ベルツ
ォグ、ブッチ・メトハイト

ビデオ編集：マリタ・ツェルバン

Eエルンスト・ヴィルト

映像監督：エルンスト・ヴィルト

⑤LD SRLM 977

⑥LD SLV 46 390

⑤LDブラームス／ドイツ・レクイエム作
品45

■キャストリー・バトル(S), ジョゼ・
ヴァン・ダム(Bs), ウィーン楽友協会
cho., ヘルムート・フロシャウアー(合
唱指揮), ルドルフ・ショルツ(org),
ウィーンpo.

▶1985年5月21～26日ウィーン、ムジ
ックフェラインザール

リアリゼーション：ヘルベルト・フォン
・カラヤン、エルンスト・ヴィルト

Pウリ・メルクレ

録音監督：ミシェル・グロツ

録音技師：ギンター・ヘルマン

バランスEクリスチャン・コンスタンチ
ノフ

オーディオ・ポスト・プロダクション：
リチャード・キング

アシスタントPアレクサンダー・ツィン
マーマン、フランツ＝カール・ミュラ
ー

カメラ操作：エルンスト・シュトリツ
ンガー

ビデオ・ポスト・プロダクション：ノ
ルベルト・ギンベル、ラルフ・ベルツ
ォグ、ブッチ・メトハイト

ビデオ編集：マリタ・ツェルバン

Eエルンスト・ヴィルト

映像監督：エルンスト・ヴィルト

⑤LD SRLM 1076

⑥LD SLV 53 485



ヨハネ・パウロ二世(右)とカラヤン(1985年6月、ヴァティカン)

◎名演奏家

ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



金井 清

シベリウス／交響曲第六番(三短調)作品104

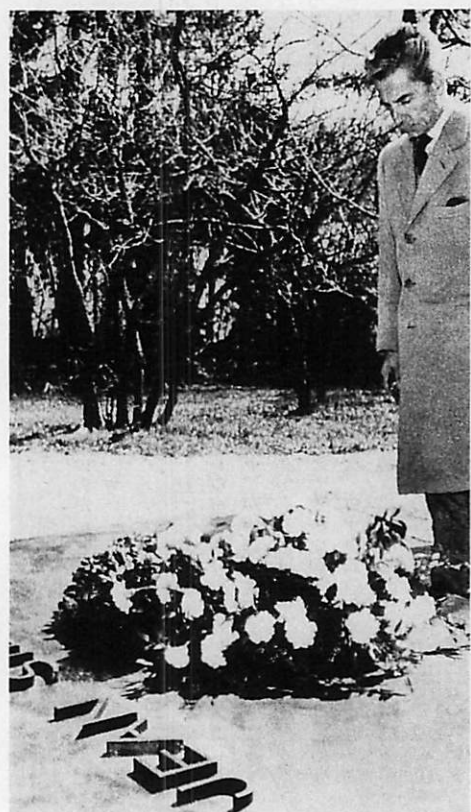
名演奏の徹底比較⑪

今回の「名演奏の徹底比較」はシベリウスの交響曲第六番をとりあげる。カラヤンはドイツ・オーストリア系の古典、ロマン派の作品ばかりではなく、他国の民族的色彩の濃い作品においても抜きん出た解釈を示しているが、シベリウスの交響曲はチャイコフスキーやドヴォルザークの交響曲同様、彼にとっては戦前からの重要なレパートリーであった。レコーディングもきわめて積極的で第三番を

除き、くり返し行なっている（第一番は一回のみ）。また「フィンランディア」をはじめとする管弦楽曲もくり返し録音しており、いずれも定評高い「名演」であることはカラヤンのシベリウスの作品に対する意欲を強く感じさせるものである。交響曲第六番の録音は三種類ある。

①は五年の七月にロンドンでフィルハーモニア管とともにウォルター・レツグのイギリス・コロンビアへ残したモノラル録音の最終セッションのなかの録音である。またこの年二月〜四月にフルトヴェングラーの急逝をうけてBPOとの初遠征をアメリカ公演で飾り、さらに十月〜十一月にはフィルハーモニア管と再び同国での公演を行なっている。これらの演奏旅行によりカラヤンの名はアメリカにおいても認知されることとなり、イギリス・コロンビアの録音はエンジェル・レーベルとして爆発的に受け入れられることになる。まさに新大陸においてもその名を不動のものにのしつづつた。

②は六七年の四月にベルリンのイエス・キリスト教会でドイツ・グラモフォンヘステレオ録音されたもので、初出のカップリングは①と同じ交響曲第七番であった。この春カラヤンは「ザルツブルク・イースター音楽祭」を創設したのにあわせて「ニibelングの指環」の録音を開



シベリウスの墓に献花するカラヤン(1965年5月)

始している。ほとんど毎月発売されるドイツ・グラモフォンの新譜はつねに大きな反響をよび、同レーベルのカタログの大半はカラヤンのディスクによって占められていたと言っても過言ではない。③は八〇年の十一月にフィルハーモニーでドイツ・エレクトローラへ行なわれたデジタル録音である。このディスクは録音から発売まで約六年を要しているが、当時としては異例である。当初「交響曲全集」が企画されていたが、第三番と第七番が録音に至らず「全集」の完成を見なかったことは、まことに残念であった。また、幕開けを迎えたばかりのデジタル録音で当時LP数枚分の録音セッション

を、公演を伴わずして一気に行なっているが、これはカラヤンがデジタル録音という新技術に大きな期待と信頼を寄せていたからであろう。絶えず時代の先駆者であり続ける姿はカラヤンならではのいえまいか。

【第一章 アレグロ・モルト・モデラート】①は開始から控えめのヴィブラートで奏され、率直な雰囲気が始感じられる。清潔といってもよい響きはフィルハーモニア管ならではの、暗さや厳しさはあまり感じられない。主部に入ると快活なテンポだが、落ち着いた雰囲気もある。チェロのメロディも清々しい。全体的にカラヤンの自己主張はあまり感じ

①は第一楽章の雰囲気そのままで引き継

「第二章 アレグレット・モデラート」
滑らかな弱音奏法がこちよい。主部はいくぶん速めだがレガートで奏される音楽の流れは自然で②でみられた緊張感や厳しさは影をひそめ、ときおり明るい表情すらみせる。

られないが、それゆえ曲の姿が聴くものに自然に伝わり好感がもてる。②は美しい弱音で始まる緊張感ある弦楽器の響きが印象的だ。木管楽器の音色にもゆえがみられる。弱音を強く意識したダイナミクスが①とは異なる。主部は①同様快活だが表情の彫りは深い。序奏部同様、弱音を中心とした演奏で緻密なアンサンブルは破綻することがない。①のようなおらかさはなくチェロのメロディも豊かではあるが開放的な響きはない。演奏全体を冷たい厳しさが絶えず支配しているように感じられる。①ではすでに芽吹いた「清冽な春の流れ」であったのに対し

②はまだ氷と雪に閉ざされているかのよう。③はさらに磨かれており弦楽器の滑らかな弱音奏法がこちよい。主部はいくぶん速めだがレガートで奏される音楽の流れは自然で②でみられた緊張感や厳しさは影をひそめ、ときおり明るい表情すらみせる。

①はまるで颯爽と駆け抜ける一陣の風のような趣があり、時に開放的で明るさや愉悅感を保っている。②は一転して春になってもまだ予断を許さぬ北風の厳しさを感ぜさせる。①のような愉悅的な雰囲気は一掃され演奏の主導権は完全にカラヤンが掌握している。①とはまったく対照的な演奏だ。③はまた一転し②のような冷たさや厳しさがなくなっている。速めのテンポで奏されるBPOのアンサンブルは絶妙で流れも美しい。

「ここでとりあげた3つのディスク」

- ①イギリス・コロンビア
フィルハーモニア0.
1955年7月4～5日ロンドン、キングズウェイ・ホール
Pウォルター・レッグ
Eダグラス・ラター
③33CX 1341(56年4月発売)
④XL 5171(57年2月発売)

- ②ドイツ・グラモフォン
BPO
1967年4月18日、20日ダーレム、イエス・キリスト教会
Pオットー・ゲルデス
Dハンス・ヴェーバー
Eギュンター・ヘルマンズ
④SLPM 139 032(68年10月発売)
⑤SMG 2052(68年12月発売)

- ③ドイツ・エレクトローラ
BPO
1980年11月16～20日ベルリン、フィルハーモニーザール
Pミシェル・グロツ
Eヴォルフガング・ギュリーヒ
④EL 270 407-1(86年8月発売)
⑤EAC 90315(86年8月発売)

「第四章 アレグロ・モルト」——アレグロ・アツサイ①は坦々と開始されセンチメンタルな思い入れは感じられない。自然な音楽作りも全曲を通じてのものだ。主部も同様のアプローチで速めのテンポで奏され、響きも充実している。後半は神経質な音楽にはならず聴くものに過度の緊張感を強いるようなこともない。②は決然とした開始に思わずはつとさせられるが、木管楽器やチェロの響きのなかによりやく雪解けを思わせるものが感じられる。主部はきびきびしたテンポで緊

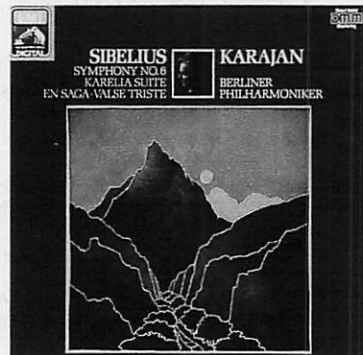
張感も高い。弦楽器の音の歯切れがたいへんよく録音されており、句読点のはっきりしたものになっている。②は全般的に冷徹で厳しい印象を持つものだが、リアルながら中低音の薄い当時のドイツ・グラモフォン録音がこうした印象を強くさせているのかもしれない。③は②同様決然と開始されるが雰囲気はまったく異なり、明るさや優しさが感じられ②のような強い緊張感を強えられることはない。主部はもつとも速めで潑刺としており、臆するところがまったくない。自然な流れのBPOのアンサンブルはとてすばらしく、ホルンの厚い響きは壮麗さを高めている。終結部は穏やかで優しい響きのなかに曲を閉じる。録音は②のような弦楽器の鮮明さはないものの、バランスがよく中低音も充実している。難をいえばコントラバスの音に輪郭がなく立体感がない点が惜しまれる。



③33CX 1341



④SLPM 139 032



⑤EL 270 407-1

曲第六番は各々個性であり、時代の変遷とともに生まれかわる音楽観に興味深いものを見ることができた。



ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 [資料提供: D.C.ランボン(英), 鈴木泰司, 金井清]



[ディスコグラフィ記載方法]

- 記載順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー(P)、ディレクター(D)、レコーディング・エンジニア(E)、マトリックス番号(M)、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。また、(E.P.)はエグゼクティブ・プロデューサー、(R)はレコーディング、(C)はコピー・ディレクション、(Mx)はミキシングを、日付のあとに(L)はライブ録音・録画を表す。
- 曲目の前の[V]は映像作品を示し、ライブ映像を除いて同一収録年月日のCDとLDは各々項目を分けて掲載した。外国盤の再生方式(PAL/NTSC等)は、レコード番号のあとに記した。
- 記列は初出のアルバム・録音の最も早い収録日によっており、発売順とは一致しない。収録年月日は録音・録画に要した日付であり、実際には使われていない日付も含んでいる。また、日にちが明瞭に発表されていないデータは、年月でとどめた。
- レコード番号は、LP、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごとに発売順に並んでいる。
- アルバム・録音のなかでは、①②③の曲順番号を便宜上つけて各々のデータに分けた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲順番号を記したが、必ずしも収録順序を示しているわけではない。
- 全曲盤よりの技術・編集ものは、(ハイライト)・[部分]としたが、各々のLPやCDでの収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末の「新譜CD & LD一覧表」のものを使用している。



▲LD SRLM 942(ブルックナー:交響曲第9番)

V①トビウツシ/交響詩《海》②牧神の午後への前奏曲③ラヴェル/バレエ《ダフニスとクロエ》第2組曲

■ベルリンpo.

▶1985年11月29日~12月7日ベルリン、フィルハーモニーザール
リアリゼーション: ヘルベルト・フォン・カラヤン, エルンスト・ヴィルト

□ウリ・メルクレ

録音監督: ミシェル・グロツ
録音技術: ギュンター・ヘルマン
バランス□クリスチャン・コンスタンチノフ

オーディオ・ポスト・プロダクション: リチャード・キング

アシスタント□アレクサンダー・ツィンマーマン, フランツ・カール・ミュラー

カメラ操作: エルンスト・シュトリツィンガー

ビデオ・ポスト・プロダクション: ノルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツ

オグ, ミヒャエル・ペーエル

ビデオ編集: マリタ・ツェルバン

EPエルンスト・ヴィルト

映像監督: エルンスト・ヴィルト

LD SRLM 1087

SLV 53 479

V①ベートーヴェン/①《フィデルリオ》序曲作品72b②《エグモント》序曲作品84③《レオノーレ》序曲第3番作品72a④《ラモス》/悲劇的序曲作品81

■ベルリンpo.

▶1985年11月29日~12月7日(①~③), 1986年6月15~19日(④)ベルリン, フィルハーモニーザール
リアリゼーション: ヘルベルト・フォン・カラヤン, エルンスト・ヴィルト

□ウリ・メルクレ

録音監督: ミシェル・グロツ
録音技術: ギュンター・ヘルマン

バランス□クリスチャン・コンスタンチノフ

M419 188

CD: F35G 50378, POCG 1342

LP: 419 188-1

CD: 419 188-2

①

CD: 447 190-2



▲419 188-1(R.シュトラウス:4つの最後の歌)

V①ブルックナー/交響曲第9番二短調

■ベルリンpo.

▶1985年11月24日ベルリン, フィルハーモニーザール

録音監督: ミシェル・グロツ

録音技術: ギュンター・ヘルマン

ビデオ技術: アルネ・オーレンドルフ, マンフレート・トルクスドルフ

ビデオ・ミックス: ユタ・ヒルシュ=ドゥヴァル

音響録音: フォルカー・マルティン, ライナー・ヘプナー

ポスト・プロダクション: ノルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツ

オグ, ミヒャエル・ペーエル

ビデオ編集: マリタ・ツェルバン

EPエルンスト・ヴィルト

映像監督: エルンスト・ヴィルト

LD SRLM 942

SLV 46 381

※ZDFとの共同制作による。

□ウリ・メルクレ

リアリゼーション: ヘルベルト・フォン・カラヤン, エルンスト・ヴィルト,

ゲラ=マリナ・ルンネ

LD SRLM 942

SLV 46 381

※ZDFとの共同制作による。

①ベートーヴェン/ミサ・ソレムニス 二長調作品123

■レック・クベリ(S), トウルデリーゼ・シュミット(A), ヴィンソン・コール(T), ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs), ヴィンソン楽友協会cho., ヘルムート・フロシャウアー(合唱指揮), レオン・シュビラー(vn), デヴィッド・ベル(org), ベルリンpo.

▶1985年9月25~29日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギュンター・プレースト

□ミシェル・グロツ

□ギュンター・ヘルマン

M419 167-8

CD: F66G 20039-40, POCG 1298-9

LP: 419 166-1

CD: 419 166-2, 445 543-2



▲419 166-1(ベートーヴェン:ミサ・ソレムニス)

V①ベートーヴェン/ミサ・ソレムニス 二長調作品123

■レック・クベリ(S), トウルデリーゼ・シュミット(A), ヴィンソン・コール(T), ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs), ヴィンソン楽友協会cho., ヘルムート・フロシャウアー(合唱指揮), レオン・シュビラー(vn), デヴィッド・ベル(org), ベルリンpo.

▶1985年9月ベルリン, フィルハーモニーザール

LD(96年に発売予定)

SLV 53 483

①R.シュトラウス/①4つの最後の歌A V.150②歌曲《東方の聖なる三人の王たち》作品58-6③歌劇《カプリッチョ》より(月光の音楽)④《伯爵嬢のモノローグ》

■アンナ・トモワ=シントウ(S), パウル・ヴォルフム(Bs/④), ベルリンpo.

▶1985年11月18~20日ベルリン, フィルハーモニーザール

□ギュンター・プレースト

□ミシェル・グロツ

□ギュンター・ヘルマン

⑤ R. シュトラウス/交響詩《ドン・キホーテ》作品35

■アントニオ・メネセス(vc), ヴォルフ
ラム・クリスト(va), レオン・シュビ
ーラー(vn), ベルリンpo.

▶1986年1月ベルリン, フィルハーモ
ニーザール

⑥ウリ・メルクレ

リアリゼーション: ヘルベルト・フォン
・カラヤン, エルンスト・ヴィルト

録音監修: ミシェル・グロツ

録音技師: ギュンター・ヘルマン

オーディオ・ポスト・プロダクション:

クリスチャン・コンスタンチノフ, デ

イヴィッド・スミス

アシスタント⑥フランツ=カール・ミュ

ラー

カメラ操作: エルンスト・シュトリッ

ンガー

ビデオ・ポスト・プロダクション: ノ

ルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツ

オグ, ブッチ・メトハイト

ビデオ編集: マリタ・ツェルバン

⑥エルンスト・ヴィルト

映像監督: エルンスト・ヴィルト

⑥LD SRLM 979

⑥LD SLV 46 389

⑤ M. ソルグスキー(ラヴェル編)/組曲
《展覧会の絵》

■ベルリンpo.

▶1986年2月17~22日ベルリン, フィル
ハーモニーザール

リアリゼーション: ヘルベルト・フォン
・カラヤン, エルンスト・ヴィルト

⑥ウリ・メルクレ

録音監修: ミシェル・グロツ

録音技師: ギュンター・ヘルマン

バランス⑥クリスチャン・コンスタンチ

ノフ

オーディオ・ポスト・プロダクション:

リチャード・キング

アシスタント⑥アレクサンダー・ツィン

マーマン, フランツ=カール・ミュラ

ー

カメラ操作: エルンスト・シュトリッ

ンガー

ビデオ・ポスト・プロダクション: ノ

ルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツ

オグ, ブッチ・メトハイト

ビデオ編集: マリタ・ツェルバン

⑥エルンスト・ヴィルト

映像監督: エルンスト・ヴィルト

⑥LD SRLM 1085

⑥LD SLV 53 480



⑥LD SLV 53 480(ムソルグスキー:組曲《展覧会の絵》)

⑤ モーツァルト/ミサ曲八長調K.317《戴
冠ミサ》

■アントネット・バンデッリ(S), トル
デーゼ・シュミット(A), エスタ
・ヴィンペイ(T), フェルッチョ・フ
ルラネット(Bs), ウィーン楽友協会cho.,

⑤ ラヴェル/ボレロ

■ベルリンpo.

▶1985年12月31日ベルリン, フィルハー

モニーザール

ビデオ⑥ハンフリー・バートン

⑥ウリ・メルクレ

技術監修: エルンスト・ヴィルト

映像監督: エルンスト・ヴィルト

芸術監督: ヘルベルト・フォン・カラヤ

ン

録音監修: ミシェル・グロツ

録音技師: ギュンター・ヘルマン

オーディオ・ポスト・プロダクション:

クリスチャン・コンスタンチノフ, デ

イヴィッド・スミス

ビデオ・ミキシング: ノルベルト・ギ

ンベル, ラルフ・ベルツオグ, ブッチ

・メトハイト

ビデオ技術: ユルゲン・ローロフ, マ

ンフレート・トルクスドルフ

音響録音: フォルカー・マルティン, ラ

イナー・ヘブナー, ヴォルフガング

・リッペルガー

アシスタント⑥フランツ=カール・ミュ

ラー

撮影: ユルゲン・ビショップ, ゼップ

・ユルゲン・ブラウネ, ヘルムート・ハ

イネ, ヴォルフガング・レーア, カー

ル=ハインツ・ニチュケ, トーマス

・ロッテ, マンフレート・シェーブス

ター

ビデオ・ミックス: ユタ・ヒルシュ

・トウヴァル

プロダクション・マネージメント: ナ

ヴィト・ゴウダージ, アヒム・ゼーゲ

レヒト

アソシエイト⑥ヨヘン・フェルトホフ

リダクション: ヨアヒム・アウグスティ

ン

⑥LD SRLM 980

⑥LD SLV 46 402

※ZDFとの共同制作による。

⑤ R. シュトラウス/①交響詩《ドン・キ
ホーテ》作品35②《ティル・オイレン

シュビーゲル》愉快ないたすら》作品28

■アントニオ・メネセス(vc/①), ヴォ

ルフラム・クリスト(va/①), レオン

・シュビーラー(vn/①), ベルリンpo.

▶1986年1月(①), 6月(②)ベルリン,

フィルハーモニーザール

⑥ギュンター・ブレスト

⑥ミシェル・グロツ

⑥ギュンター・ヘルマン

⑥LD 419 599

⑥CD: F35G 20140, POCG 2050-4, PO

CG 1175, POCG 9514, POCG 71

12

⑥LP: 419 599-1

⑥CD: 419 599-2, 439 027-2



⑥419 599-1(R. シュトラウス: 交響詩《ドン・キホーテ》他)

オーディオ・ポスト・プロダクション:

リチャード・キング

ビデオ編集: マリタ・ツェルバン

カメラ操作: エルンスト・シュトリッ

ンガー

ビデオ・ポスト・プロダクション: ノ

ルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツ

オグ, ブッチ・メトハイト

アシスタント⑥アレクサンダー・ツィン

マーマン

⑥エルンスト・ヴィルト

映像監督: エルンスト・ヴィルト

⑥LD (96年に発売予定)

⑥LD SLV 48 314

⑥①ドビュッシー/交響詩《海》②牧神の
午後への前奏曲③ラヴェル/亡き王女

のためのパヴァーヌ④バレエ《ダフニ
スとクロエ》第2組曲

■ベルリンpo.

▶1985年12月2~8日, 1986年2月20~

21日ベルリン, フィルハーモニーザ

ール

⑥ギュンター・ブレスト

⑥ミシェル・グロツ

⑥ギュンター・ヘルマン

⑥413 589

⑥LP: 23MG 0937

⑥CD: F35G 20038, POCG 1207, POCG

4077

⑥CD: POCG 3501

⑥LP: 413 589-1

⑥CD: 413 589-2, 439 008-2

⑥CD: 431 257-2

⑥CD: 447 835-2, 449 515-2

⑥①ラヴェル/ボレロ②スペイン狂詩曲

③ムソルグスキー(ラヴェル編)/組曲
《展覧会の絵》

■ベルリンpo.

▶1985年12月(①), 1986年2月(③), 19

87年2月(②)ベルリン, フィルハーモ

ニーザール

⑥ギュンター・ブレスト

⑥ミシェル・グロツ

⑥ギュンター・ヘルマン

⑥413 588

⑥LP: 23MG 0968

⑥CD: F35G 20136, POCG 1102, POCG

4072

⑥LP: 413 588-1

⑥CD: 413 588-2, 439 013-2

⑥CD: 423 803-2, 435 852-2

⑥①ウェーバー/《魔弾の射手》序曲②

レオンカヴァッロ/《道化師》間奏曲③

ブッチーニ/《マノン・レスコー》間奏

曲④リスト/ハンガリー狂詩曲第5番

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

曲

ンガー
ビデオ・ポスト・プロダクション：ノ
ルベルト・ギンベル、ラルフ・ベルツ
オグ、ブッチ・メトハイト
ビデオ編集：マリター・ヴィルト
映像監督：エルンスト・ヴィルト
EPエルンスト・ヴィルト
映像監督：エルンスト・ヴィルト
Pウリ・メルクレ
リアリゼーション：ヘルベルト・フォン
・カラヤン、エルンスト・ヴィルト
LD SRLM 946
LD SLV 46 384



▲LD SRLM 946(モーツァルト：レクイエム)

V◎ブラームス／①交響曲第1番ハ短調
作品68②第2番ニ長調作品73

■ベルリンpo.
▶1986年6月15～19日(②), 1987年1月
23～29日(①)ベルリン, フィルハーモ
ニーザール
リアリゼーション：ヘルベルト・フォン
・カラヤン, エルンスト・ヴィルト
Pウリ・メルクレ
録音監督：ミシェル・グロツ
録音技師：ギュンター・ヘルマン
ス
バランスEクリスチャン・コンスタンチ
ノフ
オーディオ・ポスト・プロダクション：
リチャード・キング
アシスタントDアレクサンダー・ツィン
マン、フランツ＝カール・ミュラ
ー
カメラ操作：エルンスト・シュトリッ
ンガー
ビデオ・ポスト・プロダクション：ノ
ルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツ
オグ, ブッチ・メトハイト
ビデオ編集：マリター・ツェルバン
EPエルンスト・ヴィルト
映像監督：エルンスト・ヴィルト
LD SRLM 1080
LD SLV 53 477

〔訂正〕

1951年8月のパイロイト・ライブ盤《ジ
ークフリート》のCD：Melodram M
EL 46106は全曲ではなく(部分)に訂正
いたします。また、80年5月の《ファ
ルスタッフ》がドイツ・グラモフォンで再
発されました。以下のデータを追加いた
します。
Eフォルカー・マルティン
編集：ギュンター・ヘルマン
ス
CD：447 686-2

エクゼクティヴPエルンスト・ノイシュ
ビール
リダクション：フランツ・カペルカ
LD SRLM 982-3, SRLM 1094-5
LD SLV 48 312
※ORF, ZDFとの共同制作による。



▲LD SRLM 982-3(ヴェルディ：歌劇「ドン・カルロ」)

◎モーツァルト／レクイエム 二短調K.
626

■アンナ・トモワ＝シントウ(S), ヘル
ガ・ミューラー＝モリナーリ(A), ヴィ
ンソン・コール(T), パーター・ブル
チュラーゼ(Bs), ウィーン楽友協会cho.,
ヘルムート・フロシャウアー(合唱指
揮), ウィーンpo.
▶1986年5月26日～6月1日ウィーン,
ムジークフェラインザール
Pギュンター・ブレースト
Dミシェル・グロツ
Eギュンター・ヘルマン
ス
Cクラウド・ハーマン
M419 610
LP: 28MG 0956
CD: F35G 20104, POCG 1203, POCG
9511
LP: 419 610-1
CD: 419 610-2, 429 821-2, 431 288-
2, 431 292-2, 439 023-2



▲419 610-1(モーツァルト：レクイエム)

V◎モーツァルト／レクイエム 二短調
K.626

■アンナ・トモワ＝シントウ(S), ヘル
ガ・ミューラー＝モリナーリ(A), ヴィ
ンソン・コール(T), パーター・ブル
チュラーゼ(Bs), ウィーン楽友協会cho.,
ヘルムート・フロシャウアー(合唱指
揮), ウィーンpo.
▶1986年5月26日～6月2日ウィーン,
ムジークフェラインザール
録音監督：ミシェル・グロツ
録音技師：ギュンター・ヘルマン
ス
オーディオ・ポスト・プロダクション：
クリスチャン・コンスタンチノフ, デ
イヴィッド・スミス
アシスタントDフランツ＝カール・ミュ
ラー
カメラ操作：エルンスト・シュトリッ
ン

ヘルムート・フロシャウアー(合唱指
揮), ベルリンpo.
▶1986年3月25日ザルツブルク, 祝祭大
劇場
CD: LCB 113
※ザルツブルク・イースター音楽祭における
ライブ録音。この日の前半のプログラムはブ
ロックナーの《テ・デウム》である。

V◎ヴェルディ／歌劇「ドン・カルロ」

■フェルッチョ・フルラネット(Bs: フ
リッポ2世), ホセ・カレーラス(T
: ドン・カルロ), ビエロ・カプッチ
リ(Br: ロドリゴ), マッティ・サル
ミネン(Bs: 宗教裁判長), フランコ
・デ・グランディス(Bs: 修道士), フィ
アンマ・イツォ・ダミーコ(S: エ
リザベッタ), アグネス・バルツァ(Ms
: エボリー公女), アントネッラ・バン
デッリ(S: テバルト/天の声), ホル
スト・ニッチェ(T: レルマ伯爵), フ
ォルカー・ホルン(T: 王室の布告者),
ソフィア国立歌劇場cho., ロボミエ
・カロレー(合唱指揮), ウィーン国立歌
劇場cho., ワルター・ハーゲン＝グロ
ル(合唱指揮), ザルツブルク音楽祭cho.,
カール・キャンパー(合唱指揮), ベル
リンpo.

▶1986年3月ザルツブルク, 祝祭大劇場
演出：ヘルベルト・フォン・カラヤン
監督：ヘルベルト・フォン・カラヤン
舞台装置：ギュンター・シュナイダー＝
ジューゼン
衣装：ゲオルグ・ヴァクヘヴィチ
リアリゼーション：ヘルベルト・フォン
・カラヤン, エルンスト・ヴィルト,
ゲラ＝マリナ・ルンネ

Pウリ・メルクレ
副指揮者：フランクリン・ファニング
舞台音楽監督：ラルフ・ホスフェルト
アシスタントDロベルト・ミンダー, リ
キ・シュタミナー
舞台技術監督：フランツ・シュミット
照明：ヘルムート・ライヒマン, ヴェル
ナー・ブランデンフェルダ
音響効果：ゲアハルト・ビッター
装飾考証：イムレ・ヴァンツェ
衣装考証：マダ・グストラン
メイク：ヴィルヘルム・リーデ
録音監督：ミシェル・グロツ
録音技師：ギュンター・ヘルマン
ス
オーディオ・ポスト・プロダクション：
クリスチャン・コンスタンチノフ, デ
イヴィッド・スミス
音響録音：フォルカー・マルティン, ラ
イナー・ヘッパナー
ビデオ・ポスト・プロダクション：ノ
ルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツ
オグ, ブッチ・メトハイト
映像監督：エルンスト・ヴィルト
アシスタント・プロダクション・マネー
ジャー：ノルベルト・シュトレ
撮影：ピーター・バース, アウグスト・
ベンデル, ビーター・ギャヴァック,
リハルト・クリツァー, フランツ
・ヴァンベル, アルフォンス・ヴァス
ムート
ビデオ・ミックス：クルト・ツェーラ
ー
照明監督：ヴィルヘルム・マルホルフ
ビデオ技術：マルガレーテ・シュッ
ンマー, ローラント・シュタンデッガ
ー
プロダクション・マネージャー：ハイン
リヒ・アイグナー
Qヴィルフリート・シャイプ
EPエルンスト・ノイシュビール

ヘルベルト・フォン・
カラヤンブルックナー／交響曲第七番ホ長調
金井 清

名演奏の徹底比較⑫

「名演奏の徹底比較」最終回はブルックナーの交響曲第七番ホ長調をとりあげる。カラヤンはブルックナーの交響曲を戦前からレパートリーとしているが、交響曲第七番はなかでも特に数多く演奏された曲である。また演奏旅行やザルツブルク音楽祭などでも頻繁にとりあげられており、カラヤンが自己の音楽の再現にベートーヴェンやブラームスの交響曲同様、この曲にも強い自信を持っていたことをうかがわせる。またこの曲はカラヤンの生涯最後の演奏会（八九年四月二十三日）の曲目となり、忘れることのできない曲でもある。カラヤンのブルックナーについては賛否が分かれるところだが、その洗練されかつ自然体の演奏はブルックナー解釈の新境地を築き、新たなブルックナー・ファンを生み出した点は注目すべきところである。レコードは別表のとおり三つの録音がある。

①は七〇年十月と七一年二月にBPOとダレムにあるイエス・キリスト教会でのハース版による録音。同時期に行なわれた交響曲第四番とカップリングされ、七一年度レコード・アカデミー賞を受賞している。これらの録音はドイツ・エレクトローラによる一連の録音の初期のものにあたるが、同じ録音会場にもかかわらずドイツ・グラモフォンの音とはまったく異なる壮麗な響きに驚かされ、新たな「カラヤン・サウンド」を強く認識させるディスクでもあった。この年の十一月には、VPOとイギリス・デッカの組み合わせで、ムソルグスキーの《ボリス・ゴドゥノフ》全曲が録音され、また十一月末から十二月月上旬にかけて行なわれた、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団とのワーグナーの《ニルンベルクのマイスタージンガー》全曲も、記念碑的録音として決して忘れることのできないものだ。

②は七五年四月のBPOとの本拠地のフィルハーモニーでの原典版による録音。「ブルックナー／交響曲全集」の一環として制作されたが、第七番はワーグナーの《ジークフリート牧歌》とのカップリングで発売された。①からわずか五年後の録音であるが、ドイツ・グラモフォンによる本拠地フィルハーモニーでの新録音にかかるカラヤンの意気込みが感じられる。

ブルックナーの第七番の演奏記録で忘れてはならないものに、七四年三月二十三日、リンツのブルックナーザールの開場式でのVPOとの歴史的演奏会がある。また①②の合間の七三年秋のNHKホール落成記念公演の締めくくりとしても同曲はBPOと演奏されている。この時の全七公演は次のプログラムで行なわれた。

七三年ベルリン・フィル東京公演
十月二十五日 ベートーヴェン…交響曲第六番《田園》、同第五番

十月二十六日 バッハ…ブランデンブルク協奏曲第一番、ブルックナー…交響曲第七番

十月二十七日 ドヴォルザーク…交響曲第七番



カラヤン生涯最後の演奏会（89年4月23日）。ブルックナーの第7番演奏後、聴衆総立ちになるムジークフェライン

十月二十八日 曲第八番、ワーグナー…《トリスタンとイゾルデ》より《前奏曲と愛の死》、《タンホイザー》序曲
モーツァルト…交響曲第四十一番《ジュピター》、チャイコフスキー…交響曲第四番

十月二十九日 ブラームス…交響曲第三番、ドビュッシー…《海》

十月三十一日 シューベルト…交響曲第八番《未完成》、R・シュトラウス…《英雄の生涯》

十一月一日 シェーンベルク…《浄夜》、ベートーヴェン…

これは単なる七種類のプログラムではなく前後をベートーヴェンの交響曲で固め、バッハからシェーンベルクへと至る音楽史の変遷をたどった見事に構築されたプログラムである。このようなプログラム構成はたいへん稀であるといえよう。特にブルックナーの第七番の二曲目はテレビ中継も入り、『フランデンブルク協奏曲』ではカラヤンもチェンバロを弾くという珍しい映像も記憶に残る。

③は八九年四月にムジックフェラインザールで録音されたもので、カラヤン生涯最後のディスクである。再びハース版による録音。エグゼクティヴ・プロデューサーはコード・ガーベンで、ミシェル・グロツツ、ギュンター・ヘルマンズも参加している。

晩年のカラヤンはBPOとの関係が険悪になる一方、VPOとは急速に蜜月関係になっていったが、従来よりのなんらかの制約のためだろうか、VPOとはべ

交響曲第三番「英雄」



CDM 769 923-2



419 195-2

ートーヴェン、ブラームスの交響曲をいっさい演奏しなかった（一回だけ例外がある）。そのような状況のなかにあつてブルックナーの交響曲は、カラヤンとVPOにとつて特に重要なレパートリーであったことは言うに及ばない。突然BPOを辞任しVPOとの活動が新たに動き始めた矢先、急逝することになるとはなんというめぐり合わせなのだろうか。オーストリアに生をうけたカラヤン最期の録音が、VPOとのブルックナーというのも因縁深いものを感じられてならない。

ドイツ・グラモフォンはこの録音のジャケットに特にカラヤンの「ラスト・レコーディング」としてしている。

【第一章 アレグロ・モデラート】①

は幽玄なトレモロのなか、自然かつ雄大に「ブルックナー開始」が行なわれる。

決然としながらも力むことのない音楽は、まるで大自然の陽光を礼賛するかのよう

だ。オーケストラは一体となり、時にオルガンのように統一された響きとなる。金管楽器のすばらしさは、付点音符の処

【ここでとりあげた3つのディスク】

①ドイツ・エレクトロラ

BPO

1970年10月19日、1971年2月3～4日ダーム、イエス・キリスト教会

②ミシェル・グロツツ

③ヴォルフガング・ギュンリヒ

④IC 165-02 467-8S(72年1月発売)

⑤AA 9685-7(71年12月発売)

②ドイツ・グラモフォン

BPO

1975年4月14～15日ベルリン、フィルハーモニーザール

⑥ハンス・ヒルシュ/マクダレーネ・パトベルク

⑦ミシェル・グロツツ

⑧ギュンター・ヘルマンズ

⑨2707 102(78年4月発売)

⑩MG 8261-2(77年10月発売)

③ドイツ・グラモフォン

VPO

1989年4月18～23日ウィーン、ムジックフェラインザール

⑪コード・ガーベン

⑫ミシェル・グロツツ

⑬ギュンター・ヘルマンズ

⑭429 226-1(90年2月発売)

⑮CD POCG 1005(90年4月発売)

理も合わせ申し分ない。レガートやテヌーが絶えることなく奏され、また中・低音弦の充実した響きがこの演奏を支える重要な役割を果たしている。木管楽器の響きも美しいが、時に雲間風にそぐわぬ感もある。再現部は懐かしさと慈愛に溢れ、デリケートな音がとても美しい独特な雰囲気を持った音楽だ。このような表現は他に類例がなく、カラヤン独自の世界といえよう。②は録音場所がフィルハーモニーへと移り、録音が細部まで鮮

明になっている。テクスチャは明解極まりなく、ppに重点がおかれた精緻な響きは見事で、おのずから音楽の彫りも深い。終結部は自信にあふれた堂々たる表現で迷いがまったく感じられない。③は開始部から作乐的なものはまったくなく、②でみられたようなレガート、ポルタメントは全体を通じていつさいみられない。テンポ感は以前のもより遅めでしつかりしたものとなっている。低音弦の動きなども手に取るように説得力があるが、いまひとつ量感がほしいところだ。木管は素朴で美しく、チェロの長いフレーズも鮮明でたいへん聴き応えがある。テクスチャもすこぶる明解だが時としてそれが冷たく感じられたり、トゥッティの融合感に以前とはまったく別のものを聴きとることができる。外面的な壮麗さ、雄大さは影を潜め音楽は内面へと向かっている。

【第二章 アダージョ】きわめて荘厳に、そして、きわめて遅く①はテヌー

トを活かした分厚い響きだが、悲愴感や暗さは強調されず純音楽的な表現だ。控

POCG 9311

Anton Bruckner SYMPHONIE NO.7 Wiener Philharmoniker Herbert von Karajan



POCG 9311

明になっている。テクスチャは明解極まりなく、ppに重点がおかれた精緻な響きは見事で、おのずから音楽の彫りも深い。終結部は自信にあふれた堂々たる表現で迷いがまったく感じられない。③は開始部から作乐的なものはまったくなく、②でみられたようなレガート、ポルタメントは全体を通じていつさいみられない。テンポ感は以前のもより遅めでしつかりしたものとなっている。低音弦の動きなども手に取るように説得力があるが、いまひとつ量感がほしいところだ。木管は素朴で美しく、チェロの長いフレーズも鮮明でたいへん聴き応えがある。テクスチャもすこぶる明解だが時としてそれが冷たく感じられたり、トゥッティの融合感に以前とはまったく別のものを聴きとることができる。外面的な壮麗さ、雄大さは影を潜め音楽は内面へと向かっている。

ルティン・シュトラウス、ヴァルター・トムケ、ヴァーナン・ウィンター・ビデオ・ミックス：ユタ・ヒルシュ＝ドゥヴァル、ダグマール・ツォイネル
 プロダクション・マネージメント：ミヒャエル・クーク、ヴェント＝ディーター・ガウリッ

アシスタント：クラウス・ブリーデムト

リダクション：ヨアヒム・アウグスティン

EPウリ・メルクレ

リアリゼーション：ヘルベルト・フォン・カラヤン、エルンスト・ヴィルト

LD SLRM 965

LD SLV 46 388

①

LP : 66.24398

※ベルリン市750周年記念演奏会のライブ映像、ドイツZDFとの共同制作による。モーツァルトの《ディヴェルティメント》は第5楽章を省略しての演奏である。

②シューマン／交響曲第4番二短調作品120

■ウィーンpo.

▶1987年5月24日(L)ウィーン、ムジックフェラインザール

EPギュンター・プレースト

LDミシェル・グロツ

EPギュンター・ヘルマンズ

M413 095

CD : POCG 1052, POCG 4086

CD : 431 095-2



▲431 095-2(シューマン：交響曲第4番他)

③モーツァルト／交響曲第41番八長調K.551《ジュピター》(部分)

■ウィーンpo.

▶1987年5月ウィーン、ムジックフェラインザール

※前出のシューマンの交響曲第4番と同時に録音されたとされるが、発売が中止されてしまった。完全な録音が終わっていないままといわれる。予定されていたCD番号は427 658-2である。

④モーツァルト／歌劇《ドン・ジョヴァンニ》

■サミュエル・レイミー (Br: ドン・ジョヴァンニ), アンナ・トモフ＝シントウ(S: ドンナ・アンナ), エスタ・ヴィンベルグ(T: ドン・オッターヴィオ), パー・フルチュラーゼ(Bs: 騎士長), ユリア・ヴァラディ(S: ドンナ・エルヴィラ), フェルッチョ・フルラネット(Bs: レポレロ), アレクサンダー・マルタ(Bs: マゼット), キャスリーン・バートル(S: ツェルリーナ), ウィーン国立歌劇場cho., ワルター・ハーゲン＝グロル(合唱指揮), フランクリン・ファニング(cemb), ウィーンpo.
 ▶1987年7月18～31日ザルツブルク, 祝



▲423 374-1(モーツァルト：交響曲第29 & 39番)

⑤モーツァルト／ディヴェルティメント第17番二長調K.334

■ベルリンpo.

▶1987年4月ベルリン、フィルハーモニーザール

EPギュンター・プレースト

LDミシェル・グロツ

EPギュンター・ヘルマンズ

M423 375

CD : F32G 20210, POCG 1379, POCG 7108

LP : 423 375-1

CD : 423 375-2

※初出は83年9月のセレナード第6番《セリナータ・ノットゥルナ》が再カップリングされた。



▲423 375-1(モーツァルト：ディヴェルティメント第17番他)

⑥⑦⑧モーツァルト／ディヴェルティメント第17番二長調K.334⑨R.シュトラウス／交響詩《ツァラトゥストラはかく語りき》作品30

■レオン・シュビラー(vn), ベルリンpo.

▶1987年5月1日(L)ベルリン、フィルハーモニーザール

録音監督：ミシェル・グロツ

録音技師：ギュンター・ヘルマンズ

オーディオ・ポスト・プロダクション：クリスチャン・コンスタンチノフ、ディヴィッド・スミス

音響録音：フォルカー・マルティン、ライナー・ヘップナー、ロルフ・デッカー

アシスタント：フランツ＝カール・ミュラー、モニカ・フレリヒ、エルンスト・シュトリツィンガー

ビデオ・ポスト・プロダクション：ノルベルト・ギンベル、ラルフ・ベルツォグ、ブッチ・メトハイ

映像監督：エルンスト・ヴィルト

ビデオ技術：アルネ・オーレンドルフ、マンフレート・トルクスドルフ

撮影：ユルゲン・ビショッフ、ミヒャエル・ブローアー、ジャン＝ピエール・クレール、マルティン・ヘルデン、マ

ゲル

プロダクション・マネージャー：H.W.ツヴェットラー

リダクション：ホルスト・ボッシュ

スクリプト：フランツ・マイラー

CDウィルフリート・シャイプ

録音監督：ミシェル・グロツ

録音監督：ギュンター・ヘルマンズ

技術長：ロベルト・ホッファー

ポスト・プロダクション：ノルベルト・ギンベル、ラルフ・ベルツォグ、ウル

リーケ・クライン

アシスタント：モニカ・フレリヒ、カーリン・ブライト、エリザベート・クルツ

LDハンフリー・バートン

EPウリ・メルクレ、エルンスト・ノイシュビール

ウィーン国立歌劇場バレエ団＝ソリスト

：クリスティネ・ガウグツシュ、マリア・ルイーゼ・ヤスカ、イオランタ・ゼイフリート、ジュラ・ハランゴ

ゾ、ハインツ・ハイデンライヒ、クリスティアン・ティヒ

舞踊振付：ゲルリンデ・ディル

衣装：アリス＝マリア・シュレージンガー

舞台装置：ルドルフ・ホーフリグ

メイク：マティルデ・パウエル、アドルフ・イーネ・ショーバー、ヴィルフリート・ヴァイルグニー

LD CSLM 903-6, CSLM 907

LD SLV 45 985

※ORF・ZDFとテレモンディアルとの共同制作による。



▲LD SLV 45 985(ニューイヤー・コンサート1987)

⑩ブラームス／交響曲第1番八短調作品68

■ベルリンpo.

▶1987年1月ベルリン、フィルハーモニーザール

EPギュンター・プレースト

LDミシェル・グロツ

EPギュンター・ヘルマンズ

M423 141

CD : F35G 20174, POCG 1180, POCG 9596

LP : 423 141-1

CD : 423 141-2, 427 602-2

⑪モーツァルト／①交響曲第29番イ長調K.201②第39番変ホ長調K.543

■ベルリンpo.

▶1987年2月(①), 9月(②)ベルリン、フィルハーモニーザール

EPギュンター・プレースト

LDミシェル・グロツ

EPギュンター・ヘルマンズ

M423 374

CD : F32G 20209

LP : 423 374-1

CD : 423 374-2, 431 268-2, 431 292-

◎ワーグナー／①歌劇《タンホイザー》序曲(ドレスデン版)②ジークフリート牧歌③楽劇《トリスタンとイゾルデ》より第1幕前奏曲④イゾルデの愛の死(第3幕)

■ジェシー・ノーマン(S/④), ウィーンpo.

▶1987年8月15日(L)ザルツブルク, 祝祭大劇場

Ⓟギンター・ブレスト

Ⓛギンター・ブレスト

Ⓜギンター・ヘルマンズ/ヴォルフガング・ミットレーナー

Ⓜxギンター・ヘルマンズ

Ⓜ423 613

ⓂCD: F32G 20255, POCG 1378

④

ⓁD W00Z 24041

ⓂLP: 423 613-1

CD: 423 613-2

④

ⓁD 072 114-1(PAL), 072 214-1(NTSC)



▲423 613-1(ワーグナー/管弦楽曲集)

◎モーツァルト/ディヴェルティメント第15番変ロ長調K.287

■ベルリンpo.

▶1987年9月ベルリン, フィルハーモニーザール

Ⓟギンター・ブレスト

Ⓛミシェル・グロツ

Ⓜギンター・ヘルマンズ

Ⓜ423 610

ⓂCD: F32G 20264, POCG 4138

[第4楽章]

CD: POCG 3441

ⓂLP: 423 610-1

CD: 423 610-2, 431 272-2, 431 292-2

[第4楽章]

CD: 445 282-2

※初出は81年2月の《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》が再カップリングされた。



▲423 610-1(モーツァルト:ディヴェルティメント第15番他)

ィーンpo.

▶1987年8月ザルツブルク, 8月15日祝祭大劇場(⑤)

制作: ウリ・メルクレ

演出: スーザン・フレムケ, ビーター・

ゲルプ, デボラ・ディクソン

撮影技師: エドワード・ラッハマン

編集: デボラ・ディクソン, ココ・ハウ

アー, ザラー・シュタイン

撮影: マルティン・シュール, ドン・レ

ンツァー, トニー・ベシュケ

音響録音: マルティン・ミュラー

Ⓟスーザン・フレムケ, ビーター・ゲル

プ

アシスタントⓁルイザ・ブリッチェッテ

イ

プロダクション・マネージャー: ミハ

エル・ツェンス, ベーター・ナグシェ

ウスキー, ベート・トート

電気技術: ベルニー・グッリ

舞台担当: チーコ・クライン

ドイツ・グラモフォン録音技術チーム

オーディオ・エンジニアリングⓁロタール

・シュミット

音楽録音: フォルカー・マルティン

音楽録音ミキサー: ギンター・ヘルマ

ンス, ヴォルフガング・ミットレーナ

ー

ポスト・プロダクション・コーディネ

ーター: ライナー・ヘッブナー

再録音技師: リー・ディヒター

アディショナル・エディティング: バト

リーツァ・ヤッフェ

アシスタント・エディター: スコット・

マルティン

サウンド・エディティング: ジェイ・コ

イバー, ボーラ・ラバポート

アップレンティス・エディター: ニツァ

・ザッカス

プロダクション・アシスタント: ノルベ

ルト・ホルヴァート, クラウディア・

グルーバー, イータカ・シュルバッハ

・ヒックス

アシスタント・カメラ: ヤン・ベトケ,

クリストフ・ランツェンベルク, ベル

ニー・ヴァツェック, ベーター・カッ

ペル

アディショナル・サウンド: エド・ベア

レンテ, マルクス・ウルヒス

エレクトリカル・クルー: ルイー・ブ

ルンホーファー, オットー・フランク,

マルティン・シュティンゲル, ロベル

ト・シュタント=フォーレイ, ユルゲ

ン・ティール

ⓂⓁD W00Z 24041, POLG 9070

ⓂⓁD 072 114-1(PAL), 072 214-1(NTSC)

※ニューヨークのカミ・ビデオとフランス

A-2, イギリス・チャンネル4, ドイツ・グ

ラモフォン, オランダNOS, オーストラリアO

RF, イタリアRAI-3, ドイツZDFの各国放

送局とレコード会社が協力して制作されたド

キュメント。



▲ⓁD 072 214-1(カラヤン・イン・ザルツブルク)

祭大劇場

演出: ミヒャエル・ハンベ

装置: マウロ・バガノ

衣装: マウロ・バガノ

ビデオⓁクラウド・フィラー

技術監督: エルンスト・ヴィルト

映像監督: エルンスト・ヴィルト

Ⓛウリ・メルクレ

芸術監督: ヘルベルト・フォン・カラヤ

ン

副指揮者: フランク・ファンニグ

舞台音楽監督: ラルフ・ホスフェルト

舞台技術監督: フランツ・シュミット

照明: ヘルムート・ライヒマン, ヴェル

ナー・フランツェンフェルダ

音響効果: ゲーハルト・ビッター

装飾考証: イムレ・ヴァンツェ

衣装考証: マグダ・グストラン

メイク: ドロテア・アルノルト, ヴィ

ルヘルム・リーデ

かつら: ドロテア・アルノルト, ヴィル

ヘルム・リーデ

録音監督: ミシェル・グロツ

録音技師: ギンター・ヘルマンズ

オーディオ・ポスト・プロダクション:

クリスチャン・コンスタンチノフ, デ

イヴィッド・シミス

音響録音: フォルカー・マルティン, ライ

ナー・ヘッブナー

ビデオ・ポスト・プロダクション: ノ

ルベルト・ギンベル, ラルフ・ベル

ツォグ, ブッチ・メトハイト

アシスタントⓁロベルト・ミンダー, イ

レーネ・バネラーイ=モラー, カリ

ーナ・ケプリンガー

ビデオ技術: ルドルフ・グラーズル,

ルドルフ・マイヤー

ビデオ・ミックス: ヴァルター・ハウ

ク

撮影: ヘルムート・フィビヒ, アウグス

ト・ベンデル, ビーター・ギャヴァッ

ク, ヴァルター・ヘントン, ベーテル

・ヤシチェク, ハンス・ヴィクトア

・ケッブラー, ヴォルフガング・ロイ

トゲブ, ルドルフ・フィッシャー

照明監督: ヴィルヘルム・マルホルフ

プロダクション・マネージャー: ロベル

ト・ホッファ

Ⓛヴィルフリート・シャイプ

Ⓛエルンスト・ノイシュピール

リダクション: フランツ・カペルカ

ⓂⓁD SRLM 951-2, SRLM 1090-1

ⓂⓁD S2LV 46 383

※ORF, ZDFとテレモニディアルの共同制作

による。

Ⅶ◎「ドキュメント/カラヤン・イン・ザ

ルツブルク」①モーツァルト/歌劇

《ドン・ジョヴァンニ》序曲(部分), 第1

・2幕リハーサル②バッハ/ミサ

口短調リハーサル③ワーグナー/《タ

ンホイザー》序曲リハーサル④《トリスタン

とイゾルデ》第1幕前奏曲と《愛の

死》リハーサル⑤《愛の死》

■キャスリーン・バトル(S: ツェルリ

ーナ), パーテ・ブルチュラーゼ(Bs:

騎士長), フェルッチョ・フルネット

(Bs: レボレロ), アレクサンダー・マ

ルタ(Bs: マゼット), サミュエル・レイ

ミー(Br: ドン・ジョヴァンニ), アン

ナ・トモワ=シントウ(S: ドンナ・ア

ンナ), ユリア・ヴァラディ(S: ド

ンナ・エルヴィラ), エスター・ヴィン

ペルイ(T: ドン・オッターヴィオ/以上

①), ジョー・スミ(S/②), チェチャー

ア・バルトリ(Ms/②), ジェシー

・ノーマン(S: イゾルデ/④/⑤), ウ



◎名演奏家

ディスコグラフィ◎

Herbert von Karajan

ヘルベルト・フォン・カラヤン



不滅の録音記録の俯瞰〜カラヤン・ディスコグラフィの連載を終えて

佐々木 豊

九一年八月号より連載を始めた「カラヤン・ディスコグラフィ」は今回の第四十二回で最終回を迎える。その総数は正規の録音が未発売を含めて四八一点、他にフィルモグラフィとして映像作品が七十八点、さらにプライベート盤は終了時点までで一六七点を確認し載せることができた。この間、再発物やカップリング替えや概出録音の編集ものは毎月のように発売され、ディスコグラフィ終了後みたいへんな量のデータを追加してゆかなければならない状態である。なかでも昨年の「アダー・ジョ・カラヤン」のよう

にオムニバス盤でありながらミリオン・セラーになるディスクもあった。今後未発売の映像やライヴの未発表音源などの新譜も望めそうであり、カラヤンのディスコグラフィはとどまることなく増え続けることだろう。

合計七二六点の録音・録画はいずれも傑出した出来ばえであり、どの録音をとってもその時々を代表する規範的な演奏といつて過言ではないだろう。本ディスコグラフィはレコード会社の未公開資料を駆使し、従来のデータとは異なる独自のものができた。収録年月日は完成したディスクに用いられていない録音に要した日付すべてを網羅した。正規の録音で欠落はないはずだが、イタリアのプライベート・レーベル、旧ソヴィエトや中

国などでのライヴ盤の未発見、未聴のものが存在するかもしれない。いずれにせよ、この仕事量をその質ともに凌駕する指揮者が今後登場するのはまず不可能とおもわれる。

ここで「カラヤン・ディスコグラフィ」を正確にするためにいくつかの点にふれておきたい。まず、五一年のバイロイト音楽祭での《ワルキューレ》第三幕のライヴ録音（八月十二日）の一部にハンス・クナッパッツブッシュ指揮の公演の一部が含まれているということだが、正確にどの部分と確認がとれなかったためデータ頁ではふれなかった。また、ウォルト・ディズニの映画『ファンタジア』のなかでのストラヴィンスキーの《火の鳥》がカラヤン指揮ベルリン・フィルの演奏と大きく宣伝されてしまったが、これはマゼール指揮のベルリン放送交響楽団のものである（オリジナル・サウンドトラック盤「アレグロ・ノン・トロッポ」DG 二五三六四〇〇）。単なる誤記としては、カール・ベーム指揮ベルリン・フィルのシューベルトの交響曲第五番&第八番《未完成》（DG 一三九一六二）の初出のジャケット背文字がカラヤン／ベルリン・フィルになっている。「ピレフェルダール・カタログ」では、ベーム指揮ベルリン・フィルのR・シュトラ

ウスの《ツァラトゥストラはかく語りき》（DG 一三六〇〇一）が、カラヤン／ベルリン・フィルと誤植され十年以上もそのままであった。出版物でもジャック・ロルセイの伝記の巻末ディスコグラフィでリストのピアノ協奏曲をディヌ・リパッティと録音したことになっている。また、最近出版されたクリスタ・ルーツヴィヒの伝記のフィルモグラフィではバーンスタイン指揮のマーラーの《大地の歌》がカラヤンとなってしまうている。もちろん、これらはすべてが誤りであるが、確認にいろいろ振りまわされるものもたのしい時間には違いない。

実際のディスクではさらに色々なことがあった。あるオペラの全曲ステレオ録音で六面三枚組の一面だけがモノラルになってしまったり、チャイコフスキーの交響曲の新録音のカセットの発売に際して旧録音の演奏が入ってしまった例もあった。つい最近もプロコフィエフとチャイコフスキーが入っているはずの輸入CDが他の演奏者のパツハのヴァイオリン協奏曲であった。データ頁でふれたがR・シュトラウスの《ドン・ファン》の最新録音盤では編集ミスもあった。さてここで、最終回に訂正をいれた大きなデータの変更についてもふれておかなければならない。それは七三年二月の



マラーの交響曲第五番の収録会場の変更である。このディスクはカラヤン初のマラーの録音で発売当時たいへん話題になったものであるが、当初より録音場所は大ベルリンとしか発表されなかった。ちょうどこの頃「新ウィーン楽派管弦楽曲集」四枚組から収録会場がイエス・キリスト教会よりフィルハーモニーへかわる移行期にあたっており、このマラーの交響曲第五番はその音響からフィルハーモニーでの録音とおもわれたが、最近のディスクではイエス・キリスト教会と表示されるようになった。この録音セッションは定期演奏会とも接近しており、演奏会のライヴ録音を送ってもらい聴いた時の衝撃は大きなものがあつた。また、EMIのシベリウスの「管弦楽曲集」(七十六年九月、十二月)の四曲もCDの再発売ごとに収録年月日が異なつて表記されている。これもレコード会社の内部資料が錯綜しており再確認の余地があると思われる。

カラヤンのディスクはテープを含めて戦後の先進国の経済成長にのり、さらに再生機器の技術革新、伸展にともない爆発的な数量が世界中でつくられた。プレスされていらない国を捜すほうが大変なくらいである。また、クラブ・エディションや私的な用途の限定盤も相当な数がある。ホテルの開業記念や銀行の何十周年記念などというものもあるが、これらは本ディスクグラフィには収めなかった。

全四十二回の連載は初出のアルバムの編年体の形態をとつたため、レコーディング・セッションと演奏会が密接に関係

しているカラヤンの場合、ライヴ録音盤や映像の位置などたいへん見にくい配列になつてしまつた。仮のディスク番号でも付けておけばよかったのだが、同曲異演盤が多いだけに検索が簡単にできないのは残念である。ジャケット写真はオリジナル盤を中心にたくさん種類の載せることができ、見ばえをよいものにした。

最後にカラヤンの予定されていたレコーディング計画についてふれておこう。八九年四月二十三日、ウィーン・フィルとの最期になる演奏会の翌日、突然ベルリン・フィル常任指揮者の辞意表明が伝えられた。ドイツ・グラモフォンの録音計画にも多大な影響がでるものと懸念されたが、夏のザルツブルク音楽祭はヴェルディの《仮面舞踏会》で開幕の準備がすすめられており、カラヤンがいつものように指揮をとり、今後はウィーン・フィルとの関係が強まつてゆくものと誰もが考えたはずだ。リハーサルの様子も伝わつてきていて、順調に音楽祭は開幕するかとおもわれた。しかし、初日のわずか十日まえの日曜日(七月十六日)にアニフにある自宅で突然に逝去してしまふのであつた。訃報は世界中を駆けめぐり日本では深夜、首相がアルシユ(パリ)・サミット(主要国首脳会議)の記者会見を衛星中継している途中に臨時ニュースが割り込んだ。ザルツブルク音楽祭当局や市長らがあわてたのも無理もない。まさに急逝で、何人も予想しなかつた出来事であつた。

伝えられる非公式の話では、カラヤン



下の写真の工場内部にあるカラヤン・メモリアル・プレート

は音楽祭の最終日に記者会見を行ないドイツ・グラモフォンよりソニー・クラシカルへの移籍を表明する予定であつたという。移籍第一弾としてウィーン・フィルとのベートーヴェン《フィデリオ》全曲とバッハの《ミサ曲 短調》が予告発表され、録音される段取りであつたという。春のイースター音楽祭では翌年の演目が発表されるが、九〇年のそれは《フィデリオ》《ミサ曲 短調》がモーツァルトとシベリウスの交響曲とともに予告されてゐた。オーケストラはウィーン・フィルと交渉がすすんでゐたといわれる。このすこしまえ、ドイツ・グラモフォンのギンター・ブレスト氏がヘッド・ハンティングされソニー・クラシカルへ移籍したのは、その伏線であつたことは言うまでもない。

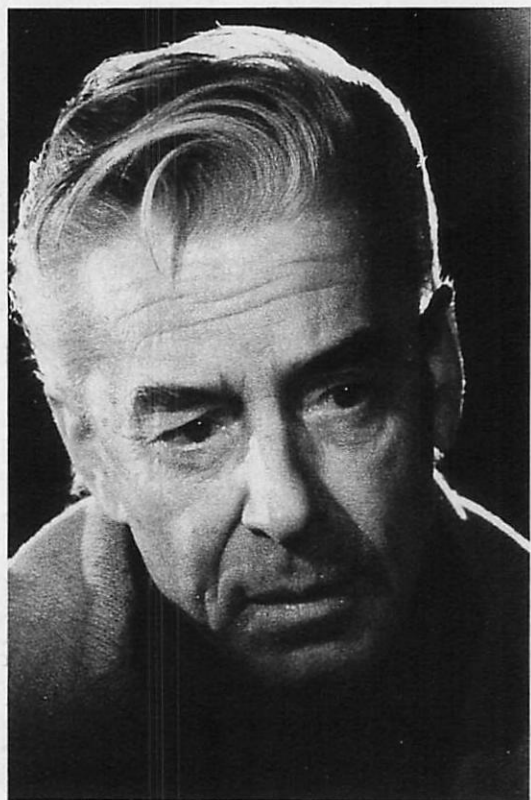
もしという言葉が許され、この話が確かなもので予定どおりに行なわれたとしたら、再びウィーン・フィルとの栄光の軌跡が始まつたかもしれない。ハイ・ビジョンの映像付きで、さらにもうひとつ



アニフ郊外にあるSONY DADC Austria(コンパクト・ディスク工場)

のベートーヴェン、ブラームスの「交響曲全集」が完成されたかもしれない。JとR、ふたりのシュトラウス、シューベルトやブルックナーも聴けたかもしれない。なにより九一年はモーツァルト・イヤードでたくさんのモーツァルトが録音されたことは想像に難くない。いまとなつては、夢のまた夢となつてしまつた。幻のディスクグラフィを想像してもはじまらない。

筆者はこの連載中も合い間をみてザルツブルクのアニフ教会を訪れた。あわせてカラヤンゆかりの場所へも行つてみた。ベルリン、ウィーン、アーヘン、ウルムなど戦前に住んだ建物や録音会場を実際



ヘルベルト・フォン・カラヤン(1908.4.5-1989.7.16)

に自分の目で確かめたかったのである。ベルリンのイエス・キリスト教会やフィッハーモニー、ウィーンのムジークフェラインやブラームスザールなどカラヤンが実際に活躍していた時とかわりないとおもいますが、昨年の秋ウィーンのゾフィーエンザールを訪ねた時は、ひとけがまったくなく入口にはチェーンが幾重にも巻かれていた。窓の隙間から覗くと赤い絨緞と天井のシャンデリアを見ることができたが、内部はうちすてられており取り壊しを待つ建物そのものであった。ケルトンナールンクで「カラヤン・ツェントルウム(センター)」の内装工事が進められていたのは、あまりにも対照的な姿であった。

この連載をザルツブルク近郊のウンタースペルクに伝わる伝説によって始めたが、アニフ教会でカラヤンの墓参を終えて、市街地へもどる路線バスの車窓からみえる夕映えのウンタースペルクの奇妙な模様はいろいろなことを考えさせる。それはひとりの人間の生きざまが壮大な歴史のなかではほんのわずかな存在であること、さらにヘルベルト・フォン・カラヤンの全芸術活動や残された膨大な録音は二十世紀の音楽史のほんの一部にすぎないということだ。だが、その録音・録画は未来永劫にわたって不滅で、その価値を保ち続けることは紛れもない事実であり、それは歴史が間違いない証明するであろう。伝説は単に伝説なのだが、カラヤンの生涯が何か不思議な力によって動かされていたように思えてならないのである。

カラヤンの記録したすべての演奏と映像が今後も聴き続けられることを望んで、長期にわたった連載を終えることにする。

ヘルベルト・フォン・カラヤン=ディスコグラフィ

●ディスコグラフィ制作……………佐々木 豊 (資料提供:D.C.ランボン(英), 鈴木泰司, 金井清)

[ディスコグラフィ記載方法]

- 記載順序は演奏者、収録年月日、収録会場、プロデューサー(P)、ディレクター(D)、レコーディング・エンジニア(E)、マトリックス番号(M)、日本盤・外国盤のレコード番号、特記事項になっている。また、(EP)はエグゼクティブ・プロデューサー、(R)はレコーディング、(C)はコーディネーション、(MX)はミキシングを、日付のあとの(L)はライブ録音・録画を表す。
- 曲目の前の[V]は映像作品を示し、ライブ映像を除いて同一収録年月日のCDとLDは各々項目を分けて掲載した。外国盤の再生方式(PAL/NTSC等)は、レコード番号のあとに記した。
- 配列は初出のアルバムのもっと早い収録日によっており、発売順とは一致しない。収録年月日は録音・録画に要した日付であり、実際には使われていないディスクも含んでいる。また、日にちが詳しく発表されていないデータは、年月でとどめた。
- レコード番号は、LP、CD(CD miniを含む)、LD、MDの順になっており、日本盤は各項目ごとに発売順に並んでいる。
- アルバムのなかでは、①②③の曲順番号を便宜上つけて各々のデータを分けた。また、オムニバス盤ではレコード番号のあとに曲順番号を記したが、必ずしも収録順序を示してはいない。
- 全曲盤よりの抜粋・編集ものは、[ハイライト]・[部分]としたが、各々のLPやCDでの収録範囲は同じではない。
- 主な略記号は本誌巻末の「新譜CD & LD一覧表」のものを使用している。

リダクション：ハンス＝ルートヴィヒ・フェルトゲン、ゲオルグ・クヴァンダー

EPウリ・メルクレ

リアリゼーション：ヘルベルト・フォン・カラヤン、エルンスト・ヴィルト

LD SRLM 941

LD SLV 46 380

ワグナー／歌劇《タンホイザー》序曲

■ベルリンpo.

▶1987年12月30日(L)ベルリン、フィルハーモニーザール

CD：LCB 130

チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲ニ長調作品35

■アンネ＝ゾフィー・ムター(vn), ウィ

撮影：ヘルムート・ハイネ、ギュンター・ヘンテル、カール・エルンスト・ホルツフレーター、ハインツ・クロン、カール＝ハインツ・ニチュケ、ハンス＝ヨッヘン・ラービエン、マンフレート・シェプスグート

アシスタントDフランツ＝カール・ミュラー、エルンスト・シュトリツィンガー

ポスト・プロダクション：ノルベルト・ギンベル、ラルフ・ベルツォグ、ブッチ・メトハイ

プロダクション・マネージメント：ヴォルフガング・ルーバッハ、クリストフ・ヴェシュテッカー、マティアス・ベルナー

アシスタントHホルスト・ヨナス

映像監督：エルンスト・ヴィルト

V●ヴィヴァルディ／協奏曲集(四季)作品8-1-4

■アンネ＝ゾフィー・ムター(vn), ベルリンpo.

▶1987年10月28日(L)ベルリン、カンマームジックザール

録音監督：ミシェル・グロツ

録音監督：ギュンター・ヘルマンズ

ビデオ技術：アンドレアス・ピアス

コウスキー、ゲオルク・ヴェニケ

ビデオ・ミックス：ジークリート・シュレーダー

電気技師長：アルトゥール・ヘーフラ

音響録音：ハンス＝ヴェルナー・バイヤー、ライナー・ヘッパナー、フォルカー・マルティン

フィルム編集／スクリプト：ケルスティン・レートマイヤー

⑦①②プロコフィエフ／交響曲第1番ニ長調作品25(古典交響曲)②チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番変ロ短調作品23

■エフゲニー・キーシン(p), ベルリン po.

▶1988年12月31日(L)ベルリン, フィルハーモニーザール

EP ウリ・メルクレ

映像監督: エルンスト・ヴィルト

録音監督: ミシェル・グロツ

録音監督: ギュンター・ヘルマン

撮影: ゼップ・ユルゲン・ブラウネ, クリフト・フィラス, ヘルムート・ハイネ, ウーヴェ・ホフマン, ミハエル・ホルシャー, マンフレート・シェープスダート, ユルゲン・シュルツ, ミハエル・ツィンバウアー

プロダクション・マネージメント: ミハエル・クーク, ヴェンド・D・ガウリッ

アシスタントEPベーター・ルッペンター

リダクション: アーダルベルト・ヴェルニツ

ビデオ技師長: ロベルト・ミヒェル

ビデオ・ミックス: ユタ・ヒルシュ・ドヴァル, ダグマル・ツォイネル

ポスト・プロダクション: ノルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツォグ, ブッチ・メトハイ

コミニティ: ケルスティン・レートマイヤー

アシスタントDフランツ・カール・ミュラー, エルンスト・シュトリツィン

レコーディング・アシスタント: フォルカー・マルティン, ライナー・ヘッパ

ナー, ヨブスト・エーベルハルト, W. D.カルヴァツキ

技師長: ディーター・W・ドーマン

リアリゼーション: エルンスト・ヴィルト, ヘルベルト・フォン・カラヤン

LD CSLM 903-6, CSLM 908

LD SLV 45 986

※ZDFとテレモンディアルとの共同制作による。この日はカラヤンのベルリンにおける最後のコンサートであった。

⑧ヴェルディ／歌劇『仮面舞踏会』

■ブランド・ドミンゴ(T: グスターヴ・オ3世), レオ・ヌッチ(Br: レナート・ジョゼフィン・バーストウ(S: アメーリア), フローレンス・クイヴァー(Ms: ウルリーカ), ジョー・スミ(S: オスカール), ジャン・リュック・シュグノー(Br: クリステイト), ゴラン・シミック(Bs: ホーン), クルト・リドル(T: リビング), ヴォルフガング・ウィッテ(T: 判事), アドルフ・トルシェク(T: アメーリアの召使), ウィーン国立歌劇場cho., ヘルムート・フロシャウアー(合唱指揮), ウィーン po.

▶1989年1月27日~2月3日ウィーン, ムジックフェラインザール

EP ギュンター・プレースト

ミシェル・グロツ

クラウディア・ハーマン

ギュンター・ヘルマン

M 427 636-8

CD: F00G 20468-9

LP: 427 635-1

CD: 427 635-2

[ハイライト]

CD: 429 415-2



▲427 611-2(ブルックナー: 交響曲第8番)

⑨ブルックナー／交響曲第8番ハ短調(ハース版)

■ウィーン po.

▶1988年11月ウィーン, ムジックフェラインザール

リアリゼーション: ヘルベルト・フォン・カラヤン, エルンスト・ヴィルト

EP ウリ・メルクレ

録音監督: ミシェル・グロツ

録音技師: ギュンター・ヘルマン

オーディオ・ポスト・プロダクション: クリスチャン・コンスタンチノフ, デイヴィッド・スミス

アシスタントDアレクサンダー・ツィンママン, フランツ・カール・ミュラー

カメラ操作: エルンスト・シュトリツィン

ビデオ・ポスト・プロダクション: ノルベルト・ギンベル, ラルフ・ベルツ

オグ, ブッチ・メトハイ

ビデオ編集: マリタ・ツェルバン

EP エルンスト・ヴィルト

映像監督: エルンスト・ヴィルト

LD SRLM 981

LD SLV 46 403

⑩チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番変ロ短調作品23

■エフゲニー・キーシン(p), ベルリン po.

▶1988年12月27~31日ベルリン, フィルハーモニーザール

EP ギュンター・プレースト

ミシェル・グロツ

ギュンター・ヘルマン

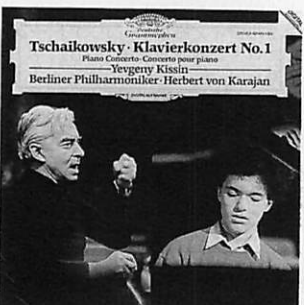
M 427 485

CD: F28G 20428, POCG 1358

LP: 427 485-1

CD: 427 485-2

※ライヴ・レコーディングの表示があるが、本ディスコグラフィでは12月27日から31日の録音とする。12月30日と31日にプロコフィエフの『古典交響曲』とのコンサートがある。映像はジルヴェスター・コンサート(31日)のライヴである。



▲427 485-1(チャイコフスキー: ピアノ協奏曲第1番)

ーン po.

▶1988年8月15日(L)ザルツブルク, 祝祭大劇場

EP ギュンター・プレースト

ミシェル・グロツ

ギュンター・ヘルマン

M 419 241

CD: F32G 20289, POCG 9049-51, POCG 1346

[第2楽章]

CD: POCG 1926

LP: 419 241-1

CD: 419 241-2

[第2楽章]

CD: 447 070-2

⑪ブラームス／交響曲第3番ハ長調作品90

■ベルリン po.

▶1988年10月ベルリン, フィルハーモニーザール

EP ギュンター・プレースト

ミシェル・グロツ

ギュンター・ヘルマン

M 427 496

CD: F00G 20426, POCG 1382

[第2楽章]

CD: POCG 3441

LP: 427 496-1

CD: 427 496-2, 427 602-2

[第2楽章]

CD: 445 282-2

※初出は83年2月の『悲劇的序曲』が再びカップリングされた。

⑫ブラームス／交響曲第4番ハ短調作品98

■ベルリン po.

▶1988年10月ベルリン, フィルハーモニーザール

EP ギュンター・プレースト

ミシェル・グロツ

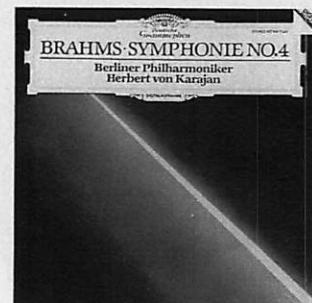
ギュンター・ヘルマン

M 427 497

CD: F00G 20427, POCG 1381

LP: 427 497-1

CD: 427 497-2, 427 602-2



▲427 497-1(ブラームス: 交響曲第4番)

⑬ブルックナー／交響曲第8番ハ短調(1890年ハース版)

■ウィーン po.

▶1988年11月ウィーン, ムジックフェラインザール

EP ギュンター・プレースト

ミシェル・グロツ

ギュンター・ヘルマン

M 427 612-3

CD: F00G 20438-9, POCG 4133-4

CD: 427 611-2

[マトリックス番号・追加/配列変更]
1942年10月のEIAR (トリノ放送) 交響楽団とのモーツァルト/交響曲第40番のマトリックス番号を追加いたします。

1946-51
同一セッション内でモーツァルトの三大交響曲を録音しているが日付が確認できず、レコード番号順に配置しましたが、第40番のマトリックス番号が確定し、この番号で3曲がつながることから、録音順は第35番・第40番・第41番と推定でき、配列を変更・訂正いたします。

[訂正・削除]

1973年2月13~16日録音のマーラー/交響曲第5番の録音会場をフィルハーモニーザールよりターレム、イエス・キリスト教会へ訂正いたします。また、76年9月のシベリウス/管弦楽曲集の収録月日を《フィンランディア》と《トゥオネラの白鳥》を9月に残し、《伝説》と《タビオラ》の2曲を同年の12月28~29日に変更いたします。《トゥオネラの白鳥》の12月データは削除いたします。

1939年4月録音のワーグナー/楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》第3幕前奏曲のマトリックス番号を次のように訂正いたします。

M1115-6



第I期 91年8月号~92年9月号
(1938年12月~64年2月)
第II期 93年4月号~94年3月号
(1964年3月~73年3月)
第III期 94年5月号~94年12月号
(1973年3月~79年11月)
第IV期 95年8月号~96年4月号
(1979年12月~89年4月)

▶1952年1月26日(L)ミラノ、スカラ座ホール

CD: LCD 197

※終幕に2分間の欠落があるため、1960年のザルツブルク音楽祭におけるカラヤン指揮の同曲上演の同じ部分をつないでいる。

◎フンパーディング/歌劇《ヘンゼルとグレーテル》(ハイライト)

■エリーザベト・シュヴァルツコップ(S: グレーテル), セーナ・ユリナッチ(S: ヘンゼル), ヴィットーリア・パロンビーニ(Ms: 魔女), ロランド・パネライ(Br: 父親ベーター), ブルーナ・ロンキーニ(A: 母親ゲルトルーナ), ローマ放送cho., ローマ放送so.

▶1954年12月25日(L)ミラノ、スカラ座ホール

CD: LCD 197

◎バルトーク/カンタータ・プロファナ Sz.94

■アントニオ・ピリノ(T), マリオ・ポリエロ(Br), イタリア放送so.

▶1954年(L)ローマ

CD: NAS 2508

◎ブルックナー/交響曲第7番木調より第2楽章

■ウィーンpo.

▶1964年7月1日(L), アムステルダム

LP: 109479-80L

※オランダ放送制作による「64年オランダ音楽祭」ライブ録音盤。

◎モーツァルト/歌劇《ドン・ジョヴァンニ》より、レチタティーヴォ「あの間抜けからやっと自由になれたね」、二重唱「あそこて誓いをかわそう」(第1幕第9場)

■ミレラ・フレニ(S: ツェルリーナ), ニコライ・ギャロフ(Bs: ドン・ジョヴァンニ), ウィーンpo.

▶1968年7月26日(L)ザルツブルク、祝祭大劇場

CD: ORFEO C394 301B

◎①バルトーク/ピアノ協奏曲第3番 Sz.119②シューマン/交響曲第4番二短調作品120

■ゲーザ・アンダ(p/①), ドレスデン国立歌劇場o.

▶1972年8月13日(L)ザルツブルク、祝祭大劇場

芸術監督: ゴットフリート・クラウス
録音監督: ハンス・ザックス
バランスEヨーゼフ・スラトコ

CD: 447 666-2

①

CD: NAS 2508

◎ヴェルディ/歌劇《トロヴァトーレ》

■ビエロ・カッパッチリ(Br: ルーナ伯爵), レオンティン・ブライス(S: レオノーラ), クリスタル・トヴィヒ(Ms: アズチーナ), ルチアーノ・パヴァロッティ(T: マンリーコ), ジョゼ・ヴァン・ダム(Bs: フェランド), マリア・ヴェヌーティ(S: イネス), ハイッツ・ツェドニク(T: ルイス), カール・カスラフスキー(Bs: 年寄りのジプシー), エーヴァルト・アイヒベルガー(T: 使者), ウィーン国立歌劇場cho., ウィーンpo.

▶1977年5月(L)ウィーン、国立歌劇場



▲427 635-1(ヴェルディ: 歌劇《仮面舞踏会》)

◎ブルックナー/交響曲第7番木調(ハース版)

■ウィーンpo.

▶1989年4月18~23日ウィーン、ムジークフェラインザール

EPコード・ガーベン

PMシエル・グロツ

Eグンター・ヘルマンズ

M429 226

CD: POCG 1005, POCG 9311, POCG 9771

LP: 429 226-1

CD: 429 226-2, 439 037-2



▲429 226-1(ブルックナー: 交響曲第7番)

補 追・訂 正

◎R.シュトラウス/楽劇《ばらの騎士》

■エリーザベト・シュヴァルツコップ(S: ウェルデンベルク侯爵夫人), オットー・エーデルマン(Bs: オックス男爵), セーナ・ユリナッチ(Ms: オクタヴィアン), エーリヒ・クンツ(Br: ファニナル), リーザ・デラ・カーザ(S: ソフィー), ジャーマイラ・バートン(S: マリアンネ), エルセ・シュアホフ(A: アンニーナ), エーリヒ・マイクート(T: ヴァルツァツキ), オットー・ウィナー(Br: 警部), ユグ・キューエノー(T: 伯爵家の家令), ルチアーノ・デッラ・ベルゴラ(T: ファニナル家の家令/召使い), ヨシツィ・トローヤン・レジャール(T: 料理屋の主人), ブルーノ・フルヒティンガー(Bs: 公証人), アントニオ・ピリノ(T: 歌手), マリエラ・アダーニ(S: 貴族の孤児), イルヴァ・リガブエ(S: 貴族の孤児), ルイザ・ヴィッラ(Ms: 調髪師), ジュゼッペ・ネッティ(T: 動物売り), ジノ・デル・シニョーレ(T: 召使い/給仕), アッティリオ・バルベージ(T: 召使い/給仕), パオロ・ペダーニ(T: 召使い), フランコ・タイノ(Bs: 給仕), エンリーコ・カンビ(Bs: 給仕), ミラノ・スカラ座cho., ミラノ・スカラ座o.